#### 一文 芸一

### 草の丘

第 23 号



2022年 12月 印旛文学の会

URL http://bungeikusano-oka.raindrop.jp/

#### 文芸

草の丘 第二三号 (二〇二二年 十二月)

## 目次 草の丘 第二三号

《詩》

命~ミッション 武器を捨てて 安達 真魚 ………… 中川 とら ………… 三

ひなげしの花

《エッセイ》

トワイライト世代

畑中 康郎 ..... 八

安達 真魚 …………

四八

映画の感想と書評、時事評論五編

畑中 康郎 ..... 六六

「伊能忠敬と四人の妻」の連載を終えて

香取 淳 …………

九〇

《執筆後の所感》



## 武器を捨てて

中川とら

「始めに武器を持ったのはそちらだ」

「いや、罪なき友を殺した暴挙は許さない」

「戦争を広げようとしているのは

過去も現在もあなただ」

こんな結果になってしまった原因は、

一体、何だったのでしょう。

どちらが悪かったのでしょうか

「それは、真赤なウソだ。世界中が分かっているよ

暴君!」

巷には殺されていく生命が

無残にも増え続けている

いがみ合い、憎しみ合う心は増大し 今となってはもはや闇の中

 $\equiv$ 

どちらが加害者でどちらが被害者か

どこで道を間違えたのか、失ったのか

はたまた

巷には殺されていく生命が

無残にも増え続けている。

今となっては混沌として誰も判別できない。

武器をもって襲いかかる者達に

武器で抗っても

生命の尊厳は守れない

非道な制裁で苦しめ合っても

活力のある希望の現実は勝ち取れない

勇気をもって武器を捨て

話し合いの道を見つけてほしい

慈しみの目で

生きようとする人々を見つめてほしい

私達は同じ奇跡の惑星で生きる

かけがえのない友なのです。

自身のため人類のため

どうか、手を結んでください

 $\Diamond$ 



越後湯沢の紅葉(2022.11)

どこかで見た道筋

移り変わるスペクタクル

夢の中の街角 作り変えたすじがき

問いかけてくる。そう、昔のように 昔のいでたちで

君が現れて

空虚でうつろな すぐに消えていく人の憂い

After image in a dream 夢の中のストーリー

理解できない言の葉 夢の中で語りかける

途方もないフィクション

ありえない波乱の中

# トワイライト

僕は引き下がり 遠くでこまねいて

平気な顔で そう、昔のように

空虚でむなしい いまや重なってる過去と未来

Double image in a dream 夢の中のストーリー

もうたそがれどき 今日の終りも近い

夕焼けに浮かぶ

山並みシルエット

夜の闇がせまる 薄明り輝いている

これまでの夢は

もう満たされている

トワイライト 西の空陽は落ちる

今日のつたなさは 明日乗り越える

空虚で悲しい それはいじらしく胸が痛む

夢が醒めないように 君だけ追い続け

見続けていた。そう、昔のように

Empty image in a dream 夢の中のストーリー

街の通りの灯 感じるあたたかさ

もう染まっている

君の横顔は薄紅に

夜のとばり下りる 街はイルミネーション

これまでの不幸は もう忘れかけてる

どこまで戦えば 平穏なときが

どこまで傷つけあえば

おだやかな日々が

トワイライト 今日も1日が終わる

今日のはかなさは 明日乗り越える

富士を仰いで 唇噛みしめる

トワイライト(西の空陽は落ちる)

今日のつたなさは 明日乗り越える

想いはいつまでも 心のなかに

想いはいつまでも

どれほど争えば 安らかなときが

隠せない悲しさ

数えきれない失ったもの

つらぬいた覚悟

矢のような時の流れ

かけぬけた山や川

どれほど討ち果たせば、静ひつな日々が

駿河の海を(遠くに見渡して

想いはいつまでも

哀れむままに

こみ上げる寂しさ

逝ってしまった数多の同志

よみがえる記憶

5

想いはいつまでも 心のなかに

想いはいつまでも 哀れむままに

## ももへの手紙

ありがとう

長い間ありがとう

あなたは、とても手のかかる子でした

もう何回、人を噛んだでしょうか

寂しがり屋の子でしたわがままな子でした

あなたはどこから来たのでしょう

奈良県でしたね、大和の国でした

故郷では生まれたばかりで、ずいぶん怖い目にあっ

たのでしょうか

警戒心の強い子でした

外に連れ出すと、いつもびくびくして、震えが止ま

らなかったですね

家の中では、いつも一緒でしたね

食事のときは、リビングへ

デスクにいるときは、足元に

寝るときは、寝室に

東日本大震災のときも、一緒でした

その後の余震のときも、いち早く寝室へ逃げて行き

ましたね

地震は人間より早く察知していました

テレビの警報の音にも敏感でした

ウンチの始末も大変でしたトイレはお粗相が多くて、手がかかりましたあんパンと干し芋のおやつが大好きだった

最後は、咳が止まらず苦しかったね

でも、よく頑張りました

十四歳七ヶ月の命だったけど、ずっと家族みんなを

癒してくれました

励ましてくれました

ほんとに、ほんとに、ありがとうもうゆっくり休んでいいんだよでも、もうひとりで留守番しなくていいんだよ



## ひなげしの花

### 畑中康郎



### 【プロローグ】

たとき懐かしさだけで胸がいっぱいになった。 きだった。久々に青山から樺澤のことで電話が入った。青 ○年に及ぶ。しばらく没交渉だったが、やはり名前を聞い 山も樺澤も学生時代からの親友であり、彼らとの交友は五 青森で定年退職となり、東京に転居して五年が経ったと

う。しかし樺澤のことだから、全身全霊で純子さんを愛し と交流することが好きで、優しい人柄の樺澤が子ども好き ほど意外ではなかったものの、やはり僕の人生に特別関わ た。樺澤が肺がんで亡くなったというのだ。高齢だけにさ 想像では、二人の間で子どもの話題は何度か上がったと思 を純子さんとどう過ごしたのか、僕が知る由もない。ただ でないはずがなかった。そんな樺澤が子どものいない生活 で通したのだが、一方の樺澤はどうだったであろう? 人 った人物だったから衝撃は一通りでなかった。 だが、そのときの電話は僕のすべての力を奪うものだっ すぐに樺澤の人生を考えた。僕はある理由で生涯を独身

たことだろう。

8

イバシーには触れないようにしてきたのだった。 僕と樺澤はあのとき以来、 お互いの約束でお互いのプラ

勿論、 らしい。 さんに会いたくなかったのだ。 ている時節のため葬儀は身内だけで、と喪主が言っている 子さんのことだった。しかも、コロナ禍で外出が制限され は僕と樺澤の間に起きたことを何ひとつ知らなかったのだ。 青山が「葬儀には二人して出席しよう」と言った。青山 コロナを口実に出席を遠慮できる。やはり、僕は純子 僕も出席を考えた。が、頭に浮かんだのはやはり純 樺澤の弟が喪主なのだ。そうか、それなら丁度い

その一方で僕は喪主が純子さんでないことを奇妙に感じ

「 え ? 喪主は奥さんの純子さんではないのか?」 た。

主は無理だと思うよ」 「それが、純子さんはかなりひどい認知症らしいんだ。

喪

1

があった。

残酷な奴か。寂しい思いに瞬時捉われた。が、 の純子さんではなくなっている。これが時間の経過という してもいいかなとも思った。 僕はそれでまたショックを受けた。あの純子さんも当時 反面で出席

「そうか…。それはともかく、喪主がそう言っているのか。

それじゃ我々の出席は無理だな」

「いや、俺たちは親友だろう、線香の一本ぐらいはあげた

いよ

「ということは、青山は行くんだな」

「ウン、それで仲のよかった奥原も誘って二人で、と思っ

てな」

僕は即答を控え、

と言って、電話を切った。 「少し考えさせてくれ、腹が決まったら改めて電話するよ」

七月の蒸し暑かったある晩、僕の運命を大きく変えた出会 五〇年前、大学生活も終盤を迎えた四年生のときだった。

近くにスナックバーが新規に開店したと言うのである。 山は別の仲間との飲み会の後、 それは仲間の青山がもたらした情報から始まった。 独り酔った勢いでスナック 寮の

けのテーブル席が三つあるだけの小さな店だった。のドアを開けた。L字型のカウンター席が五人分、二人掛

助定を払う段になって、彼は懐を心配したらしいが、良いのなら行ってみるか。それでどうなんだ? いい女でもけだ。樺澤は僕や青山より二歳年上で、二浪して入学したになど行ったこともないのだが、口だけは一人前だった。 になど行ったこともないのだが、口だけは一人前だった。 いのなら行ってみるか。それでどうなんだ? いい女でもいるのか?」

いなかった」料理を作り、酒を出していただけだな。店の人は他に誰も「いや、悪いけど俺が行ったときは、品のいいばあさんが

「そうだな、多分、あれで五〇をちょっと過ぎたくらいだだ?」

持ちはよくわかる。

「とは、限らないぞ。実はな、帰り際、外に出たら店の二「じゃ、やめようぜ。ばあさんと話したってつまらないよ」

ろうな」

ょっとしたらばあさんの娘かもしれないぞ」階の窓から若くて綺麗な女が顔を出したんだ。あれは、ひ

人に見えるもんだよ。夜目遠目って言うじゃないか」「ちょっと待て。外は暗かったんだろ?「暗ければ、皆美

「いやそうじゃないな。俺は目がいいんだ。彼女はかなり

の美人だな」

その娘と話がしたいしな」「わかったよ。青山がそこまで言うんじゃ、行ってみるか。

僕は青山と樺澤の言葉でその気になり、その晩、三人で

出かけた。

ト曲から命名すれば店も繁盛するとの考えだった。その気大ヒットした『ひなげしの花』から命名したようだ。ヒッし』と書かれていた。その年、アグネス・チャンが歌って店の前には、明かりに浮かんだスタンドがあり、『ひなげ

僕を挟む形でカウンター席に座った。を見たが、青山が噂した若い女性の姿はなかった。三人は、ママと思しき女性が独り、開店の準備をしていた。店の中八時頃店に入ると、客はまだいなかった。早すぎたのだ。

マがお絞りを出したとき、僕が訊いた。

ママさん、この店、いつ頃出来たの?」

出来たばっかりなんですよ。開店してひと月かしらね。

どうぞ、ごひいきにね」

寮があって、酒好きの学生が沢山いますから。安ければ、 「安くしてくれたら、繁盛すると思いますよ。近くに学生

僕が仲間を引っ張ってきますよ」と僕が言うと、 「あら、そしたらあなた方、K大学の学生さん?」

全国的に多少は名の知れた、僕らの大学の名をママが口

「そうです。女に飢えた、そこの学生です」

青山が口を挟むと、ママが笑った。

「ここにも、女はいますから、気軽に来てくださいね」

青山はそれには応えずに訊いた。

「ママさんの他に、若い女性がいるでしょ? 俺、 この前

来たとき二階から顔を出した娘さんらしい人を見たんだけ

ど、その人、今日います?」

ママの勢いが少し鈍った。

若い人たちには、 私のような年増ではやはり人気がない

わね」

僕がママに助け舟を出した。

のような社会経験がないから、 「そんなことないですよ。世間知らずの我々にはママさん 勉強になります。いろいろ

教えてください」

識ではなかった。彼女はまだ十分に魅力的だった。彼女だ ママは、心の内でがっかりしたのでは、と後で思った。が、 って女性として見られたいだろう。僕は気が回らなかった。 ママの女性としての本当の魅力は、むしろ人生経験や知

そこはやはり大人だった。

「そうね。あなたにはいろいろ教えてあげてもいい さらっと受け流してくれた。すると青山が今度は口を尖 わね」

らせた。

「俺にも教えてくださいよ」

「あら、私、急に人気者になったわね。 いいわよ。 訊いて

くれたらいろいろと教えるわ.

僕はママに好感を持った。

澤や青山は、 それからは独りで『ひなげし』に通うようになった。樺 若い女性に会えなかったためか、自然と足が

何らかの配慮があったのかもしれない。

芝学生の僕でも通えたからだ。あるいはママの僕に対するかに期待していたのかもしれない。それと料金が安く、貧輩の貴重な話が聞けると思ったし、あるいはそれ以外の何遠のいた。僕はかなりの頻度で通った。社会を経験した先

国有数の大企業だった。
やすでに内定した会社のことまで話した。その会社はわがた。鹿児島にいる両親や兄のこと、育った環境、将来の夢はいつも客はいなかった。ママとはいろいろなことを話し僕が店を訪れるのは、大抵、夜の早い時間帯で、店内に

が安らいだ。
当の母親のような気がした。実際、彼女と話していると心当の母親のような気がした。実際、彼女と話していると心応児島の母はまだ健在だったが、そのときはママの方が本のどこかに、美しい娘の影がちらつかなかったとは言い切のどこかに、美しい娘の影がちらつかなかったとは言い切が安らいだ。

心配顔になった。さいは娘さんのことになると、いつもさんのことだった。ママは娘さんのことになると、いつも一方、僕もプライベートなことを聞き出した。多くは娘

だけで男性を遠ざけるようになってしまったのね」器量よしだから男性に人気があったのに、失恋を一度した「あの子には男運というものがないのよ。気立てはいいし、

娘さんの名は純子といった。彼女は銀座の婦

人服専門店

男性を理解するのに丁度いいのだが、ママの思い通りにはもダメだった。店の客たちは酔うと大抵本音を語るから、手伝いを頼んでも決して顔を出さなかった。酔客が苦手なで接客の仕事をしていた。その純子さんだが、ママが店の

こればっかりは難しいわね」「私もね、早くあの子に幸せをつかんでほしいのだけれど、

いかなかった。

マが意外なことを言い出したのだ。くて黙った。ところが、あるとき、事態は急展開した。マーいつも溜め息だった。僕も何を言えばいいのかわからな

「ねぇ、奥原さん。お願いがあるの。純子と一度会ってく

ださらない?」

り四つ年上の二六歳と聞いており、そのときは縁のないも僕は面食らった。すでにママから純子さんの年齢が僕よ

のと思っていた。

僕はやんわりと断ったつもりだった。しかしママは何で「僕のような若造に純子さんの心の傷は治せませんよ」

もないように笑った。

と会う気になるかな?」
「だったらいいですけど。でも肝心の純子さんが僕なんかの。言ってみれば勉強ね。だから気楽に考えてほしいの」男性と少しでもお付き合いができればいいかな、と思った男性と少しでもお付き合いができればいいかな、と思った「そこまで奥原さんに求めないわ。そうじゃなくて、若い

私、嬉しくってね」いと言い出したのよ。やっとその気になってくれたから、なたのこと話してあるの。そしたらね、珍しく会ってもい「嬉しいわ。会ってくださるのね。大丈夫、あの子にはあ

会社名に惹かれたのかもしれないと思ったのだ。はゲスの勘繰りをした。通っている大学の名前と内定した僕は押し切られた。どうしてここまで強引なのか? 僕

突然の思ってもいない成り行きに、正直、僕の胸はドキ

うはもう帰っているの」

まだ他のお客さんがいないから、純子、呼ぶわね。

きよ

好感を持ったのかもしれない。たからだ。ママは、ひょっとしたら僕のそんなところにもし、第一、女性に対して勇気がなく、扱いにも不慣れだっドキした。何故なら、彼女いない歴が間もなく三年だった

りてきた。純子さんは始めから僕と会うことを想定していたように思う。化粧を施していたし、外出着のままだった。 洗練され成熟した大人の雰囲気だった。 そのうえ、彼女を見た瞬間の感動は、今になっても忘れられない。女子学生にも見られない落ち着きだった。 それは同級の女子学生にも見られない落ち着きだった。 そのうえ、彼女女子学生にも見られない落ち着きだった。 そのうえ、彼女女子学生にも見られない落ち着きだった。 そのうえ、彼女女子学生にも見られない落ち着きだった。 そのうえ、彼女女子学生にも見られない落ち着きだった。 そのうえ、彼女子学生にも見られない落ち着きだった。 そのうえ、彼女を見いた。 は、外出着のままだった。

位に立てると思った。 瞬間に、僕は彼女に優越感を持った。何となく、自分が優彼女の僕に対する視線は初対面のそれではなかった。そのに頬をかすかに染めた。すでに陰から僕を見ていたのか、ママが僕を紹介した。純子さんは、そのとき、俯き加減

ら安心だし、真面目にお付き合いしていただけると思ったてほしいの。勿論、結婚前提ではないのよ。あなただった「奥原さん、固くならずに自然体でこの子とお付き合いし

僕はそのとき、ママが純子さんを僕と結婚させたいのだ

と思った。

だけるなら光栄です」

「わかりました。こんな綺麗な女性とお付き合させていた

ということだ。

僕は無難な受け答えをした。僕たちの交際は、こうして

始まった。

て、何も知らない子供をリードするような感覚だった。で、何も知らない子供をリードするような感覚だった。とうとするのだ。僕は気疲れを感じた。そのうえ、いろいろと僕に注意した。僕が学生で未熟だったから、早く一人ろと僕に注意した。僕が学生で未熟だったから、早く一人の社会人になるよう必要な知識、嗜み、挙措振る舞いなどを教えようとしたのだろう。とくに食事マナーや服装やどを教えようとしたのだろう。とくに食事マナーや服装やごを教えようとしたのだろう。とくに食事マナーや服装やどを教えようとしたのだろう。とくに食事マナーや服装やどを教えようとしたのだろう。とくに食事マナーや服装やどを教えようとしたのである。

ちな、闇雲に女性にのめり込んでいくタイプではなかったがある。だから今思い出してみると、僕は若い男に有りがの約束をするのだが、約束をせずに半月ほど放置したこと彼女は決してそんな人ではなかったが、僕はバカにされてだがその意図がわかっていても、僕は不機嫌になった。

で事情を話した。すると彼は開口一番に言った。 とが彼にわかってしまった。仕方なく、樺澤に口止めをしは樺澤が取った。それで僕が純子さんと付き合っているこは樺澤が取った。それで僕が純子さんと付き合っているこは は ことに設置されていた。当初は居留守を使った。だが、時は各部屋に電話があったわけではなく、赤の公衆電話が時間ではないからない。当

「おい、それは危ないな」

僕にはその真意がわからなかった。

「どうして?」

ンチもいいところだな」
「どうしてって、お前ホントにわからないのか? 恋愛

なおも黙っていると、こう続けた。

まま行ったら危ないぞ」
傷つけないように、今のうちにうまく別れるんだな。このる気がないなら、もうこれ以上会わない方がいい。彼女を恐いのは、お前まだ二二だろ。で、彼女は二六だ。結婚す「彼女、お前に夢中だよ。お前と結婚したいと思っている。

尽くしてくれる女なんていうのも悪くない」をない、第一、男にが問題だよ。確かに彼女といると気づまりを感じることはが問題だよ。確かに彼女といると気づまりを感じることはが問題だよ。確かに彼女といると気づまりを感じることはある。でも、それだって結婚すれば変わるし、第一、男になが問題だよ。確かに彼女といると気づまりを感じることはわかっていた。で、彼女が結婚したい気持ちでいることはわかっていた。で、彼女が結婚したい気持ちでいることはわかっていた。で

るかもしれんぞ」
意識する人も出てくるだろう。今決めてしまったら後悔すい。これから嫌でもいろんな女性と出会う。中には結婚をとはない。だけど、これだけは言っておく。お前はまだ若「ふーん、そうか。お前がそこまで言うなら、何も言うこ

確かにそうだった。しかしこのまま別れるのでは、勿体

で考えていたに違いなかった。ない気もした。青春の一ページを美しく飾れると心の片隅

の印象を持ち帰った。
は事情を話し、僕の親友といろいろ話し、彼なりに彼女もらったらしい。純子さんといろいろ話し、彼なりに彼女で事情を話し、僕の親友という立場で純子さんに会わせてくの話を聞いた後、樺澤は『ひなげし』に行った。ママ

本当は、俺が付き合いたかったよ」
「奥原、お前はなんて運のいい奴なんだ。あれほど美人で、「奥原、お前はなんて運のいい奴なんだ。の出だとか、就職した会社が大きいからではないわ。平凡でもいいの。彼と一緒なら、辛い人生でもはないわ。平凡でもいいの。俺、感動したよ。彼女、本当にま前のことが好きなんだよ。彼女を大切にしてくれよな。本当は、俺が付き合いたかったよ」

樺澤は本気だった。

だ体の関係がなかった。あれほどの美しい女を目の前でた命さにもようやく慣れた。ところが関係は深まったが、ま一交際が四ヶ月を過ぎ、師走を迎えたころ、彼女の一生懸

た。 だ眺めているだけでは物足りない。彼女を抱きたいと思っ

に言った。
過ぎたように思う。アルコールの入った勢いで、僕は唐突すべてが幸せそうに見えた。ワインもおいしく、つい飲み層ビルから見える夜景も美しかったし、周囲の恋人たちも層の晩は、クリスマスで独特の雰囲気だった。新宿の高

「ねぇ、僕たちまだ一度もないよね」

彼女はすぐに、僕の考えていることがわかったようだ。

急に黙ってしまった。

のになった。暫らくして、彼女は振り絞るように小声で言彼女は俯き、二人の雰囲気は今までにない張り詰めたも「恋人同士が何もないというのはおかしいと思わない?」

「私、こんなこと結婚するまでしたくない」

った。

に抱きたくなり、それでつい口走った。ってもいいじゃないかと思った。拒絶されると今度は無性か? 僕は反発を覚え、それなら尚のこと、体の関係があこんなこと? それに何だ、結婚が近いと思っているの

「そうか。嫌ならいいよ。もう別れようか」

ていた。 に深刻だった。 しになりそうだった。 しになりそうだった。 しいしここで負けたら今後の付き合いに なった。 僕の気持ちも萎え、せっかくのクリスマスが台無なった。 僕の気持ちも萎え、せっかくのクリスマスが台無なった。 でが、、まったく元気がなく でが、まったく元気がなく

溜め息をつくように

取り、一夜を共にした。
「わかったわ。贅沢だったが、新宿の高層ホテルに部屋をあなのか、僕には理解できなかった。だが、とうとう僕たのなのか、僕には理解できなかった。だが、とうとう僕たのなのか、僕には理解できなかった。と言った。

ながらも僕の髪を撫でてくれた。彼女は優しかった。て思った。純子さんはベッドの上で固さと恥じらいを見せ子さんのときはセックスがこれほどいいものなのかと初めだけあり、ずっと年上の女性との間で経験したのだが、純僕は感動した。幼稚なセックスはかつて高校生の頃一度

その体験があってから、

彼女は今まで以上に僕を頼るよ

うになった。た。ホテルの中でも少しずつだが、やっと笑顔を見せるよた。ホテルの中でも少しずつだが、やっと笑顔を見せるよトの度に、僕がラブホテルの方に向かうと黙ってついてきうになった。僕の言うことに何でも従うようになり、デー

そうだったが、僕には何も言わなかった。てからは、行為の後、そのままそこで別れた。彼女は悲しで送り届けてから別れたのだが、ホテルに行くようになっそれまでは会うと必ず食事をし、彼女を自宅スナックま

た。別れたら自由になれるだろうなとそのとき思った。はわずかになっていたが、彼女は寮に電話をかけてきた。会にたくない日もある。会わない日が一日でもあると、夜会いたくない日もある。会わない日が一日でもあると、夜の遅い時間であっても、彼女は寮に電話をかけてきた。会然がと不安になるのだろう、声だけでも聞きたいと言った。度を超えていた。寮で噂になることを次第に恐れ始めた。度を超えていた。寮で噂になることを次第に恐れ始めた。別れたら自由になれるだろうなとそのとき思った。

出席要請がきた。大阪本社からだった。研修テキストも送丁度その頃だった。内定している会社から入社前研修の

しばらく会えなくなるよ、と純子さんに伝えたとき、彼子さんを考える余裕が徐々になくなっていた。られており、事前の勉強が必要だった。正直なところ、純

すぐ彼女は涙目になった。会って、と電話で訴えてきた。仕方なく会ったが、会うと女は極度の不安に陥った。ほんの少しの時間でもいいから

「もう会えなくなってしまうの? 私恐い」

そんな言葉を聞くと、それこそ僕の方が恐くなった。

慰めるように言うと、彼女の目から涙が溢れた。僕は彼「そんなことないよ。入社後、君を大阪に呼ぶからね」

女を不安な思いで見つめた。

電話で約束した。立った。彼女には、落ち着いたらすぐに呼び寄せることを立った。彼女には、落ち着いたらすぐに呼び寄せることを三月には大学を卒業した。そして入社のため大阪へと旅

人は別々になった。会社の電話番号を教え合ったものの、

樺澤は東京都内、

青山は仙台の会社に就職が決まり、三

それぞれ忙しく、しばらくして疎遠になった。

四月初めに大阪で入社式があり、それから先はますます

ったく忘れてしまった。そのときの僕には女性を思い遣る会人として真剣な勉強が必要だった。純子さんのことはまだったし、覚えなければならないことが山積していた。社多忙になった。なにしろ、やることが初めてのことばかり

仕事に没頭せざるを得なかった。 仕事に没頭せざるを得なかった。 仕事に没頭せざるを得なかった。 仕事に没頭せざるを得なかった。 位事に没頭せざるを得なかった。 位事に没頭せざるを得なかった。 位事に没頭せざるを得なかった。 位事に没頭せざるを得なかった。 他事に没頭せざるを得なかった。 他事に没頭せざるを得なかった。

期間があってもいいと思った。
ったのかもしれない。言い訳がましくなるが、多少の冷却ったのかもしれない。言い訳がましくなるが、多少の冷却った。悪気はまったくない。心に余裕がなかったからだ。新しい住居も決まった。しかし純子さんには知らせなか

僕のところに、玄関受付から内線電話が入った。 五月初めのことだった。営業に出かける準備をしていた

「あのー、受付に平野さんという女性の方がお見えですが

:

優しさも心の余裕もなかったのだ。

てもらってください」
「そんな女性知りません。何かの間違いと思います。帰っところが取った行動は、思いがけず真逆だった。
僕の心は激しく痛んだ。会わなければならないと思った。
受付の女性の怪訝そうな声が受話器から響いた。瞬間、

どうして、そんな冷酷なことが言えたのだろう? 自分でと僕は咄嗟に、自分でも予期しないことを言ったのだ。

もわからない。魔が差したと言うことなのか。

たという。薄化粧で地味な服装だったから、尚更、そんな社の玄関をひっそりと出て行った。生気が感じられなかっ僕の言葉に反論するわけでもなく、悄然と肩を落とし、会話では、純子さんはかなり思い詰めた様子だったらしい。はさすがに気になって、後で受付の女性に訊いた。彼女の純子さんは大変なショックを受けたに違いなかった。僕

取らなかった。 印象を与えたのかもしれない。僕はその後も彼女に連絡を いや、 正確に言うなら取れなかった。 怖か

ったのだ。

分の心が弱いことの言い訳だったと後に気付いた。 を理由にそのまま放置して三か月近くが経った。それは自 そろそろ会うべきか、と思ったりもした。ところが忙しさ つも彼女のことは気にはしていた。どうしているかな、

かった。それで僕の方から仕方なく声をかけた。 の伝言でわかった。しかし彼はすぐに話し出そうとはしな 由して電話が入った。樺澤であることは取り次いだ交換手 しばらくして、突然、 東京の樺澤から会社の交換台を経

ないかい?」 樺澤か? 久しぶりだなあ。今どうしている? 変わり

うして黙っている?\_ るのか、そのときの僕にはまったくわからなかった。 何だよ。自分から電話してきたのにどうしたんだ? それでも、彼は尚も無言だった。その沈黙が何を意味す

そのとき、樺澤はどう話すべきか迷っていたのだ。だが、

ついに口を開い

直入に言わせてもらう。平野純子さんが自殺を図った」 何から話していいのか、 急に目の前が真っ暗になった。僕はすぐさま 俺にはわからない。 だから単刀

驚愕した。

訊いた。 それで彼女、どうなった? 大丈夫なんだろう? 死んだ

訳ではないよな?」

ていたら、お前、ふつうでいられないぞ」 お前にとっても幸運だったな。彼女にもしものことが起き 「睡眠薬で自殺を図ったらしいが、発見が早く助かっ た。

違いない。僕は開き直った。どのように見られようが、僕 胸が締めつけられ、机の上に突っ伏した。感情が高まって 彼女はそんなことをした?だが原因は、勿論、僕だった。 彼女の心の傷だった。 が悪いことは間違いない。それよりも一番気になったのは しまい、嗚咽した。 は自分を人でなしと思った。 取り敢えず、命に別状はなかったようだ。だがどうして 同僚たちは困惑の目で僕を見ていたに 深い傷が残ってしまっただろう。

電話の向こうの樺澤からも次の言葉が出てこない。

沈黙の後、やっと言葉が出た。

隣の布団屋さんに訊ねたんだよ。そしたら…」
が気になった。それで、ママや純子さんの消息を知ろうと、っていたんだ。開店してまだ一年だろ、経営に失敗したのか気になった。それで、マや純子さんの消息を知ろうと、を誘って『ひなげし』にも行った。ところが、店はなくなかしくなったがでに、後輩と話がしたかったし、懐りに学生寮を訪ねたんだよ。後輩と話がしたかったし、懐りに学生寮を訪ねたんだよ。そしたら…」

そこで再び言葉に詰まった。

「そしたら?」僕は涙声で促した。

違いないと思ってな、それで電話したんだよ」ろだ。六月頃だよ。お前と親しかったから、原因はお前にったよ。お前が大阪へ行って、まだ二か月とちょっとのこ「純子さんが睡眠薬自殺を図ったと言うんだ。ショックだ

そこでわずかに間があった。

樺澤の問いに対する答えだった。樺澤が怒り出した。と訊いた。僕に答えられるはずもなかった。その沈黙がけど、まさか、お前が彼女に何かしたわけじゃないよな?」「だけど、そんなことはないと思うが、念のため訊くんだ

なんだ?お前は人でなしだ。彼女を追い詰めたのは、おあんなに素晴らしい人を!あんないい人を!どうしてだな!お前の話では、彼女、尽くすタイプの女性だった。危ないぞって。それをお前は軽く考えた。彼女を振ったん「そうか。やっぱりそうか。だから、お前に忠告したんだ。

反論がまったくできなかった。(僕は罵られ激しく動揺した。全身の力がすべて抜けた。

前だ!」

れまでのことを許してもらうんだ」に言っておく。彼女を捜せ、そして会いに行け。そしてそ「もう、お前とは二度と会わない。絶交だ。ただし、最後

で彼との付き合いは途絶えた。 横澤の電話は一方的に切れ、その後、僕から電話するま

とだけあった。そこには次のように書かれていた。は七月三〇日、青森となっていた。発信人は『平野純子 母』総務部気付で届いた。裏封筒には住所の記載がなく、消印しばらくして、追い打ちをかけるように、一通の封書が

『時候のご挨拶は省略させていただき、早速、純子のこと

から書きます。

私は震えながら読みました。ません。簡単な遺書があの子の部屋に遺されていました。状はありませんでした。でもまたいつ自殺を図るかわかり状はありませんでした。でもまたいつ自殺を図るかわかりあの子は自殺を図りました。睡眠薬自殺を図ったのです。

ごめんなさい』 『私は弱い人間でした。お母さんを遺して先に逝きます。

尽くすことで自分を振り向いてほしかったのだ、と私は思原さん、あなたとの関係がうまく行かなかったのですね。かの子を幸せにしてくれると思ったのです。でも、その思めの子を幸せにしてくれると思ったのです。でも、その思いができ、以前の明るい性格に戻ってくれることでした。おの子は幼い時に父親を亡くして、男性の愛情に強い憧れあの子は幼い時に父親を亡くして、男性の愛情に強い憧れあの子は幼い時に父親を亡くして、男性の愛情に強い憧れあの子は幼い時に父親を亡くして、男性の愛情に強い憧れるの子は幼い時に父親を亡くして、男性の愛情に強い憧れるの子は幼い時に父親を亡くして、男性の愛情に強い憧れるの子は幼い時に父親を亡くして、男性の愛情に強い値れるの子は幼い時に父親を亡くして、男性の愛情に強い値れるの子は幼い時に父親を亡くして、男性の愛情に強い値れるの子は幼い時に父親を亡くして、男性の愛情に強いですね。

っています。

れました。心に負った傷は、私の想像以上に深いものでし性の子を妊娠したものの堕胎を強いられ、その後、捨てらでした。辛い失恋を味わったのです。心から愛し信じた男あの子にとって、大きなショックはあの子が二一のとき

傷が出来たかもしれないと思うと心配でなりません。でも、あなたとお付き合いを始めた半年くらいで、すごとは何も聞いておりません。でも私にとって衝撃的だったことは、搬送された病院であの子のお腹にはあたらしいたことは、搬送された病院であの子のお腹にはあたらしいたことは、搬送された病院であの子のお腹にはあたらしいたことは、搬送された病院であの子のお腹にはあたらしいたことは、搬送された病院であの子のお腹にはあたらしいたことは、搬送された病院であの子のお腹にはあたらしいたことは、搬送された病院であの子のお腹にはあたらしいたことは「大力」とでした。あなたとお付き合いができたことは何も聞いておりません。でも私にとって、そのことが二重のダメージになったことは疑いようがありません。以前に増して心に深いったことは疑いようがありません。以前に増して心に深いったことは疑いようがありません。以前に増して心に深いったことは疑いようがありません。以前に増して心に深いったことは疑いようがありません。以前に増して心に深いったことが見いたが、あの子がありません。

お暮しください』
にやり直そうと思っています。あなたもどうか、お元気であの子が一刻も早く立ち直るように元気づけ、二人で一緒あの店を売り払い、生まれ故郷の青森に戻りました。

青森に行くことしかなかった。 僕は決心した。僕の人生に最も大切なことは青森で純子 青森に行くことしかなかった。 青森に行くことしかなかった。 青森に行くことしかなかった。 とは決心した。僕の人生は好がになる。 でと二人だけで暮らすという。 そこに僕が割り込むのだ。 など二人だけで暮らすという。 そこに僕が割り込むのだ。 ながて自分が蒔いた種だ。彼女の心の傷を癒すことが僕の生涯 というのために生きる。 今となっては僕の取るべき道は ながと高すことが僕の生涯

> 乗り越えねばならない。まず大学に入ったときに世話にな ない。会社からの反対もあるだろうし、 社勤めを続けることはなおさら難しい。会社に辞表を出す 間を要することが想定された。そうであるなら、大阪で会 のだ。反対が目に見えていた。 裕福でなく、無理をして大学に通う資金を出してもらった しかなかった。だが、これも簡単に事が進むとは考えられ 分を苦しめた男を誰が簡単に受け入れるものか。 彼女がすぐに許してくれるとはさすがに思わなかった。 僕は何も考えていなかった。 った二人の説得から始めねばならなかった。 青森に行くことにしたが、 青森に行ってどうするのか。 純子さんに会ったところで、 前途多難だった。 母親と兄の反対も 実家はあ 相当に時 まり

定、兄は開口一番に怒鳴った。
悲しむに違いない母親よりも先に兄から連絡した。案の

ここまで大きくなったと思っていたら大間違いだ。理由をる? 冗談も休み休み言え。何が原因なんだ。お前独りで「お前、何を考えている! せっかく入った会社を辞め

言ってみろ」

ねばならない。 僕は怒鳴られ、始めから怯んでしまった。しかし頑張ら

んだ。だから青森に行かなくてはならない」「どうしても結婚したい女性がいる。その人は青森にいる

ムダにしてどうするんだ。人生を棒に振るつもりか」辞め、あれだけ勉強を苦労してやっと入った大学の学歴を「お前はバカか。たかが女一人のために折角入った会社も

「その人と結婚できなければ僕の人生がダメになってしま

僕は本心を言った。本当にその時はそう思った。

るな」
だから後悔しないように俺は言っているんだ。会社は辞めい。いずれこんなはずじゃなかったと思い知る時が来る。「お前は結婚を夢見ている。現実はそんな甘いもんじゃな

分も理解できないこともない。だから困るのだ。しかしこ兄はまくしたてた。話にならなかった。しかし兄の言い

必ずいつかは分かってもらえる日が来る。そう信じて、一を切られても仕方ないと決断した。断腸の思いだったが、がダメになっても自分は彼女を取る。たとえ兄に兄弟の縁で僕の人生がダメになってしまう。仕方ない。兄との関係のままでは純子さんを廃人のままにしてしまう。そのこと

泣かれることを覚悟して、次は母親に連絡を取った。や方的に電話を切った。

「もっといい方法はなかったの。どうしても会社辞める「どうしてそんなことになってしまったの」。もう涙声だ。

はり母は泣いた。

対はしないよ。でもね、会社を辞めるのならしっかり生計の? それでも正がいいと思うのなら、母さん、なにも反

年に何回かは鹿児島に来ておくれ」を立てるのよ。そしてね、その純子さんという人を連れて

考えを認めてくれた。こうして僕は自ら選んで茨の道を歩

僕は勿論、そうするよ、と答えた。母は泣きながら僕の

くことになった。

を提出した。九月初めのことだった。ここまで来るのにや僕は行動を開始した。会社には直属の上長を通じて辞表

このまま行けばきっと安定した生活が保証される。ないはずがなかった。せっかく入った会社だった。そしてはりそれ相応の時間はかかったのだ。勿論、会社に未練が

担当者が些かきつい口調で言った。折れそうになったが、こらえた。次に人事部が飛んできた。上長から別室に呼ばれ、辞表撤回の説得を受けた。心が

かけるのだぞ」
がけるのだぞ。K大学の就職担当にも迷惑をけさせることになるのだぞ。K大学の就職担当にも迷惑をな簡単なことではないんだよ。君は会社に余計な手間を掛けている。君の抜けた穴も埋めなければならないが、そん「これまで奥原君には研修をはじめ、すでに相当な金をか

僕は申し訳ないとは思った。が、ここは勇気を奮った。

ろ髪を引かれる思いがした。「申し訳ないです。もう決めたことなので」と言った。後

を僕はしたのだ。人事担当は怒ったが、結局、諦めざるをどんな険しい道も乗り越える覚悟だった。それだけのことかなかったのだ。だが、今回は違う。純子さんのためならの指示通りに動く従順な人間だった。それだけの人間でしよくここまで言えたものだと思う。それまでの僕は会社

から、会社を辞めるのは比較的に容易だったのかもしれな得なかったようだ。新入社員という責任のない立場だった

誰からも見送りを受けない寂しい旅立ちだった。とれの独身寮で荷物をまとめた。まとめてみるとわずかな別間だった。営業の初歩とかマーケティング関係の本とか、会社の独身寮で荷物をまとめた。まとめてみるとわずか会社の独身寮で荷物をまとめた。まとめてみるとわずかまからも見送りを受けない寂しい旅立ちだった。

工事の人に訊いてみると、今後は学生相手の居酒屋になる速行ってみた。勿論、「ひなげし」はなく店は改装中だった。翌日、ホテルを出て、あの懐かしい「ひなげし」に早た。翌日、ホテルを出て、あの懐かしい「ひなげし」に早た。翌日、ホテルを出て、あの懐かしい「ひなげし」に早た。翌日、ホテルを出て、あの懐かしい「ひなげし」に早まず東京に出た。かつて住んでいた学生寮に近い安ホテまず東京に出た。かつて住んでいた学生寮に近い安ホテ

の過ちがなければ「ひなげし」は続いていたはずだ。ようだ。僕は胸が締め付けられるような気持になった。僕

た。話さなければ、平野さんの住所を教えてもらえるはずがちに自己紹介をし、純子さんとのいきさつを簡単に話して団屋の奥さんは西田さんといった。初対面の僕は遠慮

西田さんは僕に申し訳がなさそうに言った。

がない。

とおっしゃったの」
それが辛いから青森の住所申し訳ないけど教えられないわ、さんの年賀状でこの店のこと思い出してしまうと思うの。お付き合いをしましょうよ、言った時、平野さんね、西田おけらだったわね。私がね、これからも年賀状程度の

った。自分本位だったし、酷い男だと思った。甘く、人生のことが何も分かっていない、下らない人間だほどに辛かったのか。僕は甘かった。人間として何もかもやはりそうなのか、ママは今回の件が思い出したくない

そこで気づいたことは、ママからもらった手紙に青森鶴田しかなかった。とすれば、青森に直接行くしかなかった。布団屋さんから平野さんの住所を探り出すことは諦める

に出発することを決めた。から彼女たちの住所を探るしかなかった。すぐにでも青森の消印があったことだ。手紙の投函地であろうから、ここ

本屋で日本地図を立ち読みして青森鶴田を探した。北津本屋で日本地図を立ち読みして青森鶴田町はつがる市と五軽郡鶴田町のことだろうと思った。第1かりが何もないのだから、とにかくぶつかってみた。手がかりが何もないのだから、とにかくぶつかってみた。手がかりが何もないのだから、とにかくぶつかってみた。手がかりが何もないのだから、とにかくぶつかってみた。手がかりが何もないのだから、とにかくぶつかってみた。手がかりが何もないのだから、とにかくぶつかってみた。手がかりが何もないのだから、とにかくぶつかってみた。手がかりが何もない。僕はまずその駅を目指すことにしたいつの傷を癒し、幸せにしたい一心が僕に勇気をもたらしたと思う。

常に心細かった思い出がある。幸い駅近くに小さな交番がいたとき、外はもう真っ暗だった。大した街燈もなく、非のとき僕はまだ二三歳だったが、腰が痛くなった。駅に着のとき僕はまだ二三歳だったが、腰が痛くなった。駅に着上時間をかけて陸奥鶴田駅に到着した。さすがに疲労した。上野駅を午後二時に発った。九月一五日のことだった。

るものだと正直思ったものだった。 さんで、民宿を紹介してくれた。ついでにタクシーまで呼 あり、そこでその晩の宿を相談した。 んでくれた。地方の人の方が他人の身になって考えてくれ 初老の親切なお巡り

が開き、 吉田屋さんはふつうの民家を一年に一度、夏のシーズンだ 書いた「自助論」の文庫本一冊だけが入ったリュックを背 けを民宿として開放するらしかった。玄関の開き戸はすで ンがすでに終わり、町全体が閑散となり始める時期だった。 負い、なんとなく薄汚れた感じのスーツで玄関に立ってい に閉じられていたが、大声で、開けてくれるようお願いし 民宿は 僕は疲れており、すぐにでも床に入りたかった。 僕は身の回りの衣類と洗面道具、それにスマイルズが 穏やかな感じのおばさんが出てきた。 「吉田屋」と言った。そのときは夏祭りのシーズ 玄関

「あら、 どうされました?」

「しばらく厄介になりたいのですが、 空いている部屋あり

ますか?」

僕はみすぼらしく彼女に映ったらしい。

大丈夫? お疲れなんでしょう? まず上がって、 食事

いことだったが、

平野さんの所在を訊ねてみた。

でもどうですか? まだなんでしょ?」

惨めな顔をしていたのであろうか? でも僕は食事より休 どうして食事がまだであるとわかったのだろう。 空腹で

息を選びたかった。

「確かに食事はまだ今日はしていませんが、 まず先に眠

たいですよ」

「いいですよ。空いている部屋はあります。 でも若い 人は

まず食べなければダメですよ」

僕を疑うより僕の身体を心配している。

僕はこの女の人はいい人だなと思った。

突然やってきた

「そうですか。やはりまずは体力をつけることですか。

れでは何かいただきます」 そ

たところの二階奥に八畳の部屋があります。そこに行って 「それじゃ、ここの廊下をまっすぐ行って左の階段を上っ

くださいな。すぐに食事をもっていきますから」

僕には天国の味だった。 で出された食事は塩味の 僕は嬉しくなった。 いい人に巡り会えたと思った。 ついでに、実はこれが最も訊きた 少し利い た鮭のお茶漬けで空腹の そこ

純子さんとの詳しいいきさつは、勿論話さなかったが、「実は僕、今日大阪を発って人探しにここに来たのです」

胸は弾んだ。 田町のことなら何でも知っているといいたげだった。僕の身になって相談に乗ってくれた。彼女は顔の広い人で、鶴夕論、本当だった。吉田屋さんは世話好きな人らしく、親好きな人に会いたくてここまで来たと言った。嘘ではない、

頂ければ嬉しいです」が、それ以上はわからないのです。もしご存じなら教えてから鶴田町へ引っ越してきたところまで情報はあるのですのがらみの女性と二○代半ばの若い女性の二人が東京「五○がらみの女性と二○代半ばの若い女性の二人が東京

として平野さんのことかしらね」「ここら辺の人はお互いをよく知っておりますよ。ひょっ

僕は飛び上がらんばかりに気持ちが高揚した。

「そうです。その平野さんです」

を利いたこともあるし、家も知っとります」「あぁ、平野さんなら私と交流がないわけでもないわ。口

た。僕が場所を訊くと、僕は意外と早く平野さんにたどり着いた。奇跡だと思っ

げるわ」と言った。 「あぁ、それなら、明日にでもウチの車で乗せていってあ

でに与えようとしている。
「何ということだ。神様は僕に素敵なプレゼントをもうす

くまで連れて行っていただければそれで結構です」たいので、彼女たちには内緒にしていただいて、場所も近「有難いです。是非お願いします。でも平野さんを驚かせ

って田舎の人には珍しかった。く聞いてこなかった。世話好きなのに慎み深いところがあらしいが、僕の事情をわかってくれたらしく、それ以上深吉田屋さんは僕たち三人が再会するところを見たかった

翌日午前一〇時ころ、吉田屋のおばさんの運転で平野さ

ん宅近くまで案内してもらった。

「ほら、あの田んぼの向こうに小さな竹藪があるでしょ。

その家ですよ」

見ると、茅葺き屋根の小さな平屋が見える。

家を買い取ってそれを一般に売り出したんですよ。それを「なんでも、町が人口を増やす目的なんでしょうね、空き

平野さんが買ったわけね。もともとこの土地の人だったし、

丁度よかったんじゃない」

東京の店舗付き家屋を売却したお金で買ったのだろうか。東京の店舗付き家屋を売却したお金で買ったのだろうか。

僕は平野家の様子を遠くから見るようにそろそろと歩いきのでも見たかのようにしばらくそのままの状態だった。竹藪に差し掛かって、その陰から僕は見た。ママが庭見ていた。すると突然、ママは視線を上げ、僕の視線と交見ていた。すると突然、ママは視線を上げ、僕の視線と交見した。その瞬間の彼女の驚き方と言ったらふつうでなかった。唖然と表現した方がいい。目を見開き、この世にないものでも見たかのようにしばらくそのままの状態だった。やしてやっと口を開いた。

うしてこんなところに」「驚いたわ。本当に驚いた。奥原さん、どうしたの? ど

った。やっとこれだけ言った。 僕は何と言って挨拶したらいいか、正直全く分からなか

「奥原さんこそ、お元気そうで。で、会社はどうしたの。「お久しぶりです。とにかくお元気そうでなによりです」

そのラフなスタイルは何故なの?」

僕は突然胸が詰まった。会社のことを瞬時思い出したか

らだ。

「会社辞めて、青森まで来たってことはウチの純子のため「会社辞めちゃったんですよ。決心したことがあって」

「そうです。純子さんに会いたくて会社を辞めたんです」僕はこうなったら正直にすべてを話そうと思った。なの?」

「まぁ、なんてことを。まず家にお上がりになって」

子を持って茶の間に入ってきた。ママが座るのを待って開う方がいい。ママは台所でお茶を入れ、お茶と簡単な洋菓ったが、僕にはその方がよかった。まずママに訊いてもらママはそう言って、僕を家に上げた。純子さんは留守だ

「その節は本当にご迷惑というか、とんでもないことを純口一番に僕は言った。

きた心地がしないくらいに落ち込んでいました」子さんにしてしまってごめんなさい。以来、僕は毎日が生

った」も死のうとしたことは奥原さんとのこと以外考えられなかい子だから。何でも胸にしまって話さない子なんです。で「私は何もあの子から聞いていないんですよ。何も言わな

「純子さんとの事を詳しく話す前に彼女は今どうしていま

純子さんの所在が気になって仕方なかった。

すか?」

とは確かね。時々落ち込むことがあるけれど、まあまあ元「少し時間はかかったけど、今はだいぶ落ち着いてきたこ

「よかった。それで、今日は?」

気というところかしらね」

僕は正直に言った。の事務員をしていますよ。だから夕方五時まで帰りません」「町役場の交流館で簡単なお仕事が見つかって、今は役場

いんじゃないかしら」と言った。

からにしたいと思っています」な気がするんです。もう少しお互いの気持ちが落ち着いて「それはよかった。でもまだ彼女に会わない方がいいよう

になるかもしれないし」「そうね。あの子も急に奥原さんに会ったら、また気が変

肝心なことをママから訊かれた。いて、そこに荷物を置いていると説明した。それから最もそれで今どこにいるの?と訊かれたから吉田屋さんに

「それでね、奥原さん。あなた、純子とこれからどうするの? いえ、純子をこれからどうしたし、それですごく傷ついてでいた。だから彼女を妻にして、彼女を幸せにするしかなかった。それでその決意を述べた。するとママはいるのよ。自分も死のうとしたし、それでおいなを妻にして、彼女を幸せにするしかないるのよ。自分も死のうとしたし、それですごく傷ついているの。だから簡単にあなたとやり直すことなんてできないるの。だから簡単にあなたとやり直すことなんてできないるの。だから簡単にあなたとやり直すことなんてできないるの。だから簡単にあなたとやり直すことなんてできないるの。だから簡単にあなたとやり直すことなんてできないるのよ。

会社を辞めるなど恵まれた立場を一切捨て、彼女を捜してしは不可能と言う。到底受け容れられるものではなかった。となのだが、良心の呵責が僕を鋭く刺した。しかもやり直って大変な衝撃だった。妊娠までしていたのか。当然のこ予想していたとは言うものの、ママのこの言葉は僕にと

で自分でも気づかぬうちに大きくなっていたのだろう。僕のたかもしれない。しかし僕は強くなっていた。悩むこと僕なら、ここで簡単に彼女のことは諦めて鹿児島にでも帰落ち込んだ。以前の僕なら、つまりいい加減だったころのとママ自身が考えているとは。失望が大きく膨らみ、僕は青森まで来たのだ。それなのに僕とやり直すことが難しい

み、結婚しますよ」「ママ、僕は彼女を諦めません。何としても彼女の心を掴

はしばらく沈黙した後で言った。

いわ

めた口調でところが、ママは嬉しそうな顔をするでもなく、やや冷ところが、ママは嬉しそうな顔をするでもなく、やや冷

と言ったのだ。 せにできるかしら。今までの奥原さんと今は違うのよ」 でもね、無職の奥原さんに純子を幸

る。ここは一旦引き下がり、出直す必要を感じた。えなかったということだ。男には妻や家族を養う義務があた現在では、純子さんと安定した生活を送るための資格さ僕は迂闊だった。気持ちが先走り、無職になってしまっ

しばらくここには来ません。まず何らかの仕事先

- 「見つけることにします。それからまた来ます」

のママというのはもう止めにして。平野さんと言ってほしめたのが正しい判断だったか疑問が残るわね。それと、そ本当にうちの純子とやり直す気があったのなら会社まで辞し、就職した一流企業を辞めるなんてもったいなかった。

ものになったようだ。
いろいろなことがあった。前途は必ずしも楽観を許さない野さんにタクシーを呼んでもらい吉田屋に戻った。今日はじではなくなったことで僕は考え込んでしまった。僕は平平野さんの言葉に失望したことと以前のように親しい感

それと何かいい仕事先はないか訊いた。すると顔の広いお吉田屋でおばさんにこの地に定住することを知らせた。

ばさんは

ら」
よかったら、役場に応募して職員にでもなったらどうかし求めていることを近所の川田さんという人が言っていたわ。「そう、昨日だったかしらね、町役場で中途採用の職員を

の手ごろな一軒家を見つけた。

「何という偶然か、純子さんと場所は違うが、同じ役場での手でのよう。でも残り少なくなった金では不安だ。そこでまずだろう。でも残り少なくなった金では不安だ。そこでまずだるう。でも残り少なくなった金では不安だ。そこでまずがいまでがいら卒業証明を取るためにも住所が必要だった。おばさんから不動産屋さんを紹介してもらい、狭いが賃料をの手ごろな一軒家を見つけた。

けた。僕は面接官に訊かれた。 き競争率五倍。学科で六人に絞られ、数日後面接試験を受 試験は問題なく通過した。求人三人に対し応募一五人だか 書いて役場に提出した。そして二週間後、試験の日。学科 僕は早速願書を取り寄せ、卒業証明書とともに履歴書を

生をどうしようと思っているのかね?」の町役場に職を求めるなんて珍しいことだ。君は自分の人半年経たずに退社したんだね。そしてこんな東北の片田舎「君の経歴は立派だね。K大を出て一流企業に入社するも

よな。でも僕は後悔していない。純子さんという最愛の人僕は内心思った。それはそうだろうな。誰でもそう思う

慢する。と巡り会ったんだ。彼女の心をつかむためには何だって我

「私はこの町でどうしても片付けねばならない課題がある「私はこの町でどうしても片付けねばならない課題とです。それでは歌町役場の職員になろうと思ったのです」いことにする。それで仕事は何をまずやりたい?」いことにする。それで仕事は何をまずやりたい?」いことにする。それで仕事は何をまずやりたい?」して正直に言えば、人々の生活しやすいように縁の下で頑張りたい。そのためには役所のどんな仕事にも挑戦したい。それです。それで仕事は何をまずやりたい?」

君たちもこれでいいだろう?」「うん、正直だね。わかった。君との面接はこれで終了だ。

面接官は左右の二人の顔を見て、そう言った。

採用通知をいただき、それぞれの配属先を知らされた。僕考えられなかった。採用が決まった三人は、町の総務課でか一か月少し前に大阪にいた僕が青森鶴田町にいるなんて町役場採用が決まった。思えば不思議な運の巡りだ。まさ町役場の中途採用の合格発表は早い。一週間後には僕の

る。 だった。 起こしと夏祭りの企画、 は 地域交流 まずは来年の夏祭りを取り敢えずターゲットにす 誤課だっ た。 それを媒体によって発信すること 務は町興しだ。 町 Ò 特 産 物 0 掘り

一○月一日の勤務初日は各部署への挨拶回りだった。三純子さんのことは知らないのに不思議な巡りあわせだった。子さんと仕事で交流が生じるかもしれないのだ。誰も僕との内容が交流館と共通しているところがあって驚いた。純地域交流課への配属は人事課が決めたのだろうが、仕事

る態度が厳しくなった。何も話していないと思った。く聞いていないだろう。平野さんは僕の印象では僕に対す田にいることを聞いていれば驚きも小さいだろうが、恐ら出勤していれば必ず純子さんと会う。お母さんから僕の鶴人を人事課の職員が案内して回る。僕は胸がドキドキした。

いものを見るように僕の方に視線を注いでいた。交流館の彼女は僕をじっと見ていたのだ。そして体を硬直させ、怖いていたとき、僕は純子さんの視線を痛いほどに感じた。果たして、それは交流館に行ったときのことだ。純子さ

間を許す人間などそうはいない。しかしこれで諦めるわけ あれほどに深く心を傷つけ、 場を落としていたのである。予想しないわけでもなかった。 ざる人間だったのだ。僕は会いたくない人間としてその立 気持ちがわかった。 ちだったのであろうか。それはその後、すぐにわかった。 すべてを捨ててここにいるのだ。そうだ、これは僕にとっ にはいかなかった。 すぐにあり、僕も出席を求められたのだ。 たまたまだったが、 ないようにずっと俯いていた。彼女はそのときどんな気持 皆さんに僕が自己紹介をしていたとき、 かった。休暇を取ったというのだ。これで彼女のその時 交流館 僕は間違いなく、彼女にとって招 僕はそれまでの、 の関係する地域の集まりが 自殺未遂にまで追い込んだ人 人が羨むキャリアの 僕と視線を合わさ 純子さんは かれ いな 翌日

が大きな誤りだった。 僕がここにいることを彼女に喜んでもらえると考えたこときっと彼女にとって悪夢に近いものに映ったかもしれないしたにせよ、突然の形で彼女の前に姿を現した僕の存在は帰宅してから一日の出来事を思い起こした。偶然が連続 て戦いになったのだ。

少しだが失望した。しかしそのときも母親の平野さんが会 子さんの口から彼女が僕と再会したことを聞いていること 胸が押し潰されそうになりながらも話し始めた。当然、純 かけたのだろう。僕が訊ねてくることを予感していたのか。 った。平野家に着くと、 を起こさねば本当にすべてが終わる。そこまで危機感を持 ち込んだままでいる訳にはいかない。ここで何らかの行動 を前提に訊いた。 ってくれた。この前と同じようにお茶の間に通された僕は、 翌日の正午、昼休みの鐘が鳴ってすぐ彼女の家に出かけ 彼女がその日も休暇を取っていると知ったからだ。 純子さんは不在だった。どこに出

情だった。僕はもうダメなのかな」 もみなかった。彼女、見たくないものを見るような硬い表 僕もこれほど早く彼女と会う機会がやって来るとは思って 「純子さん、目の前に僕を見てびっくりしたでしょうね。

は先日より表情はずっと穏やかに見えた。 僕がすっかり弱気になっていると感じたのか、平野さん

っていましたから、 新聞で新たに三人が町役場の職員になったことを私は知 昨日帰宅した純子が表情を硬くしてい

> 心からあなたに詫びたくてここまで来たのよと伝えました の? もう会いたくなかった、と言ったの。私はね、彼は 言いますよ、どうして奥原さんがこんなところまで来た ました。聞くとそうだとのこと。それからあの子、 たのを見て、ひょっとしたら奥原さんを見たのかなと思い 正直に

「そしたら純子さんは何て?」

ってわかった。彼女以外に生涯を共にする人はいないと気 たんです。本当は彼女を愛していたんです。それが後にな なかった。でもそれからずっと彼女のことが気になってい わずに帰らせてしまった。自分でもどうしてなのかわから で僕を訪ねてきたのです。それを僕は何を思ったのか、 るでしょうに。どうして大阪のあの一流企業を辞めてまで こんなところに来る必要があったの? と言ったわ」 「お母さんは知らなかったでしょうが、彼女、一度大阪ま 「今更私なんかより、もっと素敵な人が他にいくらでもい

づいたんです」 平野さんは、

同情の目を僕に向けた。

るし、男女間の愛って難しいわね。 「でも今度は純子の方があなたに会いたくないと言っ 私がいろいろ言ったと

ころで素直に聞く子じゃないし」

僕は俯いたまま聞いていた。しかし諦める訳にはいかな

と思った

「それで純子さんは、今日はどこに出かけられたのです「それで純子さんは、今日はどこに出かけられたのです。「そうじゃないでしょ。あの子の仲のいい、もう結婚してか?」今日僕が来るという予感でも働いたのでしょうか?」

まで頑張りますよ」「そうですか。でも僕は諦めません。彼女の愛を勝ち取る

消沈しながら平野家を辞した。でも、いまは表情に何の変化もなかった。婿として望むレでも、いまは表情に何の変化もなかった。婿として望むレでも、いまは表情に何の変化もなかった。婿として望むと僕ははっきり言った。以前の平野さんならきっと満足そ

りる気持ちで会社を辞めたのに肝心の純子さんに心変わりま終わったら、絶望しか残らない。清水の舞台から飛び降役場に戻ってからも僕の気持ちは晴れなかった。このま

去何回も注意されてきたことなのだ。兄から激しい叱責を再び浴びるに違いなかった。兄から過後先を考えないで行動したための失敗に対し、またしてもが生じていた。そこで、改めて兄のことが思い出された。

た。自分本位としか言いようがない。ではないではないか。その辺のことを理解できていなかってみれば、あれほど辛い思いをさせた男を簡単に許せるはの僕への傾斜がまだ続いていると錯覚したのだ。少し考えのだ、と軽く考えていた自分がバカだった。当時の彼女なびく、と軽く考えていた自分がバカだった。当時の彼女

いと思った。 観田町の人間になって、役場にも職を得て、もし純子されの心を射止められなかったら町中の笑い者になる。K大んの心を射止められなかったら町中の笑い者になる。K大はなって純子さんの心をどうしても射止められなかったら町中の笑い者になる。K大は、大阪の一流企業に入った人間が青森の片田舎になって、大阪の一流企業に入った人間が青森の片田舎になって、大阪の一流企業に入った人間が青森の片田舎になって、大阪の一流企業に入ったり間になって、役場にも職を得て、もし純子さいと思った。

ではないか。自分のメンツのために純子さんの愛を勝ち取ところが、そこでまた気づいた。自分は間違っているの

た。自分は優柔不断で傲慢な人間だった。 動したのではないか、そういう疑問がまた芽生えてしまって純子さんを愛しているのか? 自分のメンツのために行るものではない。もともと愛は純粋なものだ。自分は本当た会社を辞めたからと言ってなんだ。愛は損得勘定で決まろうとしているのではないか。それは絶対に間違いだ。ま

=

心を整理できないままでいた。時間が必要だった。気持ちを保つためでもあるし、生計のためでもあった。純子さんが交流館を辞めた事実はなかったから、彼女も仕事を続んが交流館を辞めた事実はなかったから、彼女も仕事を続たすでいるがであった。僕と会ってからの彼女は一体何を考けているがろうが、僕と会ってからの彼女は一体何を考けているだろうが、僕と会ってからの彼女は一体何を考けているだろう。僕を再び意識してくれているのか、それを保の役場での生活を止める訳にはいかない。自分の自信僕の役場での生活を止める訳にはいかない。自分の自信

にかくいまは焦ってはダメだと思った。口を利いてくれる。そこを糸口に何らかの展開を図る。とそこで彼女に自然体で話かければいい。仕事上なら彼女も流館と関係のある仕事が出てくれば、出かけることもある。

から、 中に鶴田町を組み込んでもらうためだ。そのためには地元 社に夏祭りの企画を提案するために訪れた。 でとの違いは実際の夏祭りの様子と旅館や民宿内部をビデ で手慣れたものだった。団体旅行は効率のいいビジネスだ は割引も考慮してもらう。 の旅館や民宿とも提携をしなければならない。 ら準備を始める。 準備で地域交流課は少しずつ忙しくなった。 ことだ。話はどこでも順調に進み、 オ撮影してさらに翌年のアピールに使う企画を盛り込んだ こなしていた。 季節は年が明けて一月になっていた。 こちらの企画は渡りに船だったと思う。 僕は任されて、東京のいくつかの旅 旅館や民宿にしても毎年のこと 僕は気持ちよく仕事を その年の夏祭り パック旅 半年以上前か ただそれま 団体旅行で 行会 行

かった。気持ちは焦るのだが、彼女に話しかける勇気がなその間、一日たりとも純子さんのことを考えない日はな

が

間が経てば、

:落ち着くまで彼女には会わない方がいいとさえ思った。

彼女の方も気持ちが落ち着く。そのうち交

に深まっていった。
六月と不甲斐ないことに何事もなかった。僕の懊悩は次第っても、純子さんとの関係に何ら進展はなかった。五月、の恐れが僕の中で次第に高まっていた。新年度の四月になかった。今度こそ決定的に遠ざけられるのではないか、そ

鶴田の夏祭りも順調に推移した。とくに富士見湖パークの担当ではないのか、彼女を遠くからみるだけだった。ち合わせに出てこなかった。意図的なのか、それとも彼女て打ち合わせをする機会が何度かあったが、純子さんは打やがて七月がやってきた。その間、地域交流館に出かけ

みにはビデオ映像を活用するつもりだ。はこうした町の様子をビデオ撮影した。来年の首都圏売込人で溢れた。やはり人が多いことは活気があっていい。僕での花火大会は例年になく大規模に行われた。町は大勢の

を向けることもできなくなった。これほどまでに自分は小た。自分には勇気がない。自信を失い始めた。交流館に足何も話しかけられずにいた。自分の不甲斐なさに呆れてきめ、次第に平穏が戻ってきた。僕は相変わらず純子さんにそうした賑やかな夏も八月の下旬には町に涼風が吹き始

を過ごしている。自分自身に対する失望が大きく膨らんだ。純子さんを目の前にしながら何も出来ずにただ漫然と毎日森の鶴田町まで来たのだ。挙句、永住まで決意して肝心の心者だったのか。何のために会社を辞めて大阪を去り、青

そんなある日、オフクロから役場に電話があった。それは絶望といってもいいものだった。

「正、元気でいるの? 少しも電話くれないから心配してそれは僕にとってひときわ懐かしいものに感じた。み、役場の食堂から帰って自分の机に座っているときだ。

「ああ、元気だよ。土事は順濶だし、可も言うことないけいるのよ」

ど、やはり少し元気ないな」「ああ、元気だよ。仕事は順調だし、何も言うことないけ

「じゃあ、やっぱり純子さんとはうまくいっていないのか

い ? \_

ここ三、四か月は話をしていなかった。スなのか、母親には黙っていられない質なのだ。それでも僕はオフクロには全部話していた。マザーコンプレック

しかけることもできない。僕はやっぱり小心者なんだ」「怖いんだ。彼女から突き放されることを怖れている。話

かなか前には進めないものよ。それがふつうよ」「誰だって、自分が気に入られていないと考え始めたらな

った。自分だけの力では解決出来ないのだ。とがない。いつも味方だった。しかしそのためかえって安とがない。いつも味方だった。しかしそのためかえって安相変わらずオフクロは僕に優しかった。僕を否定するこ

速、

樺澤の電話番号を探した。

「どうしたらいい? 自信を失ってしまったよ」

オフクロはしばらく考えていたようだったが、ポツリと

てみたらどうかしら。あの人、正と純子さんのことで心配「そうね、正と仲が良かった大学時代の樺澤さんに相談し言った。

してくれたことがあったって言ってたよね.

ないのだ。
ははガーンと頭をハンマーで叩かれたような衝撃を受けないのだ。

よ。わかった、そうしてみる」純子さんに謝れ、彼女を探しに行けと僕に言ったのも彼だ「そうだ。いいこと言ってくれた。樺澤だよ。第一、彼は

僕は急に元気になった。オフクロとの電話を切って、

早

屋休みの残り一○分を使って棒澤に連絡した。幸い、彼昼休みの残り一○分を使ってようだ。
 一旦関係が壊れたが、懐かしくないわけがない。た親友だ。一旦関係が壊れたが、懐かしくないわけがない。た親友だ。一旦関係が壊れたが、懐かしくないわけがない。た就友だ。一旦関係が壊れたが、懐かしくないわけがない。とはおかける間、胸がジーンときた。僕が純子さんとおかしくならなければ、ずっと連絡を取り合ってきたはずだ。

めて大阪の会社を辞め、青森に来たこと、純子さんと再会樺澤も会社に居残り、電話を受けてくれた。僕はここで改思いつつ役場の電話を仕事が引けてから使わせてもらった。そのころ電話代はまだ高価で、貧乏だった僕は悪いとは

とをかいつまんで話した。樺澤が声を出して笑った。しながらも何も出来ずに毎日を焦燥の中で暮らしているこ

「そうなんど。自分でもよくここまでやっとと思うよ。それである。からは言っていない。よく思い切ったものだ」ともある。ふつうはとても突破できないことを突破できるともある。ふつうはとても突破できないことを突破できるとは言っていない。よく思い切ったものだ」「相変わらず、猪突猛進の男だな。後先を考えない。会社「相変わらず、猪突猛進の男だな。後先を考えない。会社

は、俺が何かしなければならないってことか?」「うん、それでどうする?」俺に電話してきたということれだけにここで純子さんを諦めたら後悔しか残らない」「そうなんだ。自分でもよくここまでやったと思うよ。そ

には頼めない。厚かまし過ぎる。僕は黙った。純子さんへの橋渡しをやって欲しいと簡単

から感謝した。

からお前の気持ちを話してくれということだろ」「どうした?」遠慮せずに言えよ。どうせ、純子さんに俺

に忠告したことがあった。今回は俺がキューピッドになる「黙っているということは図星だな。いいよ、かつてお前簡単に見抜かれた。僕はただ黙っているしかなかった。

ということだな\_

間は。そして本当のことを言った。くも後悔している。なんて弱い男なんだろう、僕と言う人僕は恥ずかしくなった。電話したにも拘らず、今度は早

女の職場の電話番号を言うから頼めないか」「そうなんだ。恥ずかしいが、打開策が見つからない。『『『『『『『『『『』』』

彼

僕は正直驚いた。そこまでやってくれる親友の存在に心森に行くよ。その代わり、宿はお前のところでいいよな」に取れる。それを使って久しぶりにお前にも会えるし、青に行くよ。幸い、八月に取らなかった夏休みの休暇が九月「いいよ。でもな、こういう話は電話ではダメだ。そっち

かのような懐かしさを覚えた。卒業以来、一年半が経過していたが、何年も会っていない本業以来、一年半が経過していたが、何年も会っていない、九月第一週の土曜日、僕は鶴田駅に樺澤を迎えに行った。

れた。僕を遠くで見つけた樺澤は手を振りながら近づいてた体躯の樺澤が目に入ったとき、僕は目に涙が自然とあふ駅の改札から、身長はさほど高くないもののがっしりし

きた。そして僕の涙を目ざとく見つけた。

「奥原、元気だったかい? 何だ、どうした涙なんか流し

たりして」

「懐かしくてな、つい涙が」

僕は半分嘘を言った。純子さんの件で千人の味方を得た

思いだったのだ。

「とにかく、まずは僕の家に行こう。疲れただろうから、

そこで休憩してくれ」

「うん、喉が渇いた。ビールでも飲ませてくれ」

「そうだな、じゃあ、そこの酒屋でビールと酒を仕込むよ」

ン. はってい にぶたいぎっ谷ズボー ぎもいった。 間里しらしい浴衣を買っておいたのだ。九月の鶴田は朝晩だいぶ涼家に着いた二人は浴衣に着替えた。僕は樺澤のために新

手間を省くため、ついでに買い込んだつまみで酒盛りを始しくなっていたがそれでも浴衣が丁度良かった。調理する

らくして気持ちよくなったところで、樺澤が質問をした。めた。やはり親友と酌み交わす酒の味は格別だった。しば

まりに酷いぞ」「ところで、あれはどういうことだったんだ?」あれはあ僕が純子さんに会うこともなく追い返した場面だ。

くなったのかもしれない。要はまだ結婚したくなかったの「それが自分でもよくわからないんだ。彼女に会うのが怖

「やっぱりそうか。奥原にはまだ早かったんだよ。だから

かもしれない」

が稚拙だったな。でも今は全く違う気持ちなんだろ。会社

俺は言ったんだ。早まるなよってな。それにしても別れ方

を辞めて、鶴田に永住し職まで決めたんだからな」

こういっさいっと下って、五承こうでこげていている。「勿論、今は純子さんと心から結婚したいと思っている。

二人くらい子どもを作って、立派に育て上げたい」

「ところが、今度は純子さんの方がお前を敬遠しているっ

てことだな」

「そうなんだ。でも考えてみれば当然だよ。彼女の心を深

く傷つけたんだからな。何度謝っても簡単に許してくるよ

うなものでもない」

いた樺澤は僕を非難する様子も見せずに言った。た。勿論、その子は僕の子ということも話した。それを聞遂に終わったとき、その子を流産してしまったことを話しそれから僕は純子さんが妊娠しており、睡眠薬自殺が未

「それで行き詰まって、俺に相談てわけか」

談を好意的に取ってくれたようだ。 呆れたように言ったが、満更、悪くない様子だった。 相

僕は少し安心した。

「そうなんだ。樺澤しか頼りになる人がいない」

久しぶりに純子さんにも会えるしな。おっと、そう言うと わかったよ。頼まれたら、俺は嫌と言えない質だからな。

奥原に誤解されそうだな。他意はないからな」

「わかってるよ。で、<br />
どうするんだ?」

日にでも交流館に電話して彼女のアポをもらうよ」 一週間の休みだから、そうのんびりしていられない。 明

「そうか、有難い。でもそんなにすぐアポ取れるかな?」

次の足が前に出ない。だけど不思議だよな。会社辞める時 「心配するな。奥原の場合は心配し過ぎるんだよ。だから

は猪突猛進の勢いだったのにな」

きく変わっているとは思わなかった」 「そうなんだ。でもあの時はまさか純子さんの気持ちが大 奥原の悪いと

ころはその気の弱さだ」 「ダメだよ。一度決めたら前進しなければ。

「わかっている。わかっているんだけど、相手がこちらに

寄り添ってくれると心強いのだが、そっぽを向かれると途

端に弱気になってしまう」

「まあ、いいさ。まず俺が彼女の本心を確かめてみる」

なった。やはり、会話は尽きなかった。つまらなかった某 その晩、その後は話が変わって学生時代のよもやま話に

教授の授業の話も出た。

らしい。結果、何ということはなくアポを取った。昼休み 翌朝、 樺澤は交流館に電話を入れ、純子さんと話をした

の時間、 うな感じで役場の僕のところに電話をかけてきた。 場所は交流館の談話室だった。樺澤ははしゃぐよ

そしてその夜、昼間の純子さんと会った時の内容を僕に

「それで、よくアポが取れたな。僕はダメだろうと思って

話した。

容易に想像がつく。僕のことで会いに来るとしたら、会う 度は樺澤が突然目の前に現れたんだからな。それに理由は いた。だってそうだろ、彼女、びっくりしたはずだよ。今

気にはならないはずだ」

いですよ、って言ったんだ。一週間しか休暇を取っていな 「ふつうそうだよな。でも、違っていた。いとも簡単にい

い、と言ったせいかもな」

「まあいいや。それで何をまず話したんだ?」

他たち、談話室で結局昼休み時間、ずっと話した。 一時 樺澤は一呼吸置いた。それからゆっくり話し出した。

原の純子さんに対する気持ちが本物であることを話した。 間近かった。うん、それでだな、 何から話すかな、まず奥

それは誰でもわかる。会社辞め、ここに永住することまで 決心したんだからな。生半可な気持ちではない」

「うん、そしたら、何て言った?」

「それはわかります、と言っていた」

「うん、それで? 肝心なのは、僕とやり直す気持ちがあ

るかどうかなんだが」

そこで、樺澤に沈黙が訪れた。長かった。一分くらいだ

ったと思われる。僕には非常に長く感じられた。言葉を選

んでいることは確かだった。

- 奥原さんがわざわざ青森まで来てくれたことは嬉しかっ

た、とまず言ったよ。でも・・」

僕は開き直った。追い込まれると、かえって勇気が出て 何て言ったんだ? はっきり言ってくれ

来るのが僕と言う人間だった。

「自分の気持ちがわからない。彼女、そう言ったんだ」 それを聞いて、おっと思った。ひとまず安心したのだ。

るかもしれない。あとはどれだけ自分たち二人のために努 誠意を尽くせば彼女の気持ちをこちらに向けることができ

力できるか、だった。

気持ちの整理がつかないのだろう。これから努力次第で、 「わかった。彼女にしちゃあ、僕が突然現われたし、

彼女の気持ちを何とかする」 僕はそう言ったが、樺澤は笑顔を見せなかったし、首を

縦に振らなかった。最後にこれだけ言った。

て、確認する方がいい」 「俺にはわからない。まず奥原自身が純子さんに直接話し

相談に乗ってくれると思っていたが、意外だった。純子さ てくれと僕が懇願しても首を縦に振らなかった。今回はこ んとの話の中で何かあったに違いない。 れで帰ると言うのだ。もう少し長く僕の傍らにいてくれて、 樺沢はたった二泊しただけで東京に帰った。もう少しい

度も彼女から電話をもらったのに。もうダメなのかと失望 で僕は落ち込んでしまった。 頼んだのだが、結局、その日電話は来なかった。これだけ にいなかった。それで折り返し電話をもらえるよう伝言を 翌日、 空き時間を狙って純子さんに電話した。 東京にいたころ、あれだけ何 しかし席

した。

度は在席していた。彼女が直接電話を取った。これが東京 るような電話の感触だった。話したくなかったのではない で彼女と話して以来の会話だった。彼女はドギマギしてい 再び電話した。意地になっていたのかもしれない。が、今 かと思われた。僕も胸が緊張でドキドキした。 さらに次の日、プライドが高い僕としては珍しいことに

奥原です。お久しぶりです」

彼女は一瞬黙った。そしてポツリと呟くように言った。

お久しぶりです」

いますが、僕は会社を辞め、この地に永住することまで決 純子さん、僕と会って欲しいです。 僕は勇気を奮い立て何とかデートを申し込んだ。 あなたともう一度やり直したかったからです。会っ 樺澤から聞いたと思

8

た。

ていただけますね

「わかりました。いずれ私の本当の気持ちを申し上げなけ 精 一杯の努力だった。

ればならないと思っていました」

彼女はきっちり時間通りに姿を現した。僕は久しぶりに彼 駅近くのホテルの一階、レストランで会うことにした。僕 それだけで今は嬉しかった。場所と時間は樺沢のように昼 休み時間に談話室なんてものではなく、仕事が済んだ後<br /> はなかった。しかし取り敢えず彼女は会ってくれるという。 は早めに出かけ、三〇分前には約束の場所に待機していた。 彼女の口調は固く、会いたいと思う相手に対するもので

と言った。単刀直入に淡々と僕に語ったことが次のような はコーヒーだけでいいし、 ことだった。 だが、そこで決定的なことを彼女から告げられた。 食事もアルコール類もいらない

女を見てやはり嬉しくなった。

な人知らないと言ったそうですね。私は絶望に突き落とさ れました。それでも少しの間、 「あなたに会いに、 私が大阪に行ったとき、 あなたからの電話を待って あなたはそん

自分を追い込んでいきました。私の何がいけなかったのだいたのです。でも期待した方が間違いでした。私は自分で

僕はそこで遮るように言った。

ろうか、と悩みました」

生はダメになると悟ったのです」れて愕然としました。あなたとやり直さなければ自分の人棒澤からもあなたのお母さんからもあなたのことを知らさで人生の大切なことを知らない人間だったのです。その後、「あなたは間違ってはいなかった。僕が世間知らずの子供

彼女はしばらく沈黙した後、はっきりとした口調で言っ

なってしまいました」にあなたの子ども流産し、その結果子どもを産めない体に「はっきりと申し上げます。私は自殺未遂をして、その際

「僕は子どものいない家庭でもいい。あなたとやり直せれた。負けたらこれまでの努力はすべて水泡に帰してしまう。しかし僕は頑張ろうと思った。その事実に負けたくなかっのめされた。さらに罪深いことを過去にやっていたのだ。えーっ、何ということだ。この言葉で僕はすっかり打ち

ば何も言うことはないんです」

私のことは諦めてください」

私のことは諦めてください」

もないとは出来ません。体が生理的に受け付けなくなる、そんとき、私はあなたが恐かった。そのときはっきりとわかたとき、私はあなたが恐かった。そのときはっきりとわかたとき、私はあなたが恐かった。そのときはっきりとわかたとき、私はあなたが恐かった。そのときはっきりとわかしました。会社を辞め、青森まで来てくれたことを嬉しくない。

生理的に僕が嫌いだとはっきり言われ、ついに絶望した。こうして彼女は僕から手の届かないところへと永久にた。こうして彼女は僕から手の届かないところへと永久にた。こうして彼女は僕から手の届かないところへと永久にた。こうして彼女は僕から手の届かないところへと永久にた。こうして彼女は僕から手の届かないところへと永久にた。こうして彼女は僕から手の届かないところへと永久にた。こうして彼女は僕から手の届かないところへと永久にた。こうして彼女は僕かがとはっきり言われ、ついに絶望した。

帰宅した僕は、しばらく呆然とした。何も手に着かなか

にいた。自宅から会社に電話した。果たして彼はまだ職場づいた。自宅から会社に電話した。果たして彼はまだ職場一○時になった頃、樺澤には礼を尽くさねばならないと気むことができるか、そんな疑問だった。時間が経ち、午後むことできるか、そんな疑問だった。時間が経ち、午後

うんだ」に諦めることにした。生理的に僕を受け付けられないと言に諦めることにした。生理的に僕を受け付けられないと言と報告するよ。やはりダメだった。純子さんのことは完全「樺沢、まだ会社にいたか。よく仕事するな。で、ちょっ

樺沢は予期していたように

よ。奥原と純子さんは終わった、とな」「そうか、やはりな。先日彼女と話したときに俺も思った

なってしまったと。だからもう誰とも結婚しないと僕は思「それで重大なことも言っていた。子どもを産めない体に

「そうか、でも僕はもうダメだ」くとも俺だったら彼女の心の傷を癒すために頑張るぜ」と思うんだ。愛していたらそんなことは二の次だよ。少な「だけどな、子どもを作るためだけで結婚する訳ではない

でもお前は文句言わないな」「わかった。ならば、もし俺が純子さんに交際を申し込ん

しても俺たちの友情に変化はないよな」
「ありがとう。しかし仮に俺と純子さんが何とかなったと「かいさ。僕はもう関係ないんだから、好きにするさ」
ことは気づいていた。しかしこの期に及んで一層その気持 僕は驚いた。前から樺澤が純子さんに好意を持っていた

「当たり前だ」

ように期待する自分がいた。(僕はそう言ったが、内心は二人の関係がうまく行かない)

回

り気になった。そこで、仕事上何度か話したことがある、を知った。僕とは何の関係もなくなってしまったが、やは、一件から二ヵ月余りが過ぎたころ、異変が起きた。人事速が発さんの愛が完全に僕から離れた、あのレストランの

野上さんはこう言ったのだ。 野上さんという女性に純子さんの様子を訊こうと電話した。

て、それは傍目にも幸せそうで。私なんか、羨ましくて仕 結婚するんじゃないかしら。 彼女、最近ウキウキしてい

方なかったわ」

胸が一層苦しくなった。しかし電話で動揺が悟られないよ 僕に衝撃が走った。相手はまさか樺澤ではないだろうな。 平静を装った。

- 野上さん、わかっていたら教えてくださいな。相手の人

の名前はわかります?」

う、

人だから。でも結婚して東京に行くとは仰っていましたよ」 わからないわ。平野さん、 僕は頭を殴られたような衝撃を覚えた。青森の片田舎か あまりご自分のこと話さない

感情的に胸につかえるものを感じたのだ。 子さんが幸せになるなら素直に喜んでやればいい。 ら東京に縁づくなんてことは樺沢以外に考えられない。純 沢以外だったら素直に認められた。が、彼についてだけは だが樺

頃だったが、 実を確かめるためにその晩樺澤に電話した。 彼はまだ会社にいた。 夜の九時

> いが、東京で暮らすらしい。平野純子はこれから樺澤純子 「純子さんが結婚する噂を聞いた。 相手は誰だかわからな

になるのかい?」

たし、同時にお前に話しづらくてな。やはりどこか彼女を のは、本当のところ彼女の愛を獲得できるか自信がなかっ 「うん、そうだ。彼女の相手は俺だ。いままで黙っていた

お前から奪う後ろめたさもあったと思う」 実際、 樺澤の口調には何かしら奥歯に物の挟まったよう

な遠慮が感じられた。 その遠慮が逆に僕の心に鋭く刺さっ

「そうか、よかったな。 幸せにな」 た。

僕の声に元気はまったくなかった。失望が微妙に樺澤に

伝わった。 「きょうのところは、 これだけにしておこう」

独り、大声で泣いた。 樺澤はそう言って、 誰にも遠慮することなく大声で、そ 電話を切った。それから僕は自宅で

して流れる涙を拭うこともなかった。

青森の鶴田町に来て、今では何人かの知り合いができたと 僕の間違いだらけだった青春が終わった。

きょうこうを異ざらさいのきご母に可は丁はいうものの、独り取り残された悲哀を味わった。

うとしたのだ。その可能性がまったくないとわかってしま 仲がうまく行くか確認する行為でもあった。ここまで他人 それは僕に対する友情であったし、同時に僕と純子さんの 間性の点で僕は樺沢に到底及ばない。そしてその優しさが 話した内容を確認してから電話で彼女と付き合う了解を僕 れたことだって、本心から僕のことでキューピッドになろ のことを気遣う人も珍しい。今回のことで青森まで来てく のことで純子さんの たろうか? だが考えるまでもなかった。彼は実際優しい に得ようとした。 ったから、早々と青森を去ったし、僕が純子さんと翌日に 人間だった。相手のことを心から思い遣れる男なのだ。 いに純子さんの心を融かしたと思った。 僕は考えた。 樺澤が純子さんの愛を得た原因は何であっ そのことでも樺澤の優しさがわかる。 人間性を調べに行ったこともあった。 僕

があって、私はもう結婚しないと心に決めていました。結『奥原さん、今度のことはごめんなさい。あなたとのことう書かれていた。 しばらくして、純子さんから僕宛てに封書が届いた。こ

たのかもしれません。私の主人になる人とこれからも ろなことがありましたが、それもこうなる運命の伏線だっ ロポーズを受け入れることにしました。あなたとはいろい かお会いしました。次第に彼の優しさが身にしみて彼のプ ありましたし、実は東京と青森の中間の郡山あたりで何度 もそれは彼の本心でした。 愛を育みたいとおっしゃった。それ以外何もいらないと。 訳がないからです。 婚しても子どもは出来ない体ですし、 友人でいてください』 ると思うのです。無理をしていると最初は思いました。 でも本当は子どもがいてこそ、 でも樺澤さんは優しい人です。 彼と何度か電話で話したことが 楽しい 賑やかな家庭が出来 相手の男の人に申し 私との で

避けたいと思った。

・大切にしたい。が、しかし純子さんに関する話題は極力が、理解はしてくれただろう。でも彼との友情はこれからえ、樺澤に丁重なる断りの電話を入れた。彼は残念がっただった。だが、僕はこの結婚式に出席する資格はないと考の手元に届いた。これも樺澤の気遣いだろう。場所は東京の手元にるいた。

#### 【エピローグ】

かった。 PCR検査を受け、コロナ陰性を確認後に小さな斎場に向思い悩んだ末に、青山と二人で通夜だけ行くことにした。

をはれている。 で類を伝った。ハンカチを取り出し、マスクもあわてて外 たとき、あまりの懐かしさに涙腺が弛み、大粒の涙になっ たとき、あまりの懐かしさに涙腺が弛み、大粒の涙になっ

な応対ができなかった。 その通夜で、青山がお悔やみを言うと、純子さんは満足

れなのにマスクが邪魔したのか、彼を識別できなかったの結婚式以来、青山とは何回か会っているはずだった。そ「何処のどなたか判らないけど…」。そこで黙ってしまった。

さんが突然叫んだ。 次に、僕が前に出てお棺を覗き込もうとしたとき、純子

だ。

私の大切な主人に近づかないで!」「貴方、奥原さん? 奥原だね。あんたの顔は見たくない

暴れはじめた。彼女を傷つけた人間として、僕の顔が彼女気を取り戻したのだ。そして狂人のように髪を取り乱して僕もマスクをしていたが、僕の顔を見て、彼女は急に正

の魂の奥深くにしっかりと刻まれていたのだ。

居たたまれなくなって斎場から逃げ出した。小声で何か囁いている人たちもいた。僕は恐れおののき、斎場にいた人たちは皆驚き、僕と純子さんに注目した。

が語源らしく、「そこにいるのは誰ですか」という意味だ。

「たそがれ」を漢字で書くと「黄昏」になる。「誰そ彼」



晩秋、山中湖の夕焼

みんな一応、「たそがれた人」なのである。

あまりいい響きではない言葉である。しかし、高齢者は、らぶれる、落ちぶれる、色あせる、見る影もないなど、くなっていく状態のようだ。また、「たそがれる」は、う「誰ですか、あなたは」と言われるくらい相手にされな

既然、田中朝の夕 別

間でもあるのだ。
ても同じだ。世を去る前の幾ばくかの時間は光り輝く時日が没して暗闇になる前のひと時の輝きは、人生においたそがれ時は、一番光り輝くときだとよく言われる。

確かに、齢を重ねれば、身体能力は落ち、病気がちに

だと、即答された。そうなんだ。なんとも心地よい響き

何というか尋ねたことがある。答えは、「トワイライト」

あるとき、英語の得意な仲間に「たそがれ」を英語で

である。

できる、一番楽しい時間であってほしいと思う。時は、それらを乗り越えて、残された自由な時間を謳歌ない。高齢者には、それぞれ個人差もあるが、たそがれなり、孤独にもなり、介護を受けるようになるかもしれ

## 卒業できていない夢

分が実際に経験したことがベースになっていることがいストーリー展開になっていくのが普通だ。それも、自夜寝ていて見る夢は、いつも脈絡がなく、とんでもな

かかっていた人が、夢に現れることもよくある。ほとんどだ。亡くなった人を含めて、覚醒時ずっと気に

できないに疑念を抱かせるような夢だ。か、卒業できるのだろうかとか、とにかく卒業ができた、いるはずだ。しかし、なぜか、まだ卒業できていないと大学を卒業して相当な時間が経ち、すでに、仕事もしてことがあった。それは大学をまだ卒業できていない夢だ。若い頃から、似たような内容の夢を連続的に見ていた

年で卒業できたような状況であった。親から、学費や生年で卒業できたような状況であった。親から、学費や生を落とし、3、4年で、つじつまを合わせ、なんとか4年は、ほぼ授業がなかった。これは弁解に過ぎないのだに手こずったというのが現実であった。当時、入学直後が、そんなことがきっかけで、勉学に励むことはできずが、そんなことがきっかけで、勉学に励むことはできずが、そんなことがきっかけで、勉学に励むことはできずが、そんなことがきっかけで、勉学に励むことはできずが、そんなことがきっかけで、勉学に励むことはできず、が、そんなことがきっかけで、勉学に励むことはできず、そんなことがきっかけで、勉学に励むことはできず、そんなことがきっかけで、勉学に励むことはできず、そんなことがきっかけで、勉学に励むことはできず、このようなネガティブな夢を繰り返し見るのは、卒業このようなよがであった。親から、学費や生を落とし、3、4年で、つじつまを合わせ、なんとか4年で、つじつまを合わせ、なんとか4年で、つじつまを合わせ、なんとかりますが、それないが、対していることはないが、対していることができる。

できないことは許されるものではなく、当時、相当なプ活費を仕送りしてもらっている身としては、4年で卒業

レッシャーになっていたと思う。

これらの象徴的な夢だと思っている。

これらの象徴的な夢だと思っている。

た、選んだ学部、学科、就職先など、もう少しよく考また、選んだ学部、学科、就職先など、もう少しよく考また、選んだ学部、学科、就職先など、もう少しよく考また、選んだ学部、学科、就職先など、もう少しおける。

てしまう。

一やストレスを感じていた人は多かったのだろうと確劣や卒業しなければならないということに、プレッシャとがわかった。少なくとも数人以上はいる。いくら成績とがわかった。少なくとも数人以上はいる。いくら成績ではないということも、後になってわかった。何かの機ではないと、このような夢を連続して見るのは、自分一人しかし、このような夢を連続して見るのは、自分一人

を見ると、夢うつつのなかで、「何かおかしいな」と思っころまでには至っていない。ただ、今でもこのような夢頻度は少なくなってきている。しかし、絶対に見ないとそれでも、高齢になるにつれて、このような夢を見る

たいものである。

この数年、日常的に摂取しているサプリメントのせいこの数年、日常的に摂取しているサプリメントのせいこの数年、日常的に摂取しているサプリメントのせいこの数年、日常的に摂取しているサプリメントのせい

#### 高齢者とスマホ

·1月の時点で、スマホ、ケータイ所有者のうち、スマNTTドコモモバイル社会研究所によると、2022

などにもすすめられたりすることがきっかけになって に加えて、ガラケーがほとんど販売されなくなり、子供 スマホへの買い替えは、キャリア側からの販売促進など スマホへの買い替えが急に多くなったようだ。高齢者の 遅れる傾向にあるが、この数年で高齢者のガラケーから ったが、 速にスマホの普及が進んだ。ガラケーのときもそうであ ホの所有率が94%を超えているようだ。2018年で を利用して、家族間の連絡を確保するといったケースが いることが多い。まず、家族LINEとその無料の電話 やっと50%を超えたくらいなので、ここにきて急 高齢者ほど、このような情報通信機器の普及は

話はすでにあった。ダイヤル式ではなく、交換手を介し みることにする。 の経歴を不鮮明な記憶を思い出しながら、少したどって マホ という間に、手紙、 それにしても、この数十年で、通信のスタイルはあっ ·の時代に変わってしまった。 改めて自分の通信手段 物心がついた頃は、 固定電話の時代から、ケータイ、 家業の関係で、電 ス

機

報だった。当時、田舎ではまだ電話の普及はさほど多く 段は郵便が主体であった。 なく、近所の人が電話を借りに来る時代であり、 て通話するものだ。相手に電話がなく、急用の場合は電 通信手

プッシュ式も選択できたが、 いて何年も経った後だった。 どでは掲示板が利用され、駅には伝言板があった時代だ。 ということは、すでにこの頃、少なくとも首都圏での電 たりしていたこともあった。首都圏の自宅から学校に通 フォンカードが販売されたのもこの頃だ。 ったので、そのときは選択しなかった記憶がある。 話が中心で、アパートの家主の電話を利用させてもらっ はどうしていたのだろうと思ってしまう。手紙、公衆電 などは考えられなかった。今思うと、仲間などとの連絡 話の普及率は高かったといえる。学校のサークル活動な っていた仲間などへの連絡は、公衆電話からできていた。 ば、 上京して一人暮らしを始めたが、電話を所有すること 自分の電話機 家電販売店で購入したものを利用するようになっ (固定電話) を所有したのは、仕事に就 プッシュ回線は使用料があ 緑色のダイヤル式だった。 その後、 テレ

よくありそうだ。

もあった。 た。親子電話機やFAXのついた電話機を利用したとき

イルなどに応じて、それぞれ似たような経験を積んだは が少し異なるものの、その時代の技術や機器、 からスマホへの使用経歴は、人によって使い始めた時期 を目の当たりにしたときは感激したものだ。スマホは、 させてもらい、走行しながら固定電話と通話しているの 電話普及前に、「自動車電話」が備え付けられた車に同乗 電話はIDO (日本移動通信)、J - FHONE、V f モバイル系では、 h o n e one4から使用している。このような携帯電話 S o f 仕事用のポケベルから始まり、 t Bankへと推移している。 供給スタ 携帯 携带 o d

ただ、固定電話を持つ意味がなくなってきているのも確るので、「止めたほうがいい」とまではとても言えない。高齢者ほどその傾向は顕著だ。それぞれの人の信条があしても、自宅の固定電話はまだまだ止めない人は多い。固定電話であるが、これだけ携帯電話やスマホが普及

固定電話を一斉に止めたら、振り込め詐欺などの特殊詐などにまだ固定電話の番号が必要だったときがあった。しかし、今は、携帯電話の番号で十分になっている。とは一度もなかった。固定電話には、親族や親戚からことは一度もなかった。固定電話には、親族や親戚からことは一度もなかった。固定電話には、親族や親戚からことは一度もなかった。固定電話があるくらいで、他には、葬式屋か畳をがのたまに電話があるくらいで、他には、葬式屋か畳をがいた。携帯電話が普及しだした頃は、何か契約するときかだ。携帯電話が普及しだした頃は、何か契約するときかだ。携帯電話が普及しだした頃は、何か契約するときかだ。

MSで連絡し合うことになる。SMSでは長文を送れなて、これも信条だからどうにもならない。この場合、Sとりの重要性は従来どおりだが、LINEなどの通信アとりの重要性は従来どおりだが、LINEなどの通信アルボールでのやりですさの恩恵を受けている。勿論、メールでのやり取りやすさの恩恵を受けている。勿論、メールでのやり取りやするのとは、スマホの普及で多くの人が、連絡のいずれにしても、スマホの普及で多くの人が、連絡の

欺は激減するような気がする。

ることもある。また、メールやLINEのように複数人いので、相変わらず文の長さを気にし、2回に分けて送

に一斉に送れないので効率も悪い。

になる。 所有によって、 の会員証、アラーム、懐中電灯、SNS通信、 ス決済)、さらに、時刻表 予定入りのカレンダー、筆記具のいらないメモ帳、万歩 ものだけでも、 ホのアプリの種類だけ持ち歩ける可能性がある。身近な ありとあらゆるというのは大げさかもしれないが、 けるようになったということだ。それもPCだけでなく、 スマホを所有するということは、 音楽プレーヤー、 動画の閲覧など、 一気に多くの便利ツールを手にしたこと 電話利用以外に、カメラ、TV、 本、マガジン、お金 あげたらキリがない。 (乗換案内など)、 JAFなど 小型のPCを持ち歩 (キャシュレ 撮影した スマホの 地図、 スマ

スマホはPCの所有を前提としているようなこともあ初から最大限に利活用するのは大変だと思う。背景に、しかし、普通の高齢者にとっては、それらのツールを最高齢者であってもこれらの恩恵を受けるのは同じだ。

るので、なおさらである。

寧に説明責任を果たすべきだと思う。 若い人は柔軟に操作できる人が多いこともあって、高齢 ピコ遊べるようになる。アプリ制作側も、キャリア側も 校に入る前の子供でも、スマホを与えれば、すぐにピコ 少なからず手こずるだろう。 慣れている人でも、 マニュアルやチュートリアルを用意するなど、もっと丁 でも使いこなすことができるはずである。 んと説明、 ているので、 さえする。 者に対して十分な説明や教育を怠っているような感じ 任をもっていないようにさえ思う。 くが無料なこともあり、供給側も使いこなしにあまり青 慣れていない人にとっては、 スマホにも、 何でも吸収が早く、スマホに馴染むのも早い。 教育すれば、 高齢者は理解力、記憶力などが全般に低下し スマホの習熟も時間がかかる。ただ、 、マニュアルはあるはずなのだが、 初めてスマホを操作をするときは、 時間が少々かかっても、高齢者 若い人は、頭の柔軟性があ ないに等しい。アプリの多 PCの入出力操作に 紙ベースで、 操作に

携帯電話、スマホの電話料金は、相変わらず高い。電

がたい。

がたい。

で使った電話料はかけ放題の円という料金設定はあり定がなくなって残念だが、通話品質は別として、アプリ定がなくなって残念だが、通話品質は別として、アプリしていると思う。月1Gまでの円という画期的な料金設している。楽天モバイルのキャリア参入が大きく影響なっている。楽天モバイルのキャリア参入が大きく影響なっている。楽天モバイルのキャリア参入が大きく影響なっている。

と活用をしていったらいいと思う。高齢者も、楽しみながらスマホの操作を勉強して、もっせっかくスマホの料金も少しずつ下がっているので、

#### ドローン

下ローンは、もともとの開発目的が軍事利用だったらしい。今や小型化や低価格化が進み、民間においても活達、危険な場所の点検、または安全管理や警備など、幅度、危険な場所の点検、または安全管理や警備など、幅度、危険な場所の点検、または安全管理や警備など、幅度、危険な場所の点検、または安全管理や警備など、幅度、危険な場所の点検、または安全管理や警備など、幅度、危険な場所の点検、または安全管理や警備など、幅度、危険な場所の点検、または安全管理や警備など、幅度、危険な場所の点検、または安全管理や警備など、幅度、危険な場所の点検、または安全管理や警備など、幅度、危険な場所の点検、または安全管理や警備など、幅度、危険な場所の点検、または安全管理や警備など、幅度、危険な場所の点検、または安全管理や警備など、幅度、1000年により、1

ているが、実現の可能性を少し探ってみた。現実にはそんなに生易しいものではないことはわかっなく、多くの人がそのように思っているかもしれない。画の撮影をしてみたいと思っていた。それは自分だけで画の撮影をしてみたいと思っていた。それは自分だけで

スポーツ用途としては、限られたゲージの中で戦うドロ イムにその映像を見ながらレースを行うものだ。 といって、小型のドローンで、レースを行うものだ。ゴ キル的には産業用と共通しているかもしれない。もう一 ある。一つは撮影、 される農業分野 考えてみる。 つはドローンをスポーツとしてとらえる分野だ。FPV まず、 グル(ヘッドセット)を身に着けた操縦者は、リアルタ 趣味用であるが、ここでは、大きく二つの志向性が 映画の撮影など、応用分野は限りない。第二は、 ドローンの主な活用範囲を自分の視点で改め 第一は産業用である。 測量・点検などの土木分野、 いわゆる空撮を趣味とするものでス 農薬散布などに代 物流・配 また、 遊

れるということもある。

には、クリアすべきいくつかの課題があった。したいと思っている。しかしながら、それらを実現するして行う空撮だ。それもいろいろな自然や街並みを空撮ーとかななかで、自分がやりたいのは、ドローンを操縦ーンサッカーのような遊びもある。

工学、 例えば、 体のメカニックから、 てに精通しなければ飛ばせないということではないが、 の状況など多岐にわたる知識が必要になる。これらすべ 飛行禁止法など)、条例、さらに販売されているドローン つけなければならない。 気象、 法律に反して飛行させれば、 関連する法律 操縦方法の基礎、 基礎知識についてだけでも、 (航空法、 多額の罰金が課さ 電波法、小型無人 航空力学、

をいくつか用意するとしても、 ている。充電するにも時間がかかるし、 はバッテリーで飛行するので、 10時間というのは、そんなに簡単ではない。 しては、飛行時間10時間が、一つの目安になる。ただ、 間以上の飛行経歴がなければならないので、飛行経 通省への許可申請を行う必要がある。その際に、 ンを人口密集地 かの方法でスキルアップさせなければならない。 飛行経験については、ドローンの操縦技術などを何 (DID地区) で飛ばすためには国土交 バッテリーだけでも結構 1回の飛行時間は限られ 別のバッテリー ド ドロ 10 ローン

高

屈価だ。

これらの知識や経験を体系的に身に付けるには

ネット上でも、ドローンスクールの広告サイトが目立つ。れがドローンビジネスの一つの商売ネタになるようで、ドローンスクールにお世話になるのが手っ取り早い。こ

は厳しさを感じてしまう。 のマンパワーを考えると、ドローン空撮を実現させるに 大切な時間が消費される。 未満では足りない気がしてくる。それと、趣味とはいえ、 に見て、 や飛行場所までの移動費用や諸雑費も必要だろう。冷静 30万円は投資しなければならない。その他、スクール ボード)の付いたPCがほしくなるので、これも20~ 影した動画を編集するためには、GPU(グラフィック これも最低20~30万円くらいはかかる。さらに、撮 いはかかるようだ。その他に、資格申請費用などもかか すれば、 空撮用のドローンの購入には、実用上を考えれば、 ンジできたかもしれない。また、 ある程度の空撮動画ができるまで、100万円 基本的なコースだけでも、 費用面ではどうか。 費用と時間、それと自分自身 もっと若ければ、少しは楽に ドローンスクールに通うと 20~30万円くら 仕事であれば、

取り組みやすかったかもしれない。

る。 った。 度と似たような制度になっているのだ。 波発信するための「リモートID」の搭載が義務付けら する必要がある。さらに、地上から機体所有者を識別で 登録すると、「登録記号」が発行され、それを機体に表示 られた。 航空法の規制対象外だったが、100g未満に引き下げ と飛行は禁止となった。これまで200g未満の機体は 00g以上の場合、 れる。この「リモートID」の搭載も所有者の負担にな きるようにするため、飛行中は登録記号などの情報を電 録しなければならない。また、3年ごとの更新も必要だ。 2022年6月からドローン規制がさらに厳しくな すでに、ドローンの運用は、 ドローンの機体の重さ(バッテリーを含む)が1 100g以上の機体の所有者は、 所有者情報の登録および許可が 自動車の登録や車 1機ごとに登

ケーションは、きわめて少ない。市街地で飛ばすのは無そもそも、ドローンを日常的に飛ばすことのできるロ

禁止されている。 ほとんどの公園は条例などによって、 理としても、 0 公園内での飛行はほぼ禁止されていると思った方が 0g未満の飛行許可のいらないドローンであって 公園内だけでも飛ばしたいと思う。 トイドローンと呼ばれる機体の ドローンの しかし、 い重さが 飛行は

い

る

係機関 土地 どんな場合であっても、 いものが多いが、撮影するには山登りする体力が必要に も同じで、 アできているからこそ営業ができている。見方を変えれ ロ | ては許可申請を行わなくても良い場合もある。しかし、 日本国内でドローンを飛ばすには、 土地を有効活用しているといえる。 飛ばせることになる。 ンスクールやドローン練習場にしても、そこはクリ の ドロー 所有者の許可は得なければならない。 へ許可申請を行う必要がある。 ずれにしても、 国有地の山岳地であれば林野庁の許可があれ ンを飛ばすことの大きなハードルになって 許可申請とは別に、 土 山岳地 地の 所有者 の空撮動画も素晴らし 法律に従って各関 ただ、条件によっ の許可が必要なこ 国有地での飛行 飛行させる 例えば、 ド

> バンクなど、主に産業用ドローンの展示であった。 は、KDDI、ソニー、 るとすれば、メーカーはJDIと思っていたが、そのI 産業省の「空飛ぶクルマ」の展示もあり、ドローンスク 展示会「ジャパンドローン」に足を運んでみた。 I自体の展示がなかったのは残念であった。 ルの展示も目立っていた。 2022年6月幕張メッセで開催されたドロ G M 空撮用のドローンを購入す Ó NTTドコモ、 ]

]

D

もう一つ残念なのは、

この展示会は、

日本のド

ŧ れないが、このことがドローン技術向上の障害になって の展示会では、その一端が見えたような気がする。 中国など他国に遅れをとっていると言われているが、 技術の最先端の展示であるべきだと思うが、この程度な 1 のかと感じてしまったことだ。日本のドローン技術 ないだろうか。 日本は、 ローンを遊びとして楽しめるような環境を充実さ ドローンに対する規制が厳しすぎるのかも、 規制 強化は V 71 のだが、 産業用以外に

っている。 っている。 のではないだろうか。ドローン=悪という考えはなくし のではないだろうか。ドローン=悪という考えはなくし のではないだろうか。ドローン=悪という考えはなくし のではないだろうか。ドローン=悪という考えはなくし のではないだろうか。ドローン=悪という考えはなくし のではないだろうか。ドローン=悪という考えはなくし

どで、ドローン活用の範囲がさらに広がり、期待度は大行させる方法である。解禁されれば、物流や災害支援な地帯において、目視の範囲外でドローンを自動・自律飛べル4飛行が一部解禁される。レベル4飛行とは、有人2022年12月5日施行予定の改正航空法では、レ

家のなかで飛ばして遊んでいる。それなりのカメラもつそれでも100g未満のトイドローンを購入し、たまにそんなことで、ドローン空撮は諦め気分ではあるが、

アップに務めている。狭い部屋のなかで、障害物を避けながら、操縦のスキル狭い部屋のなかで、障害物を避けながら、操縦のスキルいているが、乱雑な部屋の中を撮影しても仕方がない。

#### 国道16号線

自分にとってどれも興味を惹かれる言葉だ。「日本を創度分にとってどれも興味を惹かれる言葉だ。「日本を創ま近になって、国道16号線との関係などが記述されているのも面白い。「地形」、「歴史」、「道」、「音楽」という本を読んだ。最初に書店で見かけたとき、大胆なサブタイトルだったので、以前より気にかけていた本だ。数多くの参考資料に基づいて、関東地方のこのた本だ。数多くの参考資料に基づいて、関東地方のこのた本だ。数多くの参考資料に基づいて、関東地方のこのた本だ。数多くの参考資料に基づいて、関東地方のこのた本だ。数多くの参考資料に基づいて、関東地方のこのた本だ。数多くの参考資料に基づいて、関東地方のこのた本だ。数多くの参考資料に基づいて、関東地方のこのに地形」、「歴史」、「道」、「音楽」といったキーワードは、博一著)という本を記述されているのも面白い。

を多角的に論述しているのは確かだ。 った道」と言えるのかどうかは別として、 国道16号線

の一端を記述してみたい。 自身も国道16号線の一人の利用者として、「思い入れ」 いては、その人なりの れ」を持っている。誰でも、 この著者は 国道16号線について、 「思い入れ」があるはずだ。自分 (以下、 利用している国道などにつ 国道16号線を16号 相当な 「思い入

く記憶している。まさに16号線だ。ただ、 スの中で、 コハマ・ヨコスカ」が流行っていた頃だ。社員旅行のバ も出かけたものだ。 横須賀方面へ向かうことができる。 てたところに、 浜市南区のときだった。 一へ向かえば吉野町から関内方面へ、 ダウンタウン・ブギウギバンドの「港のヨーコ・ 6号線を始めて意識したのは、 調子よく大声で歌っていた者もいたので、 16号線が南北に走っていた。そこから、 ちょうど、その年代(1975年) 事務所の前に川があり、 たまに横須賀方面に 勤務先の事務所が横 南へは磯子を経て、 1 6号線 川を隔 日

> が、当然ながら首都高と京葉道路を利用していた。 白井市など)へは、仕事で、 は考えてもいなかった。 回りして、柏、千葉方面にたどりつくことなど、当時 千葉方面 車でたびたび出張していた (千葉市、 習志野

討中 候補 ため、 るもののようで、 の頃すでに、市役所勤めの隣人からは、千葉県北西 が届いていた。 頻繁に利用していた。交通量は当時から多かった。 ら約200mしか離れていなかったので、日常生活でも ていた。それは、 16号線を「眠らない道路」と称していたくらいだ。 16号線についてはバイパスの構想があると聞 万内の 柏には1985年に転居している。住居は16号線 のようだ。 の一つなのかもしれない。 知人は、 窓を開けたときなど、 マンションの比較的高い階に住んでい 深夜になっても、 現在、 印西市域の千葉県道61号線の 千葉北西連絡道路と呼ばれて 直接、 ただ、いまだに構 車が途切れないの 16号線の交通騒音 品かされ 利用も 部 同じ  $\mathcal{O}$ 

町

6号線は、 東京都心を中心とする一般道路の

1

線度が高い道路になってい よく利用している柏から八千代あたりまでは、とくに直 も現在のような難しさはなかったかもしれない。 下総台地でもまだまだ既存の開発地が少なく、 な路線になっている。 葉市あたりまでは、 めていったように思われる。 来の道路とつじつまを合わせながら、 状道路として指定されたの 路であるが、 あまりきれいな円状にはなってい 新たに設定したらしい比較的 これらの区間は、 は、 そのなかで、 1962年のことだ。 苦労して路線を決 建設計画当初、 野田市から千 路線設定 ない。 自分が 官直線的 旧 環

てい は 尾 り渡河が少なく、アップダウンの少ない道筋が選ばれた。 なので、 切るたびに、アップダウンの繰り返しが続く道路になっ での区間の台地には、 さらに、 1筋や谷筋の道が主体であった。 (低地) 孫子市の 昔からある道路は、 地形に応じて、 地形的に面白いのは、 が存在する。 国道356号線や千葉県道59号市川印 手賀沼、 距離は長くなっても、 そのため、 通行の主体が人間や馬など 印旛沼へ接続する多くの 柏から八千代あたりま 千葉県北西部周辺で それらの河川を横 できる限

 $\mathcal{O}$ 

少なくとも柏から八千代あたりまでの 車の普及を前提とした、アップダウンを気にしない 線 (木下街道) は典型的な昔からの尾根筋 16号線 0 は、 道 路だ。

型の路線設定になっている。

がある。 では、 298号線が並走)、 ŋ る。 環状線、 環八通りがあり、 道路に対して、都心を中心とする環状道路がい (環四)、明治通り(環五)、山手通り(環六)、環七通り、 役割を担っている。 関東地方には、 (環二)、外苑東通り やはり内側から、 般道路では、 外環道 各道路は、 (東京外かく環状道路、 少し離れて16号線がある。 都心から地方に向かう一般道路や高 内側から、 それぞれの位置で、 圏央道 首都高都心環状線、 (環三)、 (首都圏中央連絡自動車 内堀通り 外苑西通り、 環状道路として 般道路の 首都高· 高速道 不忍通 くつかあ 国道 中央 堀通 道

速  $\mathcal{O}$ 走行はできないが、 中 16号線は、 -間にある。 都心から約3 般道路であることが大きな特徴だ。 高速料金がかからないメリットが 0 km 圏で、 外環道と圏央道

るが、 6号線は一 物流センターなど多様な建築物や施設の立地場所とな 沿線および沿線の近くが、住居、商業ビル、レストラン、 で結ぶ。したがって、この違いにより、一般国道では、 であるが、 道路は、 あるので、 計画、 高速道路では、ICの周辺だけが立地の中心にな IC(インターチェンジ)を点と点で結ぶ路線 16号線を利用するドライバーも多い。 般道であるからこそ、多様な発展ができた。 構想時の時代背景は異なるが、たまたま、1 16号線のような一般国道は、 都市沿線を線 高速

ら30㎞程度が、 の低い郊外が発展していくのは当然として、この都心か ていく中、 り発展のポテンシャルが高かった。東京圏全体が発展し どは、この20~30年の間、 と、よく言われてきた。千葉、 都心から30㎞ 東京のベッドタウンとして、少し離れ ちょうど16号線と重なったのも発展 程度離れている都市は、 それぞれの内側の都市よ 柏、大宮、 川越、 将来発展する 立川な た地価

東京から見れば、16号線の沿線は少し遠い郊外であ

要因になった。

てしまう。16号線沿線の都市が、その周辺とさらに遠思っても、それならば、都心まで行った方がいいと考え買い物などができる。もう少し都心に近いところまでとに遠方の人々は、東京まで出かけなくても、ある程度のる。ただ、そこに商業施設などが集積してくれば、さら

方の人々の経済活動の受け皿になった。

変わってきている。でも、この数年で商業施設なども増え、驚くほど大きくでも、この数年で商業施設なども増え、驚くほど大きく〜八千代間の沿線開発は、遅れているように思う。それ16号線全体から見れば、いつもよく利用している柏

6号線のこの辺りでは、いわゆる高機能舗装が使われて 路面の摩擦による走行音が大きく、車内での騒音がひど 路面の摩擦による走行音が大きく、車内での騒音がひど 路面の摩擦による走行音が大きく、車内での騒音がひど 路が多いことだ。16号線のように、交通量が多い なる。 全様に、道路舗装が痛みやすく、補修の頻度も高くなる。 とがある。全般に、車と は一つだけ不満に感じていることがある。全般に、車と は一つだけ不満に感じていることがある。全般に、車と

てい 昇を抑えられるなど、いいことづくめの舗装である。 うな状況をあまり感じたことがない。今後少しでも良く 楽を聞くのも厳しくなる。 いだろうか。16号線はこのような区間が多く、車で音 ると、いいことが逆になり、騒音もひどくなるのではな 大変になるというデメリットがある。一旦、目詰まりす 水性舗装とも呼ばれている。しかし一方で、施工が難し 視認性の向上、さらに対すべり性の向上、夏は路面の上 音低下、 ンクリートを表面の層として施工することによって、騒 いるようで、これが悪さをしているのではないかと思っ 経年により空げきが目詰まりして、メンテナンスが 快適に走行できる国道になってほしいと思う。 雨天時の水しぶきや水はねを抑えることによる 高機能舗装とは、空げきのあるアスファルト 周辺の市道などでは、このよ コ

# 1969 (いちきゅうろくきゅう)

たまたま「1969」という由紀さおりとピンク・マ

在だ。 ような曲だった。 親元を離れ、大学入学のために上京し、東京およびその 曲を集めたものだ。由紀さおりの透明感のある歌声が健 会があった。2011年10月に発売されている。 介)の「夜と昼のあいだに」などは、深夜族を象徴する さおりの「夜明けのスキャット」やピーター 夜ラジオを聞いて、よく夜更かししていた時期だ。 周辺で暮らし始めた記念すべき年だった。その頃は、深 ットした年で、このアルバムはその頃の年代にちなんだ 69年は、 ルティーニによるコラボレーションアルバムを聴く機 1969年は、自分にとっても特別な年だった。 由紀さおりの「夜明けのスキャット」が 1969年頃の曲は、今でもなじみ深 (池畑慎之 大ヒ 1

に存在し、淀橋区(現在の新宿区西部)、淀橋浄水場、淀が、もともと由緒ある地名だ。豊多摩郡の淀橋町が過去った。淀橋は、その頃、新宿区の1地区に過ぎなかった西新宿六丁目)で、新宿駅西口から徒歩十数分くらいだ 最初に、アパートを借りたのは、新宿区淀橋(現在の

V

ものが多い。

の地名を流用している。る。その後、新宿駅西口に開店したヨドバシカメラもこ橋台(武蔵野台地の東端部)にもその地名が使われてい

ができた。

対期段階であった。浄水場の撤去跡はまだまだ見ること

初期段階であった。浄水場の撤去跡はまだまだ見ること

ともと淀橋浄水場跡地を利用した「新宿副都心」計画の

ともと淀橋浄水場跡地を利用した「新宿駅西口の一帯は、も

ずホテルが建設中で、日を追うごとに高くなる様子を見

当時、新宿西口の高層ビル群の最初のビル、京王プラ

あまり良くない印象だった。

署の前を通って、 たこともない自分にとっては、驚いたというより、怖か 刺青をした人たちだった。実際の刺青などをめったに見 驚くべき光景を目にした。自分を除く客の全員が立派な るとき、深夜にしては客が多かった日だった。そのとき や銭湯があり、この銭湯には何回かお世話になった。 入ったところだった。成子坂下には、昔ながらの映画館 ったというのが正直な気分だった。 てその銭湯を出たが、 アパートは、青梅街道を中野方面に向かい、新宿警察 成子坂下まで行き、そこから南へ少し その後、 その銭湯には あたふたと風呂に入 二度と足 あ

大久保駅の近辺は、今やコリアタウンだ。昔は、風紀上駅の近辺は、ラブホテル街で有名だったし、その先の新りに多くの関係者が住んでいたのだろうと思う。大久保かって、柏木という地名の町があったが、多分そのあたを運ぶことはなかった。成子坂下から大久保駅方面へ向を運ぶことはなかった。成子坂下から大久保駅方面へ向

ている。これが、「淀橋」で、 署もそれらしいところにあり、「成子坂下」というバス停 いうことが、今になってわかった。 かって上り坂だ。橋名板をよく見ると、「淀橋」と記され 成子坂下から青梅街道を中野坂上方面へもう少し下る た所なんだと納得できた。ストリートビューでさらに 留所も確認できる。やはり、この辺りが自分が住んでい と、その後、何度か駐車違反でお世話になった新宿警察 もわからないくらいだ。ただ、ストリートビューで見る も完了して整備され、そのアパートも何処にあったの 住んでいたアパートの周辺は、 橋がかかっている。この橋から先は、中野坂上に向 流れているのは神田 現在では、 橋の前後の 副都心 画

の坂道は、 神田川 が削った谷によるものだった。

題がクローズアップされた時代だった。 す紫色のもやがかかって見えることが多かった。公害問 アパートの近くからでも新宿駅方面の上空を見通すこ インの光とスモッグが一体となって、駅の上空全体がう とができた。夜になって、駅方面を見渡すと、ネオンサ 当時は、 まだ高いビルが少なかったので、住んでい た

1

ーター・ポール&マリー、キングストン・トリオ、ブラ といっても、 年から3年までの実質2年間くらいだ。フォークソング バンドを組んだのが1年の途中なので、活動したのは1 サークルといっても、バンドの集合体みたいなものなの ソングのサークルが時間を費やす場所であったりした。 年は授業がなかった。たまたま入会した学校のフォーク それぞれのバンド活動が主体だった。自分が始めて 日本のフォークソングのコピーも多かったし、オリ ズ・フォーなどのコピーバンドが多かった。もちろ 969年は、まだ学生運動が激しく、入学しても半 アメリカンモダンフォークと言われた、ピ

> サイモンとガーファンクルやボブ・ディランなどのフォ ななかで自分は、2つのバンドを経験しているが、 いたのは、バーズ、バンド、CSN&Y、ニール・ヤン ークロック系の曲を志向していた。その頃、よく聞いて プロとして活動しているバンドもいくつかあった。そん ジナル曲を手がけているバンドも多かった。 って、実現しているバンドもあった。また、在学中から オリジナル曲を作って、日本語のロックをやりたいとい なかには

クフェスティバル、イギリスでは、ワイト島ロックフェ の当時はそのような出来事は全くわからず、関心を持つ の方向性に多大な影響を与えたイベントだ。自分は、そ ク史上画期的なもので、その後のポップスやロックなど スティバルが行われている。これらのイベントは、 な年であった。その年に、アメリカでは、ウッドストッ ようになったのは、 後になってのことだった。 ツ

0 仕事に就いている者が多かった。ディレクター、 サー クル出身者は、 同期を含めて、卒業後も音楽関係

重要

グなどで、やはりアメリカのものが多かった。

実は、1969年は、世界の音楽業界にとっては

は別としても、それぞれ好きな仕事に就けるということ ーティストとして活躍している人もいる。仕事の大変さ などで音響設備を操作・調整する技術者)、カラオケ配信 ニア(パブリック・アドレスという職業で、 ジューサー、 ほんとに羨ましいことだ。 楽器制作会社など様々である。 アーティスト、 レコード会社、 まだまだプロのア P A エ コンサート ンジ

誰もフォークゲリラとは何の関係もないのだが、火炎ビ っているので、途中警察の職務質問を受けてしまった。 けて行くことができるのだが、 いて帰ることにした。アパートに帰るには、 のアパートに泊まることになっていたので、 きがある。 学校から新宿のアパートまで電車で帰れなくなったと 事件があった年だ。その事件の余波で、電車が止まり、 などが入っていないか、 トナム反戦運動 もう一つ思い出がある。 そのとき、たまたまバンドの仲間たちが自分 いわゆるフォークゲリラの強制排除 全員、 1969年は、新宿駅西口 みんなギターケースを持 ギターケースの中を調 仕方なく歩 新宿駅を避  $\mathcal{O}$ 

> た。 く記憶に残っているものだ。ちなみに、ギターケースは べられた。ささいなことであるが、このようなことはよ フトケースやバックパック型のケースは見かけなかっ みんなハードケースだった。現在普通に使われているソ 譜面台も所有した記憶がなく、 当時は歌詞もコード

らに、大きな変化が起きているだろう。自分たちの世代 りに多くのことが劇的に変化してしまっている。まさに 大きな変化を感じないが、 22年)は、すでに53年経っている。1年や2年では 年は、平成を経て、令和に改元された年だ。現在 だけでも、すでに、メタバース、NFT、 はその未来の姿を見ることはできないが、デジタル関係 浦島太郎の心境だ。これから、 もすべて記憶して演奏していたことを改めて認識した。 など次の時代の予兆が見え始めている。 1969年 (昭 和 4 4 年) 半世紀以上も過ぎれば、 から半世紀経 また半世紀過ぎれば、 W った20 e b 3  $\stackrel{\frown}{2}$ 1 9

### 映画の感想と書評

#### 映画の感想と書評 時事評論五編



映画「卒業」の一場面

# 一、映画感想 ベンジャミン・ブラドックの生き方

りだった。後に小説も読んでみたが、 大ヒットした。私もこの映画で感動した当時の若者のひと に「卒業」のタイトルで映画化もされ、当時の若者の間で 業生)の主人公として創作した。この小説は五○年以上前 かったに違いない。ふだん両親の躾や世間の目に見えない 感じなかったのであろう。 ヒットしたらそれをノベライズするのが通常だが、このケ く小説の筋立てと同じだった。先に映画が完成して、 カの作家チャールズ・ウェッブが小説「The Graduate」(卒 スは逆だった。映画製作者は敢えて構成を変える必要を この映画で真実の愛とは何かについて考えた若者は多 ベンジャミン・ブラドックは架空の人物であり、 ・ルに縛られている若者は、 主人公ベンの世間の秩序を 映画の内容はまった アメリ もし

ぶち壊す行動に大きな共感を得たに違いない。

マザ

ーコン

ックスやファザーコンプレックスに頭を抑えられて

その時真実の愛を語る相手がいなかったからだと思う。との時真実の愛を語る相手がいなかったからだと思う。といたとしたら、小心者にも拘わらず真実の愛を心の拠しい。世間の壁は厚く巨大でとても自分のような小さな力ではどうにもならない、そう思うのがふつうだからだ。私もまったが、小心者だった自分にはとても叶わなかった。新思ったが、小心者だった自分にはとても叶わなかった。新しいたとしたら、小心者にも拘わらず真実の愛を心の拠め所として、若さが故に突っ走ったかもしれない。何事もなく世間という空間で、いまを平穏に生きていられるのもなく世間という空間で、いまを平穏に生きていられるのもなく世間という空間で、いまを平穏に生きていられるのもなく世間という空間で、いまを平穏に生きていられるのもなく世間という空間で、いまを平穏に生きていられるのもなく世間という空間で、いまを平穏に生きていられるのもなく世間という空間で、いまを平穏に生きていられるのもなく世間という空間で、いまを平穏に生きていられるのではなが、からだと思う。

しないのではないか、と私は個人的に思う。ところで、現在の若者はどうか。両親にコンプレックスところで、現在の若者はどうか。両親にコンプレックスところで、現在の若者はどうか。両親にコンプレックスところで、現在の若者はどうか。両親にコンプレックスところで、現在の若者はどうか。両親にコンプレックスところで、現在の若者はどうか。両親にコンプレックスところで、現在の若者はどうか。両親にコンプレックスところで、現在の若者はどうか。両親にコンプレックスと

簡単にストーリーを書く。

自慢で、近隣の人々や自分の商売上の取引相手に大いに吹サイレンスが流れる中、航空機のタラップを降りたベンジサイレンスが流れる中、航空機のタラップを降りたベンジールの花形選手だった。学業でもスポーツでも並外れたスーパースターだったのだ。ブラドック夫妻はそんな息子がーパースターだったのだ。ブラドック夫妻はそんな息子がーパースターだったのだ。ブラドック夫妻はそんな息子が自慢で、近隣の人々や自分の商売上の取引相手に大いに吹自慢で、近隣の人々や自分の商売上の取引相手に大いに吹きない。

自分の人生はこれでいいのか、という疑問に違いなかった。自分の人生はこれでいいのか、これを恥ずかしい卑小なものでの存在に過ぎないと思い、これを恥ずかしい卑小なものいなかった。全てが夫妻と同年齢かそれに近い人々だった。いなかった。全てが夫妻と同年齢かそれに近い人々だった。いなが東部の大学から帰宅してしばらくすると、夫妻はベンが東部の大学から帰宅してしばらくすると、夫妻は

聴していた。

自分の強すぎる性的欲望に勝てなかったのだ。というこれからの行動が倫理に背くことは分かっているのだが、がらない。彼女にしても相当な覚悟をもって誘惑している。だが、ロビンソン夫人にしてもそんなことでは引き下だ。だが、ロビンソン夫人にしてもそんなことでは引き下だ。だが、ロビンソン夫人にしてもそんなことでは引き下だ。だが、ロビンソンがら車で自宅まで送って欲しい。べったが、ロビンソンがべいを誘惑するのである。彼とのミセス・ロビンソンがベンを誘惑するのである。彼とのミセス・ロビンソンがベンを誘惑するのである。彼

ンは彼の幼少時

から自分の成長を見ているロ

ビンソ

かった。

でしまう。万事休すの状況になってしまった。 でしまう。万事休すの状況になってしまった。 でしまう。万事休すの状況になってしまった。 でしまう。万事休すの状況になってしまった。 のエスコートを待っていたのか車から降りようとしない。 をに誘惑する態勢に入った。夫人の年頃はまだ四○代後半 にもいかないだろう。精一杯の抵抗をしようとするが、夫 たに抵抗した。まさか昔からの知り合いの夫人を抱くわけ たに抵抗した。まさか昔からの知り合いの夫人を抱くわけ ないだろう。精一杯の抵抗をしようとするが、夫 といまう。万事休すの状況になってしまった。

が、ベンにはその時まだエレーンに対する気持ちは全くなが、ベンにはそのである。あわててベンは一階のリビングルー然帰宅したのである。あわててベンは一階のリビングルーところが、そこに救いの手が現れた。ロビンソン氏が突ところが、そこに救いの手が現れた。ロビンソン氏が突ところが、そこに救いの手が現れた。ロビンソン氏が突

から男は創造されていると思うのだ。
抑えろと言っても所詮無理なところがある。そのように神衝動だ。健康な肉体を持つ若い男に女性の裸体への憧憬をビンソン夫人の裸体がチラついていた。これが若い男の性さあ、それからだ。ベンの頭の中にはいつもどこかにロ

この誘惑からは容易に逃れられない。いのかと自分を責め続ける。しかし残念なことなのだが、ったベンは快楽の中にあっても、こんなことをしていていはでしまうのである。二人の深夜の際限のないセックス地側の出かの時間を置いて、ベンはロビンソン夫人に電話を

いに真実の愛に目覚めるのである。

困ったのはロビンソン夫人だ。自分を犯した男が娘と恋

る。デートに相応しくない場所にエレーンを故意に連れ出体、エレーンが自分を嫌ってくれるよう仕向けたのであいた。氏はまさか自分の妻とベンがセックス地獄の関係にた。氏はまさか自分の妻とベンがセックス地獄の関係にた。氏はまさか自分の妻とベンがセックス地獄の関係にした。氏はまさか自分の妻とベンがセックス地獄の関係にした。エレーンが自分を嫌ってくれるよう仕向けたのであした。エレーンが自分を嫌ってくれるよう仕向けたのであいた。エレーンが自分を嫌ってくれるよう仕向けたのである。デートに相応しくない場所にエレーンを故意に連れ出体暇で自宅に戻るエレーンに会ってくれとベンに切り出体暇で自宅に戻るエレーンを故意に連れ出体である。デートに相応しくない場所にエレーンを故意に連れ出体である。デートに相応しくない場所にエレーンを故意に連れ出体である。

べンが感動する。ベンはセックス地獄から逃れるべく、つけが現れ出る瞬間だ。その瞬間を目の当たりにして今度はて自分は彼に嫌われていると悟る。その失望によって、デルとまで思いつめていた。だが、ベンの行動に接してみ染としてずっとベンを見て来ており、すでにこの人しかいした。そして嫌われるような言動を取る。エレーンは幼馴した。そして嫌われるような言動を取る。エレーンは幼馴

に何度目かのデートの後に告白する。 持ちから不倫している年上の女性がいることをエレーン 愛関係に入る。それは許せない。もともとは自分が罪を作 あ った。氏の思いがどんなものだったか、 はベンの下を去った。 ながらも自分の母親と関係を持った男とは続かない。 を譲りたくなかった。 ぬロビンソン夫人その人だった。そこまでしてもベンに娘 人とは言えない。それをエレーンにわからせたのは他なら ったくせにまことに勝手な女だった。ベンも申し訳 れほど娘を貰ってほしいと考えていたものが、 当然、 エレーンにしてもさすがに深く愛し ロビンソン氏もこの事実を知 しかしロビンソン夫 想像に難くない。 憎 しみと な 気

じた男優の表情が柔和から憎悪と軽蔑へと激変する様は 恨 演技で怖いほどだった。 みしか持てない 人間に変貌したのだ。 ロビンソン氏を演

くれるように懸命の努力をするのだが、何をやっても無駄 べく彼女の大学まで押しかけ、 方、真の愛に目覚めたベンはエレーンの愛を取り戻す 彼女にもう一度振り向いて

執念で他人には実に嫌味な人間になっていた。 医学生で、二人のデートの場所にもベンは割り込む形で現 りを保つ方法と思い込んだ。エレーンの相手は他の大学の することだけがベンに残された、最後のエレーンとの繋が は全てが終わってしまう。愕然としたベンは結婚式を阻止 ことを知る。結婚するというのだ。二人が結婚してからで そして、この物語のクライマックスはこの後だ。 人間で、ひとつも嫌な顔をしなかった。ベンは愛を貫く 医学生の名前まで把握していた。医学生の男は気のい 大学まで彼女に会いに行った時、 彼女が大学を辞めた 何 度目

学部まで行き、 決意した。 結婚式の当日、 ところが、 学生たちの雑談の 式を妨害するため式場に乱入することを 肝心の場所が分からない。大学の医 中からその場所を探り出

 $\mathcal{O}$ け、

結婚式で使用される大きな白木の十字架を振り回

を放っている。ロビンソン夫人のそのときの胸中は だった。とくにロビンソン夫妻の憎しみに満ちた顔が異彩 離を移動する。 乱入した彼を迎えたのは、参列者全員の轟々たる非難 鍛えた体で式場までラストスパートを走り抜けた。 した。ベンは愛車のスポーツカーをぶっ飛ばし大変な長距 途中ガス欠まで起こし、その後は持ち 式場に 一体ど の目 前

と一散に駆け出した。 ともやはりこの人しかいないと思ったのであろうか。それ 叫 周囲の逆方向の波に流されなかったのだ。エレーンもまた そのベンの叫びに呼応したのが、エレーンだった。彼女は 人々の群れの中に突っ込んでいく。そして彼女の手を取る ン!」。これで二人の運命は決まった。勇気を得たベンは はどっちでもいい。 ベンをまだ愛していたのだ。これが本当の愛かもしれない。 みが渦巻く空気の中、誰一人として味方がいなかった。が、 の精神状態ではなかったか。 んなものだったであろうか。ふつうの人間が経験する最低 んだ。 四面楚歌の中、「エレーン!」とベンは叫ぶ。全員の憎し 彼女はベンを気の毒に思ったのであろうか、それ とにかく彼女は叫んだのだ。「べ 人々が振るいつきそうになるのを払

とガーファンクルのグレートヒット、あの名曲サウンド・る。そこで映画はラストを迎える。そこでもまたサイモンし、二人は逃げる。そして折よくやってきたバスに飛び乗

オブ・サイレンスが流れる。

越え、 間 は 幸運なことだった。勿論、若さが害をなすのは恋愛だけで それが若気の至りというものだ。 だ。だが、今は違う。もしもその時、 ったから、そうした行動には至らなかった。それは本当に にあったとしたなら、きっと影響されて一線を簡単に飛び とが出来なかった。それだけ感受性が強かったということ った若者たちがいたことでもよくわかる。年齢を経て、 まで揺り動かされ、 ない。 を知り、 以上が、 あるものかどうかがよくわかる。 世間の常識に反する行動を起こしたかもしれない。 誤った思想や宗教に嵌まり、「よど号ハイジャック 「オウム真理教事件」などとんでもない犯罪に走 また冷静に物事を見られるようになれば真に価 簡単な粗筋だ。 しばらく映画が終わっても席を動くこ 私は若いころこの映画に心底魂 幸い私は恋愛中ではなか 私が困難な恋愛状態 世

そこでベンジャミン・ブラドックのその後の人生を想像

には戻らない。噂は当事者だけに留まらず拡散される。それには戻らない。噂は当事者だけに留まらず拡散される。それにしてみる。容易に想像がつくことは、彼のその後の人生はこの男は油断がならない。そうしたレッテルを貼られ、そのような部類の人間と思われるようになる。せっかく相互の親たちが築いた親密な関係は音を立てて崩れ、二度と元の親たちが築いた親密な関係は音を立てて崩れ、二度と元の親たちが築いた親密な関係は音を立てて崩れ、二度と元には戻らない。噂は当事者だけに留まらず拡散される。そには戻らない。噂は当事者だけに留まらず拡散される。それには戻らない。噂は当事者だけに留まらず拡散される。それに戻らない。噂は当事者だけに留まらず拡散される。それらには戻らない。噂は当事者だけに留まらず拡散される。それらには戻らない。噂は当事者だけに留まらず拡散される。それらには戻らない。

ロインになってしまう。私にはベンという男が熱しやすい人しかいないと思ったとしてもとくにベンの場合はエレーンの涙を見て一気に燃え上がったのではないか。もしそのだとしたら、甚だ先行きが心配になる。この世に完璧などはなく、いずれ醒める時が来る。愛を長続きさせるには双方の努力が必要なのだが、もし彼が仕事でうまくいかなくなった時、その原因をエレーンに転嫁するようにでもなったら恐らく夫婦関係は破綻し、エレーンは悲劇のともなったら恐らく夫婦関係は破綻し、エレーンは悲劇のとはないないと思ったとしてもとくにベンの場合はエレーンになった。

れが世間というものだ。

ではない。
にすれば一時的なものとして映るが、エレーンの愛はそう
ソン夫人との異常愛からの反動で急速に高まった愛は私
たように思う。こちらの方が本物の愛に思われる。ロビンンを見ており、彼女なりに彼に対する愛をじっと育ててい
人間に思えてならない。一方のエレーンは幼いころからべ

ことだが、それが出来ないのが若さなのかもしれない。れた立場を吟味しなければならなかった。もっとも残念など難しくとも、その時は暫時立ち止まってよく自分の置かと難しくという若者はロビンソン夫人との出会いをどん この映画を通して私が感じたことは、ベンジャミン・ブ

世間を敵に回したことでムダな時間を費やしたとも言えせ間を敵に回したことでムダな時間を費やしたとも言えを襲う困難や障壁から彼を自由する力になるとは思うが、破滅に繋がりやすい。大学で養った学識や能力は以後ベンを破壊する行為はよくよく考えてから実行しないと身のとにかく繰り返しになるが、世間への抵抗、世間の常識とにかく繰り返しになるが、世間への抵抗、世間の常識

ついでに書くと、この映画で使われた、サイモンとガー

としてこれからも世に残るであろう。ロビンソン」「スカボローフェア」はスタンダードナンバーファンクルの名曲「サウンド・オブ・サイレンス」「ミセス・

## 二、書評 魯迅著「孔乙己」について

乙己(こういっき)である。あり思想家だった魯迅が書いた短い六枚程度の小説が「孔あり思想家だった魯迅が書いた短い六枚程度の小説が「孔中国・清朝が終焉を迎えた七年後の一九一九年、作家で

て支払いを済ませる。おそらく盗みを働いたのだ。
 大抵はツケだが、時々どこからか金を工面してきては一気まとっていた(長衣はもともと裕福な子弟が着る)。そしてまとっていた(長衣はもともと裕福な子弟が着る)。そしてまとっていた(長衣はもともと裕福な子弟が着る)。そしてまた。
 (長衣はもともと裕福な子弟が着る)。そしてまた着古したためにボロボロになった長衣をいつも身にまた。

た民であった。だから連中の気分はいつも落ち込んでいて「居酒屋の表に並ぶ人種は、一様に人生に失敗し落ちぶれ

方がましと思えるのだ。が弾むのだ。彼らにとって、孔に比べればまだ自分たちのに明るくなる。バカにする相手が目の前に現れたために心元気がない。ところが、孔乙己が姿を見せると一同は途端

だったのである。 失っていなかった。からかわれると本気で怒るのだ。 とは想像できた。そんな孔乙己だったが、 らが何の淀みもなく口をついて出てくる。乞食のような男 経が「易経」「書経」「詩経」「礼記」「春秋」のこと)。それ 四書五経とは、 聞くと、それは四書五経の漢文であり詩文らしい。(因みに 乙己こそ、天下の大秀才たちの目標だった、 の驚異的な記憶力だけだった。 し彼の誇れるものは四書五経の一言一句を口にできる、そ  $\mathcal{O}$ 般の人にはとても理解できない難解な言葉だった。よく のだが、それでもそれがあの超難関の科挙に関係がある 口から出る。 孔はいつも何かブツブツと独り言を呟いている。 周囲には誰 四書が「大学」「中庸」「論語」「孟子」、五 一人それを理解できる者はいな つまり、 この落ちぶれた孔 プライドだけは 科挙の受験生 それは ただ

「隋」の時代から始まり、近代の「清」末期までの約一三ここで科挙について語らねばならない。科挙は中国の

○○年続いた官吏登用試験である。科挙に合格し高級官僚

だった。東大に合格? 科挙合格の義務が発生する。 そんなレベルではない。倍率の高いときで三千倍にもなっ  $\mathcal{O}$ 助され、衣食住は勿論保証される。 して勉強を仕事にしなければならなかったのだ。 毎日休む暇もなく、なまじ優秀だったために一族の代表と 始する。したがって合格平均年齢の三六歳までの三三年間、 代で国立学校に入る。そのために幼いころから猛勉強を開 ほぼ三歳から漢字を覚え始め、受験資格を得るために一○ たというから気が遠くなる。合格者の平均年齢は三六歳。 ところが、この科挙に合格することは過酷なまでに困 おこぼれに預かりたいから必死である。その重圧 またかつての司法試験に合格? 周囲の人々も合格の暁にはそ しかしその分、 周囲に援 彼には に押し

三万字の暗記とその解釈、自分なりに一文一文それぞれに科挙本番の出題科目はひたすら四書五経の一言一句、四

過ごす。

潰されそうになりながらも秀才たちは勉強だけ

0

日

Þ

破られたら即時不合格。あくまで自分なりの考えを書かね年に出回ったらしいが、もしそれが借用され、試験官に見自分の考えを述べねばならない。世間には模範解答がその

たため、 か、 受験しても不合格になる人も出てくる。 いうのか。 勉強してきた。その人間が不合格になる。するとどうなる 不合格組のひとりだったのだ。幼くして三歳で漢字を覚え 違いも起り得る。受験の合否はある程度は運であり、 の時体調を壊していれば合格は覚束ない。ほんの一瞬の勘 らはその地方を代表する秀才。 倍率三千倍なら受験生の総数は一五万人となる。その一人 水泡に帰してしまうということだ。そして親族には見捨て 人が村、 ○代から五○近くまで、 な境遇になることは容易に想像がつく。 年ごとの官吏採用人数は、 知識だけが残っても意味がない。 その結果は一体どんな生活が彼を待ち受けていると 生活力の無い人間になっている。 自分自身生きるための術を身につけてこなかっ 町あるいは県の大秀才ばかりだ。とにかく、 科挙に合格するためにだけに猛 私の想像で仮に五〇人として しかし受験は一発勝負。 かけた人生の時間が 孔乙己もそうした 結局は無気力で 落ちぶれて、 何度 彼 そ

の希望もない人生に転落する。

何

ついに飢えて道端で死んだ。となった。そして、誰もそんな彼を哀れに思うこともなく、された。そのため、彼の足はダメになり歩行は四つん這い盗みをやった。ところが今度は捕まり、残酷なまでに打擲のいでに作中の孔乙己の最後についても書く。彼はまた

紀にこれまた中国で発明されたと記録にある。の蔡倫が紀元一〇五年に発明した。さらに黒色火薬は七世作られ、また文明の発達に大きく貢献した紙の発明は後漢の発祥地であるだけでなく、紀元前には羅針盤のひな型がそこで私は考える。中国は四大文明のひとつ、黄河文明

5 な秀才たちを儒教の文言のみに縛り付け、 この科挙にあったのではない 土を蹂躙されてしまい、 ような観がある。 王朝の交代がただ連綿と続いただけで、歳月をムダにした 国がその後大した発明もなく、社会制度の改良発展もなく |書五経の暗記に費やさせたことは大罪でしかない。だか 中 私は何が言いたいのか。これだけ独創性に富んでい 一国は 世界に後れを取ったのだ。 一九世紀にはヨーロッパ列強によって国 半植民地化された。 か。 誰が考えても天下の有為 才 能のすべてを その原因は、 、た中

国を私はそう見る。

「儒教は「上の者を敬って、社会秩序を守れ」が基本で、個数は、上の者を敬って、社会秩序を守れ」が基本で、個数は、上の者を敬って、社会秩序を守れ」が基本で、国を私はそう見る。

中国はもっと偉大な国に成長していた、と思う。し、また社会・経済制度の改良等に取り組んでいたなら、才たちが物理学や医学やその他自然科学の研究に精を出そして、ここが肝心なのだが、もしもこれら天下の大秀

# 二、書評 S・モーム「弁護士メイヒュー」について

主人公メイヒューはアメリカのデトロイトで開業していた。まず、簡単にストーリーを書いてみる。の小説を読了したとき、我が意を得たりとばかりに膝を叩「弁護士メイヒュー」はモームの短編小説である。私はこ

っていた。そこで突然、彼は繁盛している弁護士事務所をれ上がり、いつ弁護士を辞めても十分に暮らせる状況になま務所は千客万来、大いに繁盛していた。資産は大きく膨だけ救われたか知れない。当然、評判が評判を呼び、彼のいる腕のいい弁護士である。顧客の多くが彼の弁護でどれ

からだ。世間の醜い争いごとに深く突っ込み過ぎたらの方がむしろ大きな理由であったが、世間が嫌になった理由は二つあった。生活に困らないことのほかに、こち

閉じてしまった。

斎に引きこもり著作に励むようになった。生に嫌気がさして、三十八歳になるとさっさと引退し、書た。人間世界に頻発する小さないざこざに巻き込まれる人た。人間世界に頻発する小さないざこざに巻き込まれる人を談になるが、十六世紀フランスが生んだ偉大な思想家余談になるが、十六世紀フランスが生んだ偉大な思想家

その書斎の壁には、彼の有名な言葉が今も掲げられてい

る。

と平安のうちに過ごすことができるようにと、博学な女神ため、まだ十分に壮健ではあるが、なお残りの日々を安息『久しい前から法廷での隷従と公共の責務に倦み疲れた

の胸に引きこもることにした』

「随想録(エセー)」である。このモンテーニュとメイヒュそこで書かれた作品がモラリスト文学の先駆となった

の生き方は似ているかもしれない。

しまったのだ。

大工歳のときであった。

大工歳のときであった。

大工歳のときであった。

大工歳のときであった。

大工歳のときであった。

大工歳のときであった。

大工歳のときであった。

大工まれている

大工歳のときであった。

大工は、現地を見ること

大工歳のときであった。

大工はカプリ島に旅

大工歳のときであった。

十四年間 始 彼は歴史を書くため、資料を一心不乱に収集しメモに残し 気がついたのだが、 を書き残そうと思い立ったのである。これが彼自身、 後に関心を持ったことは、 ローマ帝国の紀元後二世紀の歴史であった。彼はその歴史 がめた。 しむとはこのことだ。病気になろうが、疲れていようが、 仕事を失くしたメイヒューが、しばらく呑気にすごした そしてそれを丹念に分類した。それこそ寝る間も 彼は寸時も休まず刻苦勉励したのだった。 生涯で最もやりたかったことだった。 カプリ島に多く遺跡として残る 題材 後で

んで頑張り続けた彼はこれからというときに突然死んでことにした。ところが、運命は残酷だった。寝る間も惜しをすっかりものにした段階でいよいよ著述に取り掛かる

果たして成功者であったのか、それともその人生は失敗でここで、モームから問題提起がなされる。メイヒューは

あったのか?

滅や悲哀や世間が誤まるかもしれない評価を味わわずに なことだった。 間こそ、人生に夢中になれた幸福な時間だったというので 目前にしながら死んだ。そして目的が達成されたときの幻 た。だから、それが最も重要なのである。 ある。世間は彼を成功者に挙げないだろうが、それは些末 くとも自分のやりたいことをやった。そして、その十四年 な成功者であったというのだ。何故か。メイヒューは少な ところが、モームの見方は違っている。 ふつうの見方は、メイヒューの人生は失敗かもし 世間の評価に関わらず、彼自身が幸福だっ メイヒューは完璧 彼は、 ゴールを れ ない。

部分とがある。彼の幸福論にはもろ手を挙げて賛成する。私には、モームに賛成する部分と必ずしも同意できない

すんだ。これがモームの考えた理由だ。

しか 影響されてはならないのだ。それが、自分というものをし 代背景が異なれば、 下らない評価であっても耐えなければならない。それが 1 っかり持っていなければならぬという、モームの真意とも 輪 に整理すればい ・える。 際といっていいほどない。 :し、一方で、世間から逃げてはまずい。世間が与える、 ・い加減なものであっても、 世間が与える評価に絶対的なものは金 評価はどうにでも変わる。そんなもの それこそ、 評価は自分の中で最終的 世間が置かれる時 如

わ て子供についても、彼または彼女に固有の人生があって、 世から消える。すべては、一時の預かりものなのだ。そし る存在か)にお返ししなければならないからだ。確かに遺 うことである。何故なら、 自分が所有するかに見えるものは、すべて預かりものとい 世間から与えられた評価や財産や子供や、ありとあらゆる いして親の所有物ではない。 「は子供が引き継ぐだろう。だが、その子供もいずれこの れるかに価値があるのではない。また自分が生涯に得た 翻って、私はこう思う。自分の人生は、 したがって、 人生の成功不成功は世間の空疎 死ぬときにはすべて神(偉大な すべて神からの預かりものな 世間からどう思 な評価

にすぎないことになる。

のことが、「弁護士メイヒュー」から私が得た教訓であった。ー。だから彼のように、自分の信じた道を進めばいい。こ、なや世間の評価に左右されずに人生を歩んだメイヒュ

### 時事評論五編

### 一、小野平八郎氏について

を知った。

を知った。

の後を調べてみて私の想像が当たっていたことを働き逮捕された。そのため財務省の次期事務次官就任を
を働き逮捕された。そのため財務省の次期事務次官就任を
たのか、その後を調べてみて私の想像が当たっていたこと

民党議員有志に全面的に否定されたのである。つまり、日たき台に議論していたのだが、彼は積極財政を主張する自「財政再建のために新規国債の発行は止めましょう」をた前日の一九日、財政健全化推進本部で小野氏が書いた

られ、 骨太の方針にプライ 財 も堅持しようとしたのである。 てきたプライマリーバランス黒字化のスタンスをここで 難色を示していた。 た 本経済をデフレ にのだ。 政出動が必要であるとの方向に議論が収まってしま それを受け ・野氏は勿論、 から脱却させ、 総いだのが財務省であった。 最悪の民主党政権が誕生し、そのとき マリーバランス(PB)黒字化が定め 緊縮財政の立場であり財政出動に 経済を立ち直らせるために 以来、 続け 0

政破綻を防ぐための前提条件であると説明する。

させるというものである。財務省に言わせれば、国家の財費等の歳出だけを計算し、その結果において収支を黒字化わる収支を一切カウントせずに税収等の歳入と社会保障利払いや借り換え等に伴う歳出について、つまり国債に関プライマリーバランスとは国債発行による歳入とそのプライマリーバランスとは国債発行による歳入とその

う。 活 を達成しようとすることである。 るのは税収を増やし、 プライマリーバランス黒字化のために、ここで問 一力抑えようとする。 G 窮乏化を招く。 D Ρ の伸びは民間消費と設備投資 何故なら国民は生活防衛のために消費 社会保障費等を減らすことで黒字化 これがG これが結果として国民生 Ď Ρ 0 伸 びを抑えてしま 公的固定資本形 問題とな

> 設を作る等)ということになる。 府による公共投資(ダムを作る、道路を補修する、港湾施成等が大きな柱なのだ。なお、この公的固定資本形成が政

黒字化であると言っていいだろう。 財政破綻を怖 りに国民生活を犠牲にしていることになる。 因が骨太の方針に定められているプライマリーバラン とになる。すべての元凶はデフレであり、 ら結婚もできない。 可処分所得が大きくならない。生活にゆとりが持てな 給与はGD 先進各国 問題にしなければならないのは、 [の中で唯一この二○年横〕 Pが伸びなければ上がらないのである。 したがって、少子化に拍車をか ばい状態であることだ。 日 本のGDPの そのデフレ れるあ けるこ 伸びが つまり の原 ス ま

ない。 をいくら発行しても問題はない する日銀に利子を払っても結局納付金の形で最後は政 の実質子会社である日銀が国 ればいくらでも国債発行により自国通貨を発行でき、 債を発行しているからである。 戻るから国債の利子についても気にしなくてい しかし、 何故なら、 事実として財政破綻は日本国においては 変動相 場制を採用しつつ自 債 何故か、 のである。 の買い取りを行えば国 通貨が足りなくな 玉 債を大量 玉 [通貨建 あ 葆 政府 り得 て国 府 債 カン

あり、 だし一方、気を付けねばならないことはインフレが過剰に 進行した場合は国債 国では物が不足してインフレになることはない。このこと はデフレがずっと継続していることで証明されている。 ŧ 産業基盤が つまり最大概念の潜在GDP(注)が大きいから日本 としっかりしていて物資の供 の無制限発行は出来ない。ハイパーイ に給能力が十分で た

ンフレになってしまうからである。

どうして国家財政が破綻すると相変わらず間違った主張 を続けるのか。 この事実を財務省自身が認めている。 それにも関わらず、

要を新たに作り出すしかないのであり、そのことを認識 くこの議論を強め た自民党の有志は現在に至って、財務省の厚い壁を壊すべ 日本をデフレ から救い出すためには ている。 九日はその議論が交わされて 財政出動により需

いたのである。

く作られたと認識しているからである。 る Qが主張したことでもあり、 そのために戦後制定した財政法第四条第 方で困ったことに財務省にはトラウマがある。 国債発行によって戦争遂行に必要な金が見境な それが重くの それはかつてのG しかかってい 一項には 大東亜 国

> この条文に財務省は縛られ、 貸付金の としなければならない。 で公債を発行しまたは借入金をなすことができる」とある。 の歳出は公債または借入金以外の歳入をもってその 財源については国会の議決を経た金額の範囲内 ただし、公共事業費、 国債発行に過大な抵抗感を持 出資金及び 財 源

ってしまっているのだ。

国債発行を実行するが、極力、少額に止めようとする。 来ればゼロにしたい。それを限りなく達成できた者が省内 よって歳入を賄うか、国債以外にないのである。仕方なく レで税収が思うように伸びないことだ。そこで政府は何に ところが財務省にとって都合の悪いことは、現状はデフ 出 79

足掻きが始まっている。 綻は近い」という趣旨の論文が掲載されるなど財務省 秋には財務省事務次官の矢野康治氏による「日本 てしまい、深酒になったと思われる。 に展開したようだ。そのため彼のストレスは最高潮に達し 政出動支持に変わりつつあり、 と勝手に思い込んだのではないか。 で出世する。それが不文律なのだ。 小野平八郎氏は一九日の議論に勝たねば そのさなかに今回の事件は起きた 議論は小野氏にとって不利 しかし最 昨年 一一月の文芸春 出世 近の 流 0 財 難 の悪 政破 は財財

のである。

れほど彼はバカではない)

れほど彼はバカではない)

れほど彼はバカではない)

れほど彼はバカではない)

れるものでもない。もっと自分の置かれている立場を客観がるものでもない。もっと自分の置かれている立場を客観がるものでと、会話に加われば良かったし、ストレスを溜めるほどのことでもなかったのではないか。(実際のところるほどのことでもなかったのではないか。(実際のところし、積極は、小野氏は激高もせず冷静に議論をしたと私は思う。それなに焦ることはなかったのだ。何故ならこうした議論はではない)

のか。 官僚 よりはっきりとわかってしまったことだ。それに比べ、ア とからも日本がアメリカとの大東亜戦争に敗れるべくし 人が物を合理的に考える事の出来ない国民であることが ブリージュ(ややニュアンスは異なるが)はどこに行った てエリートたちが持っていたと考えられるノーブレスオ の方策より自分たちの省益ばかりを優先させるのか。 メリカ人の何と合理的思考力に優れていることか。このこ ってしまったのか。そして何よりも残念に思うことは日本 しかし、私が大いに疑問に思うことは、どうして日本の (財務省だけではない) どうして自分のことしか考えられない卑小な国にな は、 国民が豊かに暮らすため かつ

て敗れたと言えるのではないか。

そしてもうひとつ、枝葉なことだが、何故小野氏はタクとしてもうひとつ、枝葉なことだが、何故小野氏はタクとしてもうひとつ、枝葉なことだが、何故小野氏はタクとしてものに見がいるところで、最後にこれだけは言っておきたい。私は積極を失墜させる。よって小野氏の電車での帰宅は謎である。ところで、最後にこれだけは言っておきたい。私は積極ところで、最後にこれだけは言っておきたい。私は積極ところで、最後にこれだけは言っておきたい。私は積極ところで、最後にこれだけは言っておきたい。私は積極ところで、最後にこれだけは言っておきたい。私は積極ところで、最後にこれだけは言っておきたい。私は積極としているというない。

財政派の立場である。

(注) 最大概念の潜在GDPとは

整理すれば、以下の通りである。

いうことになる。

いうことになる。
日本がこれら人材と設備をフルに稼動さない部分がある。日本がこれら人材と設備をフルに稼動さない部分がある。日本がこれら人材と設備をフルに稼動さない部分がある。日本がこれら人材と設備をフルに稼動さって人材が十分に活用されず、また生産設備も稼働している。その一方で供給能力が大きい日本では需要が冷え込み、その一方で供給能力が大きい日本では

# 二、岸田文雄氏の「浅慮」発言について

率はかなり低下した。この騒動によって岸田氏の支持ったことは記憶に新しい。この騒動によって岸田氏の支持そこに到るまで世間を二分する是非論が国内で巻き起これた。国葬は菅氏の弔辞のように感動的シーンもあったが、令和四年九月二七日、故安倍晋三元首相の国葬が行なわ

のために努力してくれた恩人ではないか。 後日記者団から国葬について質問を受けたとき、それに を言ったのだ。この言葉から読み取れるところは、少しも をにないか。従来から日本では死者は自然に仏様になると考え ないか。従来から日本では死者は自然に仏様になると考え ないか。従来から日本では死者は自然に仏様になると考え ないか。従来から日本では死者は自然に仏様になると考え かたてとも力及ばなかった点が多少あったにせよ、日本 れでなくとも力及ばなかった点が多少あったにせよ、それに 後日記者団から国葬について質問を受けたとき、それに

のだ。これはかつて民主党の鳩山由紀夫氏が「自分はバカたことにもなった。信念を持って決めたことではなかったった。同時にこの発言で自分が無能であることを自ら認めは安倍氏の生前の人気に乗じた自分自身の人気取りであ国葬は閣議で決定したのであるが、その目的としたこと

なかった。この基地移転問題でアメリカとの関係は最悪に と述懐した。これが内閣総理大臣の責任ある立 縄普天間基地を県外に移転すると軽々に発言したが、 ていないから内心が平和なのだ。 かったかのように平然と政治活動を続けている。 本人は事の重大さが全く分かっていない。まるで何事もな て必須と言われるカリスマ性がますます失われた。 と同じで、自分の無能をさらけ出したのだ。 と同じことになったのだ。 なった。つまり、これが自分の無能を内外に公言したこと の勉強のためになったなどと口が裂けても言ってはなら のか。国を危うくする可能性のある重大な政策決定を自分 自分で明確に理解し、「今回、自分は非常に勉強になった」 がどれほど難しいことなのか何も考えていなかった。 な首相であるが……」と言ったことと同種だ。 今回の岸田氏の浅慮発言はこれ 政治家にとっ 鳩山 場の発言な 何も考え しかし 氏 は沖

見を乞われた。岸田氏は滔々と持論を述べたのだが、会終れたそうだ。あるとき岸田氏も会に出席し、鈴木氏から意党の名だたる政治家が氏の下に集まり、よく勉強会が開か会年八月に物故されたのだが、この人が存命な頃には自民鈴木棟一という高名な政治評論家がいた。残念なことに

る。鈴木氏は本人の前でこう言ったのだ。了時に鈴木氏が感想として述べたことが記録に残ってい

どうしようもない」
点が何もないから指摘もできないし、理解もできなかった。た。ダラダラと論旨がはっきりせず中味が何もない。問題「今のご意見、何を言っているのかまったくわからなかっ

考えていないことの証左なのだろう。
論できる。反論しなかったということは岸田氏が日常何もいのか。確固たる自分の信念も持論もないのか。あれば反とただ黙って聞いているだけだったという。プライドがなところが岸田氏本人はまるで何事もなかったかのよう

が 氏はその反省があるの サンチマン(怨念)があったのかもしれない。一方の岸田 とは真逆で敵が多すぎた。既得権益をぶっ潰すために戦 新聞や財務官僚という敵と明確に戦った。菅前首相はそれ らない戦略を取った。それでも立憲民主党や共産党、 たのだ。だから一年の短命政権に終わった。抜きがたいル 何なのか自分でも分からないのではないか。 故安倍晋三氏は長期政権を保つためになるべく敵を作 誰に対してもいい顔をするから自分のやりたいこと か、 敵を全く作らない戦略を取って あるい · は始 朝日 0

平が、間もなく台湾侵攻を開始するだろう。岸田首相で日まった。中国共産党国家主席の三期目入りを果たした習近にわれわれ日本国民は生命と財産を預ける形になってしめから何も考えていないのかもしれない。おそらくそうだめから何も考えていないのかもしれない。おそらくそうだ

本は本当に大丈夫なのか?

質し、 選挙がない状態が続く。 ない。自民党総裁選挙の際の公約にしてもいつの間 口から出まかせだったのではないか。 進めている気配もない。 資本主義の明確な定義もなく、それを具体的な政策として 由主義から脱却し新資本主義を目指すと言っていたが、 しかし金融資産のない人はどうするのか? 気を遣い、首相として何を実行したいのかその核心 さらにもう一言付け加えると、 くのか、 所得倍増がいつの間にか金融資産倍増に変わった。 それを考えるだけでも恐い この三年で日本はどこまで凋落 自民党総裁になりたかっただけの 岸田氏は支持率にば 今後、 三年間 そして新自 国政 カュ 新

## 二、安倍元首相の遭難に思う

とを改めて知った。氏は本物の保守だった。 になる、 てしまって初めてわかる、と言う。 土を大切に思い、そしてそこに暮らす人々の  $\mathcal{O}$ は死者に鞭打つものではなく、また死ねばすべての人は仏 産それに国の主権を断固守り抜く強い思いがあっ 価値がわかったのだ。 ていたよりもずっと上位の人物だったように感じた。 Þ 人物の真の価値はその人が手の届かないところに行 他 が生前の安倍氏の思い出を語るのを聞いて、 |野党の中 誰も悪口を言わないものではある。 -でも同 1.様の思いを持つ国会議員は 日本を愛し、 確かに日本の文化伝統 日本の領海領空と領 同 しかし様々な 人権や生命・ じ自民党や 私が想像 1 、ると たこ 真 0

た。

相変わらず憲法九条が国

の平和を保障してくれている

ずにアメリカに従っていればそれで平和である、 難しくなってきた。 勢いを失い、国力の低下から他国を守り切ることが次第に られたのは、単に平和憲法があったからではない。 平和を維持し、まがりなりにもこれまで安全に暮らしてこ それは国会議員に初当選した時からの信念だったとい 必要になる。 期は過ぎ去った。 カの核の傘に入っていたからだ。そのアメリカもか 日本を防衛するために必要なものだった。日本がこれまで 決して日本を戦争へと駆り立てるものではなく、あくまで 法的解釈を打ち出したのも安倍氏だった。 地位を確かなものにし、 同盟を立て直すべく努力したのも安倍氏だった。 のも安倍氏だったし、 も安倍氏だったと思う。 誰よりも知っており、 は思うが、 九条を始め、 安倍氏ほどの強い思い 革新系の野党はそれだけで安倍氏らを攻撃し 憲法が次第に時代遅れになっていることを 自力で国を守るためには防衛力の となれば日本はかつてのように何もせ 民主党政権時におかしくなった日米 いち早く改正に向けて舵を切ったの 動ける自衛隊にするために新たな 九条の新しい解釈を閣議決定し 0 人物は見当たらな しかしそれらは そんな時 自衛隊の アメリ 強化が つての

ところで話は変わるが、七月八日の身辺警護はなってい倍氏亡き後、団結して日本という祖国を守らねばならない。を守る気があるのか、そこには疑問符が付く。今こそ、安と錯覚しているのだ。立憲民主党や日本共産党は真に日本

る間、

SPや警察は何も動かなかったし、

一発目の銃声が

なったのはその二発目だ。だからもし一発目の銃声の直後

くの間があってから二発目の銃弾が発射された。

致命傷と

あって、安倍氏が音の方向に体をひねり、その後約三秒近

なかった。九秒間をかけて山上徹也が安倍氏に近づいてく

だったのか。奈良県警本部長が今回の警備を反省し、 ば SPの人たちは要人警護に特別に選抜された人間の行動 と無事だったであろう。情けなく苦しい。私に言わせれば さったように、そうした行動を取っていれば安倍氏 領 に警備警護の人々のうち一人でも安倍氏の身体を跳 に耐えないうえに自らの生涯最大の汚点になったと言 (の暗殺未遂事件の時のようにSPが大統領に覆い !すかタックルするか、あるいはレーガン元アメリカ大統 その通りだ。警備体制には甚だ疑問が残った。 以はきっ 慙愧 かぶ ね飛 0

たようだ。人の気持ちを決して逸らさず、いつも気を使い、ところで安倍氏の人物評だが、氏は稀代の人たらしだっ

氏にはある。いまだに感謝しているそうだ。 たとその時の思い出を語った。そういう優しさが安倍晋三 たと言った。落ち込んでいた宮家氏はこれで大いに救わ ぎた時、晋三氏だけは立ち止まり、宮家氏にご苦労様でし とのことだ。会談終了後、皆が黙って宮家氏の前を通り過 が適訳ではなかったらしい。そのため即座にクビになった とき、宮家氏がアラビア語に精通しておらず、 官の晋三氏がイランイラク戦争のことで中東を訪問 て外務省に勤務していたころ、安倍晋太郎外務大臣と秘書 たようだ。同時に優しい。 も話していたい、そういった気分にさせるのが安倍氏だっ ーモアもあり、話の輪にはいつも笑いが生まれ、いつまで 良くさせる。そしていつの間にか味方につけてしまう。 しかもそれがごく自然なのだ。 政治評論家の宮家邦彦氏 当たり前のように人を気分 訳した言葉 がかか した ユ n <u>へ</u>

氏とあそこまで蜜月の関係になったのもこのユーモアがのユーモアが貢献している。アメリカ前大統領のトランプの成果を上げ、日本外交ここにありとの評価を得たのもこ果にも影響がある。安倍氏が世界各国をまわってあれほど果話にユーモアがあるかどうかを重視する。当然、外交成会話にユーモアは外交に必須のものだ。とくに欧米においてはユーモアは外交に必須のものだ。とくに欧米においては

は天才だとも言わしめた。

盟はさらに強固になった。トランプ氏は安倍氏を評して君張が根本のところで異なるトランプ氏との間でも日米同トランプ氏を飽きさせなかったのだともいわれる。主義主

5 ことは安倍氏からいつも陰に陽に相談を受けていた高橋 これがとんでもない壁になってしまったのだという。この て財政出動が必要になる。このことで景気を刺激するのだ このことを反省していたという。 を減退させ、 0 のは消費税増税だった。消費税こそが日本国民の消費意欲 行動を起してくれたに違いない。 ただ政治面での反省点として、 これからもこの壁と戦って、 氏が語っているところだ。 財務省という頑なに財政健全化を叫ぶ組織があって、 デフレが続いた最大の原因は消費税増税だったのだ。 結果GDPの伸びを極端に抑え込んだ元凶だ もし安倍氏が生存していた だからこそ次善の策とし 安倍氏自身が 国のGDPを高めるため 語っていた

の破産だった。旧統一教会に多額の寄付をしてしまい、そかったことが返す返す残念だ。凶行に走らせた原因が母親手な思い込みで殺害した山上という男を誰も止められなこれほど日本にとって重要な人物を個人的な理由と勝

りを感じる。 い男だ。絶対に許せない。 少の余地はあるが、母親の破産が理由となるととんでもな 上に行動した行為だったらならば理解すべく努力する多 るとは思えない。百歩譲ってしっかりとした政治的思想の 務所に入りたかっただけではないのか。 氏に何の関係があるというのだ。私はこの勝手な理屈に憤 あるとは言うものの責任のすべてではないし、まして安倍 まったくの個人的問題であって、 れが原因で破産したのだというのだ。だが、 無職だったこの男は、 旧統一教会に勿論責任 単に生活するため 政治的な理由 破産したの に刑 [があ は

た。その懐の深さを知っておく必要があるだろう。本を前面に出すことなく、すべて自分の問題として処理して名を貸した。それがために安倍氏の存在が大きくクロして名を貸した。それがために安倍氏の存在が大きくクローズアップされ政治問題化していった。そんなときでも彼を前面に出すことなく、すべて自分の問題として必を前面に出すことなく、すべて自分の問題としている。その懐の深さを知っておく必要があるだろう。

た(検討使と揶揄された)過去を反省し、これからは保守でのように他人の話を聞くだけで行動に結びつかなかっ安倍氏の国を思う志を誰が引き継ぐのか。岸田氏も今ま

倍氏の魂も浮かばれない。 自民党の党首に相応しい行動を示してもらわなければ安

## 四、胡錦涛氏の途中退席を推理する

このようなハプニングが起きたのは異例だった。胡錦涛氏 我 最 席させられたのである。後になって共産党が発表したとこ は習氏の 根回しが終わっていてシナリオ通りに進むものなのだが、 制 は退席を拒否しなかったはずである。自分の体調は自分が ろによれば健康上の問題というが、もしそうなら胡錦涛氏 家主席の胡錦涛氏が突然退席した。自らの意志ではなく退 後の行動指針などが採択された。その直前、 っていたからだ。通常こうしたセレモニーはすべて事前の んでいた党幹部の中で習近平氏の左隣に座ってい 一三日まで行われた。二二日には中央指導部の人事案と今 「々に分かるのは当然ながら外国メディアのカメラが入 的に立たせ、会場から連れ出したのだった。この事実が もわかる。実際には習氏のボディガードがやってきて強 第二○回共産党全国大会が令和四年一○月一六日から ボディガードともう一人 (公安部の局長らしい) ひな壇に居並 た前国

> 怖れているかのようだった。 怖れているかのようだった。 の二人に連れられひな壇の後方を歩いて退出したのだが、 の二人に連れられひな壇の後方を歩いて退出したのだが、 の二人に連れられひな壇の後方を歩いて退出したのだが、 の二人に連れられひな壇の後方を歩いて退出したのだが、

では、 では、 の想像では、 がは、 がの想像では、 がの想像では、 がの想像では、 がのがであっても、 のがでは、 がのがであっても、 自分の腹ひとつで退出さる のがではないか。 私はすべて習氏の演出であると思 あって初めて面子が保たれるから胡錦濤氏の演出であると思 されない。 されない。 されない。 されない。

ちが集まった北戴河会議で事前に見せられた人事案と今氏を押しとどめようとしていた。恐らく胡錦濤氏は長老た書氏は、習近平氏からファイルを奪おうとしている胡錦涛書は、習近平氏からファイルを奪おうとしている胡錦涛 一方、そのとき胡錦涛氏の左隣は現在のチャイナセブン

シェを思い起こさせるではないか。

で、日本の細川幽斎やフランス革命時のジョゼフ・フーった。日本の細川幽斎やフランス革命時のジョゼフ・フーった。そして今回の人事でもチャイナセブンとして生き残った。そして今回の人事でもチャイナセブンとして生き残いだ。そして今回の人事でもチャイナセブンとして生き残った。日本の細川幽斎やフランス革命時のジョゼフ・ファンスを思い起こさせるではないか。権力闘争の荒海の中を巧み

く、習近平氏の一〇年間のうちに時には反対意見を述べたご機嫌を取り結べなかった栗戦書氏は退任となった。恐らにはそのように見えた。結局、今回の人事でも習近平氏のうのでは権力闘争に勝てないとでも教えているようだ。私栗戦書氏のように考えていることが透けて見えてしま

は危ういと言わざるを得ない。
はたていと言わざるを得ない。
はたていと言わざるを得ない。
はたのいと言わざるを得ない。
はたのいと言わざるを得ない。
はたのいと言わざるを得ない。
はたのいと言わざるを得ない。

## 五、クリミア橋爆破を推理する

ロシアにとって極めて重要な意味合いを持つ。占領したクルを握り、橋を渡るドライバー第一号となった。この橋は時プーチンはことのほかご満悦で、自らトラックのハンドキロのロシアのみならずヨーロッパ最長の橋である。その着工し三年後の二〇一八年五月に竣工した。全長一八. 一クリミア橋(別名ケルチ海峡大橋)は二〇一五年五月に

や軍需物資を輸送する重要なインフラとなったのだ。リミア半島に移住したロシア国民の生活物資や軍の弾薬

中で起きた事件だった。

中で起きた事件だった。
□で起きた事件だった。
□で起きた事件だった。
□部は海に崩落した。プーチンの面子が潰れたことは言うまでもない。それでなくともロの面子が潰れたことは言うまでもない。それでなくともローで起きた事件だった。

ナ側 ぎる。 ナと考える。 上 するのがふつうだ。だが、そうは言っても、 発信された。ある種のプロパガンダではなかろうか。 なことに報告をしている模様はテレビ中継され、全世界に 勿論犯行はウクライナ特殊部隊によるものとされた。 手法も判明し、直ちに委員長からプーチンに報告された。 しその詳細はいまひとつ明らかにされていない。ウクライ ンの特命による、事件の調査委員会の調査結果公表が早す がった。 この事件の犯人は誰 3の犯行と特定されれば、堂々と世界にその詳細を喧伝 . は犯行グループ八人が拘束されたとの情報が確 わずか二日後には犯行ルートも犯人グループもその しかしこれは俄に信用できない。 ところが、どうも不自然なのである。プーチ か? ふつうなら敵側のウクライ 二日後の一二 い つものよう 異例 しか かに

にプロパガンダではないのか。

私の推理するところは、これはロシア国内の反プーチン派の犯行である。プーチンを大統領の座から引きずり下ろはその事実を早くも知って、すぐさまこの話題から国民のはその事実を早くも知って、すぐさまこの話題から国民のに行った。だから爆破の二日後には報復と称してウクライに行った。だから爆破の二日後には報復と称してウクライン国内の主要都市にミサイルによる無差別爆撃を始めたのだ。完全に非人道的な行為だ。犯人グループの特定がまのだ。完全に非人道的な行為だ。犯人グループの特定がまのだ。完全に非人道的な行為だ。犯人グループの特定がまいに飛んでしまった。犯行グループはこの動きも事前に予いに飛んでしまった。犯行グループはこの話題から国民の関していたように思う。さらにこの無差別攻撃が世界の、とくに西側諸国の反発に発展することも予測していた。案とくに西側諸国の反発に発展することも予測していた。案とくに西側諸国の反発に発展することも予測していた。案とくに西側諸国の反発に発展することも予測していた。案とくに西側諸国の反発に発展することも予測していた。案とは、アメリカを対象を表していたように、これはロシア国内の反プーチン派の犯行とない。

からではないのか。つまりプーチンも戦争を続ける意志がンスキーを停戦交渉の相手方代表として必要としている古、キーウを爆撃した際、大統領府を攻撃してゼレンスキところでもうひとつ不可解なことがある。プーチンは何

こうとしない。もしそうなったら、本当に世界は滅亡へと う。そろそろ停戦に入りたいのではないか。しかし恐いの もそこまでバカではない。プーチンにも子どもはいるだろ もし停戦交渉が不調で、ますますロシアが追い込まれれば はイエスマンで溢れかえっているし、誰も危険なクジを引 う。その子たちを犠牲にしてまで、まして自分の命も祖国 言えないが、敗北を完全に意識した結果ではなかろうか。 は私のあくまで推測である。ロシア国民には口が裂けても 減退しそろそろ止めたいと思い始めたのではないか。これ 向かう。 ロシアも消えてなくなる無謀な選択は取りたくないだろ いよいよ核の登場になりかねない。しかしプーチンにして プーチンの老齢から来る判断能力の低下である。周囲

取るのか、現時点ではまったく予測がつかない。 でにプーチンを正常な交渉相手とは考えていないのであ ン以外なら交渉に応じると言っている。ゼレンスキーはす さて、その停戦交渉だが、一方のゼレンスキーはプーチ これも危険なことではないか。戦争終結がどんな形を

### 「印旛文学の会」について

・本会は、「印旛文学の会」と称し、文芸 年に二回発行する等の文芸活動を行う。 「草の丘」

文芸「草の丘」は、 とともに、ウェブサイトに全文を発表する 簡易製本の冊子を若干部発行する

会員は、印旛地域に関係がある、もしくは関心がある 人で、詩や小説、 随筆等を創作し発表する者とする。

会員は、年会費千円を負担すること。年会費では対応

できない費用が発生した場合には、会員はその費用を

会員は、自作の未発表作品を投稿できるが、 分担するものとする。

掲載に

作品の長さについては特に規定しないが、一回に掲載 できる枚数は、 ついては編集会議でその可否を検討する。 原稿用紙で一〇〇枚以内とする。

その他、 会の運営に関する重要事項の変更については、

合評会等の場で、会員に諮って決するものとする。

<u>J</u>

### 「伊能忠敬と四人の妻」の連載を終えて

香取 淳



第である。

今回ほど反響が大きく、 ニュータウンNEWS、さらには伊能忠敬研究会のホ 想した以上に大きく、本を贈呈した千葉日報社や千葉 県が生んだもっとも著名な偉人であるためか反響は予 オンデマンド出版する運びとなった。伊能忠敬は千葉 に重複した部分の削除等の手を加えて、 いだ物書きを続け、 してきた『伊能忠敬と四人の妻』 ムページなどで紹介して頂いた。三十年以上ものあ 本誌の第17号から筆を起し、 改めて伊能忠敬の偉大さや魅力に気付かされた次 単行本の出版も三度目になるが、 評価されたことは殆どなかっ が前号で完結。 6回にわたって連 単行本として 同時

た。しかし、その一つ一つを小説の中に書き込むこと渉猟の過程で、私なりの発見や気付きが数多くあっから多くの史料を入手した。それらの現地取材や文献から多くの史料を入手した。それらの現地取材や文献小関や育った小堤、入婿した佐原に何度も足を運び、小関や育った小堤、入婿した佐原に何度も足を運び、本著を執筆するに当たっては、忠敬の出生地である

だけが認識したうえで書き進めてきた。 と思い筆を執った。 見や気付きについて、この機会に書き留めておきたい は困難(小説の体をなさなくなる)であり、大半は著者 ?舞台裏」とも言うべき事柄であるが、その新たな発 いわば 創作

離

W

### 執筆の動機とプロセス

村の 度の 私は 居仕事として、 界中の人々が刮目するような偉業を成し遂げることが ているうちに素朴な疑問が生まれてきた。 された天体観測や測量の機器、さらに絵地図などを観 娘の夏休みの課題に付き合って、 来たのか? 伊能忠敬に興味を持つようになったのは数年前、 知識しか持っていなかった。 問したことに始まる。それまでは忠敬について、 「日本の正確な地図を初めて作った人」という程 商人に過ぎなかった忠敬が、 である。 しかも、 五十歳を過ぎてから始めた隠 しかし、館内に展示 忠敬の旧邸や記念館 日本はもとより世 何故、 佐原 孫

確たる自信はなかった。

壮年期の生き様についても不詳、 埋めてみたい……という願望が沸々と湧いてきた。 れず、 いたらしい等の情報を知ると、 ebサイトなどで、 そのような疑問は旧邸や記念館を出た後も脳裏から むしろ膨らんでゆくばかり。 彼の幼少期が謎めいていて、 とりわけ四人もの妻 それらの空白部分を そして、 書籍や

が

究家で、 なったが、小説として終わりまで書き上げられるか、 ている。 あるが、 男著 そのような折に、古書店で『新考 伊能忠敬』(伊藤 崙書房)という著書に出遭った。 この著書が拙著を執筆する直接のきっかけに 忠敬の生立ちや幼少期の様子を詳しく記録し 忠敬が育った神保家に近い横芝光町の歴史研 著者は故人で

会の酒井右二氏の詳細な研究報告。 などに次々に遭遇する。 1回(忠敬が伊能家に婿入りするまで)を発表した。 で教えを乞うこともあったが、 そのような不安を抱えながら、 幸いなことに書き進む過程で多くの資料や助言 具体的には、 本誌の第17号に第 佐原の旧 酒井氏 伊能忠敬 べには直: 町 並 一みや

もらった。 もらった。 を検索、関連した情報を参考にさせてえる会報の報文を検索、関連した情報を参考にさせてが大きい。webサイトにアップされた九〇号をも超の展開、奥州紀行や妻 達の病死、二番目の妻 幸の出 風景等について、貴重な助言を頂いている。その後 私園祭等について、貴重な助言を頂いている。その後

更にストーリーを進め、隠居した忠敬が江戸に出て天文暦学を学ぶ段に差し掛かると再び壁に突き当たったらず、筆が止まってしまったのである。ところが、そこにまた救いの手が差し伸べられる。かつては忠敬である。詳しくは後述するが、氏からのアドバイスや夥いま振り返ると、実に多くの人からのアドバイスや夥しい史料・文献等に支えられて完結に辿り着いたが、中のでは、文献等に支えられて完結に辿り着いたが、市のでは、大人を惹きつける不思議な力が備わっているのでは、いまないの手が差し伸べられる。かつては忠敬と、実に多くの人からのアドバイスや夥しい史料・文献等に支えられて完結に辿り着いたが、「忠敬翁には人を惹きつける不思議な力が備わっているのでは、いい」などと思わざるを得ない展開があっるのでは、いい」などと思わざるを得ない展開があっているのでは、いい」などと思わざるを得ない展開があった。

## 最初の妻達(ミチ)の幼名と人柄

伊能家9代目当主の長曲に嫁いだ民が、夫長由の死に 伊能家9代目当主の長曲に嫁いだ民が、夫長由の死に より暇を出され、娘の達と共に多古の実家に戻されたことは史実として疑う余地がない。彼女が実家に戻された とは史実として疑う余地がない。彼女が実家に戻された で、達も母の民と共に多胡藩南中村の平山家に戻されたこ が、達も母の民と共に多古の実家に戻されたこ とにあった。長由が逝去したとき、江戸から戻ってきた だけを実家に戻そうとした。しかし、乳飲み子であった で、達も母の民と共に多胡藩南中村の平山家に戻されたこ ようである。

法華経を唱えるのはごく自然な成り行きであろう。と、大事経を唱えるのはごく自然な成り行きであろう。と、本寺の境内には中村談林という僧侶の学舎もあり、法華の高僧を数多く輩出してきた家柄でもある。加えて、日の高僧を数多く輩出してきた家柄でもある。加えて、日で少し坂を下ったところにあり、兄の季忠が当主を務めて少し坂を下ったところにあり、兄の季忠が当主を務めて少し坂を下ったところにあり、兄の季忠が当主を務めて、民が生まれた平山家は、日本寺の山門から南東

った多古の郷土史に、この地を長く支配した平山家の家の陣屋跡に近い町の図書館も訪ねてみた。そこで手に取平山家があったと思われる谷地などに足を運び、多古藩私は執筆する前に多古町の日本寺や中村談林の跡地、

系図を見出した。

には 北中の壺岡城に居城したと伝えられる。 歳になったとき、 てられたものと確信するに至った。そして、彼女が一四 家系図を見て、私は、 導者の地位にあり、領主から苗字・帯刀を許されていた。 なってゆく。その宗家である平山家は、 に分散・居住し、「平山五軒党」と称される草分け百姓に 士の身分を捨てて郷士となり、その子息たちは郷内各地 8年(一五九○)以降、最後の城主となった平山季邦は武 中世武士の末裔で、15世紀の中頃にこの地に移り住み、 その由緒ある平山家の家系図に、 『みつ』という娘がいたことが記されている。この Щ [家の祖先は武蔵平山(現東京都日野市)に始まる 伊能家の血を引く景茂と結婚。その折に、父親代 佐原の伊能家に跡取り娘として呼び戻 彼女は平山家で『みつ』として育 伊能忠敬に嫁した民 以来この地の指 しかし、 天 正 1

さいと言った」という伝説まである。

いことが綴られている。

いことが綴られている。さらに、佐原村が幕府直轄領から旗とが記されている。さらに、佐原村が幕府直轄領から旗とが記されている。さらに、佐原村が幕府直轄領から旗とが記されている。さらに、佐原村が幕府直轄領から旗とが記されている。さらに、佐原村が幕府直轄領から旗という文書には「母孝行で家事をよく助け、親戚・家族ところが、伊能家に伝えられている『旌門金鏡類録』

その手紙の一部を紹介すると、ご両家と呼ばれていたを悪妻ではなく、むしろ夫を支え、家を守るしっかり者を悪妻ではなく、むしろ夫を支え、家を守るしっかり者を悪妻ではなく、むしろ夫を支え、家を守るしっかり者を悪妻ではなく、むしろ夫を支え、家を守るしっかり者な悪妻ではなく、むしろ夫を支え、家を守るしっかり者な悪妻ではなく、むしろ夫を支え、家を守るしっかり者の妻であったことが推測できる。

にかかる。しかし、達は「母を守れるのは私しかいない」がの方家や親戚の者たちは、東になって夕ミの追い出しなって伊能家に帰ってきたとき、暇を出されていた民もなって伊能家に帰ってきたとき、暇を出されていた民も成と一緒に戻って来た。しかし、民は日蓮宗を捨てずに、民の法華経信仰にあったものと思われる。達が十四歳に民か分家や親戚の者たちは、東になって夕ミの追い出しない分家や親戚の者たちは、東になって夕ミのと思われる。とかし、達は「母を守れるのは私しかいない」をいう家や親戚の者たちは、東になって夕ミのと思われるよりである。

違いない……と考え筆を進めた。 と親戚縁者の前に立ちはだかった。二十歳にもならない と親戚縁者にいますが、家の中まで立ち入ること は許しません」と猛者たちの言い分を撥ねのける。退け られた親戚縁者たちは口を揃えて、「跡取りであること は許しません」と猛者たちの言い分を撥ねのける。退け のことはお任せしていますが、家の中まで立ち入ること の親類縁者たちが捏造して村人たちに吹聴した結果に の親類縁者たちが捏造して村人たちに吹聴した結果に の親類縁者の前に立ちはだかった。二十歳にもならない

# ■少年三治郎の知的遍歴と義父となった平山季忠

· 婿入りだけでなく、

後々まで影響~

さらには土浦の医者にも弟子入りをしたとの記録が残て、和算に長けた和尚のいる常陸の寺や多胡藩の藩医、過ごすことは少なく、親戚の家などを転々とした。そし十歳時に父のもとに戻っても、三治郎は小堤村の家で

三治郎の遊学は成り立たない。ところが保護者である父 季忠しか考えられない。 問えば南中村の名主で、多古藩の下役人でもあった平山 社会的地位もなかった。しからば、誰が、三治郎を? 寄せて暮す身。とても三治郎を遊学させるような財力も 神保貞恒は婿入り先から離縁されて兄宗・載の家に身を 治郎によく言い聞かせたうえで送り出さなければ少年 であろうか? らそのような先を見つけ出し、弟子入りすることが可能 されている。 しかし、十歳を過ぎたばかりの少年が、 やはり、 誰かが修学先を見つけ出し、 ط 三 自

うニンジンを鼻先にぶら下げて三治郎を動機づけた。忠は、当時の最先端の学問である「蘭学が学べる」といさせたものの、なかなか食いつかない。そこで、平山季

では、 一定の発想は、伊藤一男氏の著書に由来する。氏による その発想は、伊藤一男氏の著書に由来する。氏による その発想は、伊藤一男氏の著書に由来する。氏による その発想は、伊藤一男氏の著書に由来する。氏による その発想は、伊藤一男氏の著書に由来する。氏による その発想は、伊藤一男氏の著書に由来する。氏による その発想は、伊藤一男氏の著書に由来する。氏による と、三治郎は常陸の「アソン」という学者の下で修業し なかったかと推論しているが、私は「阿蘇氏」と想定し なかったかと推論しているが、私は「阿蘇氏」と想定し なかったかと推論しているが、私は「阿蘇氏」と想定し なかったかと推論しているが、私は「阿蘇氏」と想定し なかったかと推論しているが、私は「阿蘇氏」と想定し ないる」と言えば、三治郎は目の色を変えて飛びつくこと でる」と言えば、三治郎は目の色を変えて飛びつくこと では ないる」という筋書きである。

江戸までは直線距離でも80キロ以上もあり、徒歩ではるが、これは現実的な話ではない。何故なら、佐原から学問が好きで江戸湯島にある学問所まで通ったとされまた、一説によると、忠敬は伊能家に婿入りした後に、

た方が自然であろう。 そうなると「若い頃に学問にこころざし……」という た方が自然であろう。

谷から諱を授かった理由は、三治郎が伊能家に婿入りす肩書は、当時としては最高レベルの学歴に相当する。鳳さらに、「林鳳谷から諱を授かった門人」という忠敬の

の挨拶に出向いていることを挙げることができよう。の挨拶に出向いていることを挙げることができよう。 きた、隠居後に高橋至時に弟子入りしたいと願った折も、また、隠居後に高橋至時に弟子入りしたいと願った折も、また、隠居後に高橋至時に弟子入りしたいと願った折も、忠敬の高い学歴がプラスに働いたことは否めないと思われる。その裏付けの一つとして、忠敬は大学頭の林家われる。その裏付けの一つとして、忠敬は大学頭の林家との繋がりを大切に保ち続け、隠居後も欠かさず年始等との繋がりを大切に保ち続け、隠居後も欠かさず年始等との繋がりを大切に保ち続け、隠居後も欠かさず年始等との繋がりを大切に保ち続け、この肩書は義父季忠がるための『箔付け』とされるが、この肩書は義父季忠がるための『箔付け』とされるが、この肩書は義父季忠が

### 二番目の妻の名は?

とする訳にもゆかず、多くの文献を調べ、さらに前出のけである。拙著を書くに当たって、彼女の名を『妙諦の苔むした墓碑に『妙諦信女』と戒名が残されているだの苔むした墓碑に『妙諦信女』と戒名が残されているだの がした墓碑に『妙諦信女』と戒名が残されているだのがした墓碑に『妙諦信女』と戒名が残されているだいがある。ただ、香取市佐原の観福寺に葬られた彼女をする訳にもゆかず、多くの文献を調べ、さらに前出の書の書いていては記録がなく

酒井右二氏にも訊いてみた。しかし、何一つ記録は残されていないる。

に徹することになる。

し、与えられた職務に全身全霊を傾ける生き方には唯々誠を尽くしたことが明らかになってきた。彼の番頭に徹調べれば調べるほど、コウの父柏木久兵衛が伊能家に忠かくして二番目の妻の名が決まったが、多くの資料を

戸で産み落とした子をいきなり伊能家の跡継ぎに据え七の将来を託す。伊能家の親族は、見ず知らずの女が江き、昌雄が死去。寡婦になったアサは、伊能家に遺児 幸男)で、忠敬より9歳年上になる。幸七が7歳になったと居後、アサという女性と再婚して生まれた子(昌雄の三幸七は、伊能家7代目当主の昌雄が隠居して江戸に転幸七は、伊能家7代目当主の昌雄が隠居して江戸に転

七は、その生涯を閉じるまで伊能家の番頭としての職務産分与付きの養子として柏木家に迎え入れる。以来、幸番頭の柏木家に男子がいなかったこともあり、幸七を財る訳にもゆかず、困り果てた。そして協議を重ねた末、

関係は、 は、 恐れ多い、 防工事や飢饉時の救民などに奔走する忠敬を一身に支 なく当主となった忠敬に仕え、家業や村政、洪水後の場 住の宿場まで見送りに出向いている。 幸七店の離れ家を提供。 隠居して江戸に移り住む折には、 え続ける。 に行くときから始まる。それ以来、幸七は途切れること 次測量のときには、老体に鞭打って、息子を連れて千 17歳で伊能家に婿入りをした忠敬と幸七との 愛娘のコウを後添えに差し出し、 婚礼の前日に幸七が多胡の平山家まで婿を迎え 内縁で十分」と私欲を捨てた神対応。 忠敬が先妻 達の病死で寡夫になったときに さらに、 黒江町に所有していた 忠敬が蝦夷地に赴く第 しかも「正妻など 忠敬が

までに当主の忠敬に尽くしたのであろうか? そのよ 伊能家の直系に生まれながら、幸七は何故、これほど

## - 三治郎はギフテッドであった?

寺小屋に行くことも嫌いになって、海辺の浜納屋に一人たが、何時まで経っても叔父夫婦になつかない。さらにって行く。一人取り残された三治郎は叔父に引き取られた歳の時に母が病死し、それを機に婿養子であった父は六歳の時に母が病死し、それを機に婿養子であった父は元の小関家に生まれ、幼名を三治郎と言った。しかし、元の小関家に生まれ、幼名を三治郎と言った。しかし、元の小関家に生まれ、幼名を三治郎と言った。しかし、元の小関家に生まれ、幼名を三治郎は叔十九町)にある網忠敬は九十九浜にある小関村(現九十九町)にある網

をたて始める。籠って時を過ごしていた。それを見た村人たちが悪い。

にしている」と養子に貰った三治郎を、こともあろうか浜納屋の番人「網元の小関家はひどいじゃないか。跡取りにするから

三治郎を小堤の父の許に帰してやる。ずに、三治郎が一○歳になった時、養子縁組を解消して、小関村の名主でもあった叔父はその悪評に耐え切れ

算が得意で、大人も顔負けするほどの力を既に身に着けり住んだ翌年の秋に、江戸から役人が二人、泊りがけである。その年貢率の算定を飽きもせずに見守っていたである。その年貢率の算定を飽きもせずに見守っていたである。その年貢率の算定を飽きもせずに見守っていた三治郎は、作業にくたびれた役人たちはその年の稲作の出来具合を見ない年貢率の算定を楽々とやってのける。専門の役人にといても厄介な計算を、僅か十一歳の少年がたやすく行うのを見て、役人たちは大そう驚いたという。三治郎は和のを見て、役人たちは大そう驚いたという。三治郎は和のを見て、役人たちは大そう驚いたという。三治郎は和のを見て、役人たちは大そう驚いたという。三治郎は和のを見て、役人たちは大そう驚いたという。三治郎は和のを見て、大人も顔負けするほどの力を既に身に着けり住んだ翌年の様に表するほどの力を既に身に着けりはいた。

て、親戚縁者の間を転々として過ごしたようである。いかなかったが、父の再婚後はますます家に居辛くなっった。もともと三治郎は小堤に戻った家族とはしっくり狭かった家はさらに窮屈になって、三治郎は居場所を失ていたのである。翌年、生家に居候していた父が再婚。

である。

述べることにしよう。まだよく知られていないので、先ずギフテッドについて思った。とは言っても、ギフテッドという言葉や概念が、思った。とは言っても、ギフテッド』であったに違いないと近注目され始めた『ギフテッド』であったに違いないとこの幼時のエピソードを知ったとき、私は三治郎が最

ため、最近ではギフテッドの子を持つ親たちは、カナダ、 大力・では、カーが、 では、知能の発達がとびぬけて早く、独創的ではあるも では、知能の発達がとびぬけて早く、独創的ではあるも では、知能の発達がとびぬけて早く、独創的ではあるも ではずかない。とくに、わが国の場合はすべての児童 まくはゆかない。とくに、わが国の場合はすべての児童 まくはゆかない。とくに、わが国の場合はすべての児童 ため、最近ではギフテッドとは天から与えられた優れた能力、日本古 だり、最近ではギフテッドの子を持つ親たちは、カナダ、

させて、天賦の才を伸ばすような取り組みを始めたようアメリカ等のギフテッド教育の先進国に我が子を留学

ごく普通の中学生という印象であった。ところが、その その時中一であったが、小学校までは大阪で育ったため たという話を、 た」という訃報が入ってきた。何が原因で自殺をしたの F君が、父の転勤で大阪に戻った中三の秋に、「自殺をし である。 蔵王温泉に一泊で連れて行き、スキーの初歩を教えたの スキーの経験がまったくなかった。そこでF君を山 お子さんのF君にスキーを教えることになった。F君は た私は、上司で大学の先輩でもある課長からから頼まれ もない頃のことである。営業職として仙台市に配属され から、もう少し分かりやすい実例をご紹介しよう。 ったが、スキーの修得度合いは早くもなく遅くもなく それは、私が大学を卒業して、製薬会社に就職して間 しかし、これでもまだ読者にはピンと来ないであろう 担任の教師や両親にも解からない、 F君はおとなしくてよく目の動くお子さんであ 遠く仙台で聞くことになった。 謎の自殺であっ

時間 たという。 任の教師、 いなかった。そのため、彼が何故死んだのか、両親や担 学校でのいじめやトラブルは一切なく、遺書も残されて 足台にした椅子を蹴って自殺を決行。原因を調べたが、 が、ある秋の日に、自宅の梁にロープを掛けて首に結び、 たため、生徒たちに大変な人気があったという。ところ れるの」と彼を取り囲む。先生以上に知識が豊富であっ みになると友人が「F君、 と天文学の書物を買って読み漁る。 から詳しい 君は頭が抜群に良くてテストの成績は全科目が満点、 後日、 [があれば丸善などの専門書店に行って、好きな哲学 大阪に出張した折にF君の家を訪ね、 親しい級友たちも誰一人として分からなかっ 事情を伺う機会があった。その母によると、 今日はどんな話を聞かせてく 学校生活では、昼休 彼の母親

テッドは鋭い神経や感受性が災いして鬱に陥りやすく、れらの報告によると、自殺は良く起こるケースで、ギフになってギフテッドに関する報告が幾つか出始めた。そたく「謎の死」と言うほかはなかった。ところが、最近今から五十年も前に起こった不幸なので、当時はまっ

解明されてきた。 中には自殺に至るケースも珍しくはない、ということが

を敬の幼少時に話を戻すと、三治郎が母の死後、小関忠敬の幼少時に話を戻すと、三治郎が母の死後、小関忠敬の幼少時に話を戻すと、三治郎が母の死後、小関忠敬の幼少時に話を戻すと、三治郎が母の死後、小関忠敬の幼少時に話を戻すと、三治郎が母の死後、小関忠敬の幼少時に話を戻すと、三治郎が母の死後、小関忠敬の幼少時に話を戻すと、三治郎が母の死後、小関忠敬の幼少時に話を戻すと、三治郎が母の死後、小関忠敬の幼少時に話を戻すと、三治郎が母の死後、小関忠敬の幼少時に話を戻すと、三治郎が母の死後、小関忠敬の幼少時に話を戻すと、三治郎が母の死後、小関忠敬の幼少時に話を戻すと、三治郎が母の死後、小関忠ない。

本となり得るもので、現代社会においても大いに参考にをさせる。そのプロセスは『ギフテッドの育て方』の手際立った資質に気付いて、色々な育成法を我慢強く試みいて、異戚の平山季忠に三治郎の将来を託す。湯島見抜いて、親戚の平山季忠に三治郎の将来を託す。湯島をさせる。そのプロセスは『ギフテッドの育て方』の手をさせる。そのプロセスは『ギフテッドの育で方』の手をさせる。そのプロセスは『ギフテッドの育で方法の手法の学問ができます。

なるように思える。

たか、というのが私の揺るぎない考えである。たとしたら、三治郎は下総のどこかで変死あるいは『変なっては三治郎少年がギフテッドであったか否かを確なっては三治郎少年がギフテッドであったか否かを確なっては三治郎少年がギフテッドであったか否かを確かめる術はないが、少なくともそれに類した少年であったことは間違いないであろう。その様な観点から、偉人をことは間違いないであろう。その様な観点から、偉人をことは間違いないであろう。その様な観点から、偉人をとしたら、三治郎は下総のどこかで変死あるいは『変たとしたら、三治郎は下総のどこかで変死ある。

ら鬱に陥ったのではないか……と考えれば流れはスムを鬱に陥ったのではないか……と考えれば流れはスムとしては先ず結核が想定されるが、経過からするとさほながら書き進むうちに、「ギフテッドは鬱に陥りやすい」ということに気が付いた。恐らく、若かった忠敬は伊能ながら書き進むうちに、「ギフテッドは鬱に陥りやすい」ということに気が付いた。恐らく、若かった忠敬は伊能家に入また、これに関連した記録として、忠敬は伊能家に入また、これに関連した記録として、忠敬は伊能家に入また、これに関連した記録として、忠敬は伊能家に入

看病に当たった達に言わしめた。 定して、拙著では、「お前様は心の病だと思いますよ」とかるというが、忠敬が陥った長患いは鬱によるものと想ーズになる。鬱の症状は多くの場合、恢復に半年ほど掛

## ■ 桑原隆朝にまつわる疑問

三番目の妻『お信(ノブ)』の父で、伊能測

量のキ

1

関係 されている。しかし、忠敬が隠居して江戸に居を構える よび80号)に詳しい。具体的には蝦夷地に向 か』と疑問を述べ、 の墓と過去帳の記載と忠敬の書簡以外に、伊能家に桑原 前については資料が乏しく、 に動いたり、アドバイスをしたりする記録が克明に紹介 過程等で、忠敬・高橋至時と幕府との間に立って精力的 次測量の実現から伊豆を起点とする第2次測量に至る 由紀子氏や前田幸子氏の研究報告(会誌16~18号お ンとなった桑原隆朝については、伊能忠敬研究会の安藤 の史料が一切残されてい その理由を「この家を再興した伊能 前出の安藤氏は『ノブさん ないのはどうしてだろう かう第

朝の言い分がよく理解できたであろうし、その約束を頑切の言い分がよく理解できたであろうし、その約束を頑切の言い分がよく理解できたであろうし、その約束を頑切の言い分がよく理解できたであろうし、その約束を強いたのでは」と考えてみた。さらに、この仮定を推し進めると、隆朝は伊達の御典医であり、藩主・大名や重臣が、医者の守秘義務は古今東西を通じて普遍的な鉄則で交わした話は一切口外無用、日記等にも書かないでくれ」を予め釘を刺した……ということは十分に考えられる。と予め釘を刺した……ということは十分に考えられる。とかのでは」と考えてみた。さらに、この仮定を推し進めると、隆朝は伊達の御典医であろうし、その約束を頑切ったのでは」と考えてみた。さらに、この仮定を推し進めると、隆朝は伊達の御典医であろうし、その約束を頑切ったのでは」と考えてみた。さらに、この仮定を推し進ったのでは」と考えてみた。さらに、この仮定を推し進ったのでは」と考えてみた。さらに、この仮定を推し進ったのでは」と考えてみた。さらに、この仮定を推し進ったのでは、というには、この仮定を推し進ったのでは、この仮定を推し進った。

いたような感覚に陥った。
いたような感覚に陥った。
また、妻ノブや妻の実家のなに守り通したと思われる。また、妻ノブや妻の実家のなに守り通したと思われる。また、妻ノブや妻の実家のなに守り通したと思われる。また、妻ノブや妻の実家のなに守り通したと思われる。また、妻ノブや妻の実家のいたような感覚に陥った。



102

## ■桑原隆朝と堀田正敦との出遭いは?

なったのであろうか? 敦はどのようにして刎頸の仲ともいえるほど親密に き上げ、 った」というだけではとても納得のゆく説明にはなら したことは違う余地がない。 く過程には、 忠敬を佐原の一 江戸生まれの しかも、 世界中が刮目するような偉業を成し遂げてゆ 桑原隆朝と若年寄堀田正敦が大きく関与 父から 商 江戸育ち。 人から一躍幕府の天文方へと引 『桑原隆 「二人が共に伊達藩の であるならば、 朝 堀 田田 を襲名した 正 敦は伊達藩 隆朝と正 出であ

> 言っても、 過ぎるまで仙台を出たことがない。 0 子供三人がいたものの、 なることを望んでいた。 では夢が叶わないので、 研究報告『伊能忠敬 敬研究会会誌の第82号に掲載された前田幸子氏 村の8男で、 記述が目に飛び込んできた。その報文によると、 「公方様にお仕えしたい」と言っていた村由は、 時であり、 大きな望みが叶ったのは天明6年3月。 そのような疑問を抱きながら書き進むさなかに、 交流の機会はまったくなかったと思われる。 両者は遠くかけ離れた地に生まれ育っ 堀田正富の婿養子に入り、 1万石の大名中村村由として、 周辺の人⑦ 堀田摂津守正敦』 そのため、妾 譜代大名か旗本家の婿養子に 正室は娶っていなかった。彼 同じ伊達藩 (側室) 二人と 同時に正 村由32歳 30歳 :所属と 富 0 Þ

可を得なければならなかったからである。そこで村由は、敷に住むことは出来なかった。幕府から正式に婚姻の許る思いで故郷を後にしたが、江戸に着いても堀田家の屋村由は「もう二度と帰ることもあるまい」と胸塞が娘とも婚約を取り交わした。

仮寓することになる。村由は浪々の身を伊達の下 仙 することは極めて自然な成り行きであろう。 た村由が現れる。隆朝が村由に強い関心を抱き、 朝の眼前に、「公方様に仕えたい」と1万石の大名を捨て 甲斐なさを嘆き、気骨のある人物を探していた。その隆 出入りをしていた。隆朝は日頃から大名や旗本たちの不 過ごすことになるが、その下屋敷には藩医の桑原隆朝が 台から連れてきた妾や子供と共に伊達の下 急接近 <u>-</u>屋 屋 敷 一敷で に

なく深まってゆく。 由を「この人物なら」と見込んで距離を縮めてゆく。二 の通じた要人を幕府内に持ちたい隆朝が、才気溢れる村 していて、何事も包み隠さず話してくれる。 いて何も知らず、仙台弁で周囲との会話さえ不自由であ 入府した村由は、 ったに違いない。 そのような交流を重ねるうちに二人の仲は果てしも 間には互いに強く引き付け合う理由や根拠がある 飛び上がるほど嬉しかったことをよく覚えている。 報文のこの個所を目にしたとき、思わず声を上 その村由が知りたい情報に隆朝は精通 恐らく公方様の実像や幕府の内情につ 一方、 気脈

> が、 り、 明 7 あったことになる。これを契機に二人の関係は益 2ヵ月余りの期間、二人はかなり自由に交流する機会が から麻生白金の 村 その端緒は「伊達下屋敷にあった」と想定して私は 伊能忠敬も巻き込んで揺るぎないものになってゆく 年の5月。彼は名を堀田正敦と改め、 由 田の堀田・ リーを書き進めた。 家への婿入りが幕府に承認され 堀田邸に移り住むが、それまでの 伊 達の たの 一々深ま 下 1 は

### 「エイとの至福の暮らし」を捨てて、 地図作りを?

ス

き当たった。彼女については確たる史料が見当たらず、 きた。今回の小説においても、そのスタンスに変わりは 他 ないが、 ら最後まで、 !の妻女と同じように描くことが難しかったのである。 その様な折に、 私は40歳前後から小説を書き始めたが、 四人目の妻女『エイ』を書く段になって壁に突 同じ密度やテンポで描くことに気を配って 私のパソコンに一通のメールが飛び込 常に最初か けは熱く伝わってきた。 が如何に天文学に魅せられ没頭したか、その真摯な姿だ 度では理解できなかったが、 中心に、 もおよび、忠敬が夜を徹して観測した星々の赤道緯度を を添付して下さった。氏が送ってくれた冊子は83頁に を写し取り、 冊子『伊能忠敬の科学的アプローチ〜星を鏡に瑞穂の国 頭する情景を描いては……」という助言と共に、 んできた。 - 黒江町の隠宅でエイに助けられながら天体観測に没 天文学の専門的な記述の連続である。 伊能研究会の戸村茂昭氏からである。 地図に仕上げた天文学学士 繰り返し読むうちに、忠敬 伊能勘解 一度や二 貴重な 氏は、 由~』

途中で違っていたとなると、作者は出発点に立ち戻って、が究めようとしたのは天文学、当時の暦学であって地図が究めようとしたのは天文学、当時の暦学であって地図小説を書き始めた。ところが、戸村氏の資料では、忠敬小説を書き始めた。ところが、戸村氏の資料では、忠敬い説を書き始めた。ところが、戸村氏の資料では、忠敬い説を書き始めた。ところが、戸村氏の資料では、忠敬にいったが、同この戸村氏からの助言と冊子は大変有難かったが、同この戸村氏からの助言と冊子は大変有難かったが、同

中で覆されたことは精神的に大きな衝撃であった。直しを要することはなかったが、思っていた忠敬像が途文章全体を見直さなければならない。幸い、大きな書き

忠敬像の見直しで少しだけ、躓いたが、混乱した頭を忠敬像の見直しで少しだけ、躓いたが、混乱した頭を思い立った。



試作のミニ子午線儀

座の美しさを満喫することになった。 で表や方位コンパスを片手に、澄んだ夜空に展開する星あったが、寒さはまったく気にならない。児童向けの星あったが、寒さはまったく気にならない。児童向けの星を子午線儀で2分して眺める経験は、むろん初め

あろう……等と推測しながら書き進めた次第である。でかし見事な星の輝きを忠敬とエイは観測していたで名で表記し、リアリティを醸し出すことにも成功。当時名で表記し、リアリティを醸し出すことにも成功。当時の隠宅で夜空を観測する場面が容易に描けるように町の隠宅で夜空を観測する場面が容易に描けるようにこのような疑似体験をしてみると、忠敬とエイが黒江

好きな天文暦学に見切りをつけ、前途多難な地図作りにの日々を過ごしていたと思われる。その忠敬が、何故、めいだ抱き続けた夢がやっと叶い、隠居後はまさに至福才媛エイに支えられながら学究することになった。長いを、当時の第一人者であった高橋至時に師事し、しかもかくして忠敬は子供の頃から好きであった天文暦学

矛先を変えたのであろうか?

軽の芸 そこに測量家としては無名であった勘解由(忠敬の隠居 導き出したのである。 文暦学に夢中であった勘解由は、  $\mathcal{O}$ や堀田仁助、 掛けた。 こつけた『蝦夷地の測量』を口実に地図作りの話を持ち 問  $\mathcal{O}$ の金でやるのであればと、『測量試み』の許可が出た。 後の呼称)が名乗り出ても幕府は見向きもしない。 幕府の許可が不可欠であったため、北方領土の緊張にか ることが出来よう。諸国を跨ぐ測定を実施するためには いう師弟間のやり取りがきっかけになったことを挙げ 長さは 隆朝から若年寄の堀田正敦に頼み込んでやっと、自前 !から「江戸から蝦夷地ぐらいを測らなければ……」 その理由は、「緯度一 |厩までを歩いて距離を測量。 幕府は既に蝦夷地対策を講じていて、最上徳内 「27里余り、 村上嶋之丞等を蝦夷地に送り込んでいる 度の距離は?」という暦学上 正確には28. 喜び勇んで江戸から津 そして、子午線 2里」と距離を 0 天 疑

した数値を認めてはくれなかった。莫大な金と半年にもしかし、尊敬する師の至時は勘解由が苦心して導き出

と交わした書簡などに見られる。 域を出ない隠居として軽視していた節が盟友の間 重富さは認めても、天文暦学のレベルは初心者、常に素人のわたる蝦夷地までの測量に限らず、至時は勘解由の熱心

とっては遣り甲斐があるように思えてきた。若い時から 幕府から評価され期待される地図作りの方が、勘解由に ねても師匠のレベルには届きそうもない天文暦学。 恐らく予想もしなかった展開であったろうが、勘解由の 地よりお膝元の江戸周辺の地図をと期待を寄せてきた。 いては、その出来栄えが高く評価され、 心は大きく地図作りの方へと傾いてゆく。幾ら努力を重 ことと思われる。 (忠敬) 後世に残るような仕事を」と思い願ってきた勘解由 この至時からは隠居の慰み事と軽視される暦学より、 蝦夷地に行く口実でしかなかった地図作りにつ が、 どちらを選ぶかは、答えを待つこともない 幕府は遠い蝦夷 しか

# ■フィニッシュに『オンデマンド出版』

本誌の第17号から5回にわたって連載をしてきた、本誌の第17号から5回にわたって連載をしてきた、本誌の第17号から5回にわたって連載をしてきた、本誌の第17号から5回にわたって連載をしてきた、本がの過程で、全体の纏めについて考えてみた。取材やたりにも手間と時間が掛り過ぎる。さらにページ数が多続がでも手間と時間が掛り過ぎる。さらにページ数が多分でも手間と時間が掛り過ぎる。さらにページ数が多分でも手間と時間が掛り過ぎる。さらにページ数が多分でも手間と時間が掛り過ぎる。さらにページ数が多分では、「自費出版」も可能であるが、年金暮らしの身には、本誌の第17号から5回にわたって連載をしてきた、本述の第17号から5回にわたって連載をしてきた、本誌の第17号から5回にわたって連載をしてきた、本誌の第17号から5回にわたって連載をしてきた、本誌の第17号から5回にわたって連載をしてきた、本誌の第17号から5回にわたって連載をしてきた、本誌の第17号から5回にわたって連載をしてきた、本誌の第17号から5回にわたって表

ばISBN(国際標準図書番号)をつけて市販もできるてみると、微々たる手数料で出版をサポート、希望すれう見出しが目に飛び込んできた。それらのサイトを開い見たこともなかった『オンデマンド出版(POD)』といないかと、webを検索してみた。すると、それまではそこで印刷会社に原稿を送って、廉価で製本して貰え

わずかに8,580円)。
ックパレット』という会社に依頼、出版に掛った費用はックパレット』という会社に依頼、出版に掛った費用はを習得し、6月にPODに漕ぎつけた(具体的には『ブを習得し、6月にPODに漕ぎつけた(具体的には『ブを習得し、6月にPODに漕ぎつけた(具体的には『ブを習得した。そして、不安と期という。「そんなにうまい話が本当に?」と半信半疑で当

をしている。 今まで同人誌に掲載した短編や長編の『フィニッシュ』 今まで同人誌に掲載した短編や長編の『フィニッシュ』 をしている。 の記述を付けてきた。『纏めの自費出版』も2回ほ をしている。 のまで同人誌に掲載した短編や長編の『フィニッシュ』

末に込み入った話を付記した次第である。推測されるが、そのような人のお役にたてばと思い、文小説に限らず、詩や短歌、随筆などを書く人は多いと

その間に新たなワクチンや治療薬が登場、 三号を発行する運びとなった。 た。その「復活」を思わせる時期に、『文芸 草の丘』の第二 弱毒化も進み、人々はさほどこの感染症を恐れなくなってき あるいは停滞してから、 |新型コロナウイルス感染症により、諸々の社会活動が停止 間もなく三年が経とうとしている。 同時にウイルスの

もの。「命~ミッション」は歌詞として描かれたものであるが、 沼化してきたウクライナ戦争の平和的な解決を切々と願う 後の所感等の六編になった。冒頭の詩 全体的に寂寥感や虚無感が漂っているように思われる。 |今回のコンテンツは、詩二編と短編小説にエッセイ、 「武器を捨てて」 執筆 は 泥

どんな結末が待っているのか……。 さん』との出会いから別離までは一気に読めるが、果たして 報を知って、若き日の「苦い恋愛」を回想する筋書き。『純子 |小説『ひなげしの花』は、老齢を迎えた主人公が親友の訃

高齢者世代を適切に表す言葉が求められるが、秀逸な呼称の イライト世代」は実にいい響きである。人生百年時代を迎え、 |エッセイは安達と畑中による二編。安達が提唱する「トワ

> 編』は広範なテーマに触れているが、夫々について作者の思 11 つかも知れない。 がよく伝わってくる。 畑中の『映画の感想と書評、 時事評論五

その作業にも楽しみがあることを書いてみた。 を書くためには資料集め等に多大な努力が要ること、そして、 ■香取の連載後の所感は、 創作の舞台裏に触れた文章。 〈香取記 小説

### 【会員と連絡先】

安達 真魚 kiyonori. s@gmail. com

いんば 華子 bach.goldberg-variationen@hotmail.com

香取 淳 katorijun27@gmail.com

中川 とら nakagawatoral@gmail.com

畑中 康郎 ktakasug@am.em-net.ne.jp

### 草の丘 第二三号

発 行 二〇二二年 十二月一八日

編集兼発行人 印旛文学の会 香取 淳

連絡先(携帯)とメール 080-5533-1002

katorijun27@gmail.com

R L http//bungeikusano-oka.raindrop.jp

U